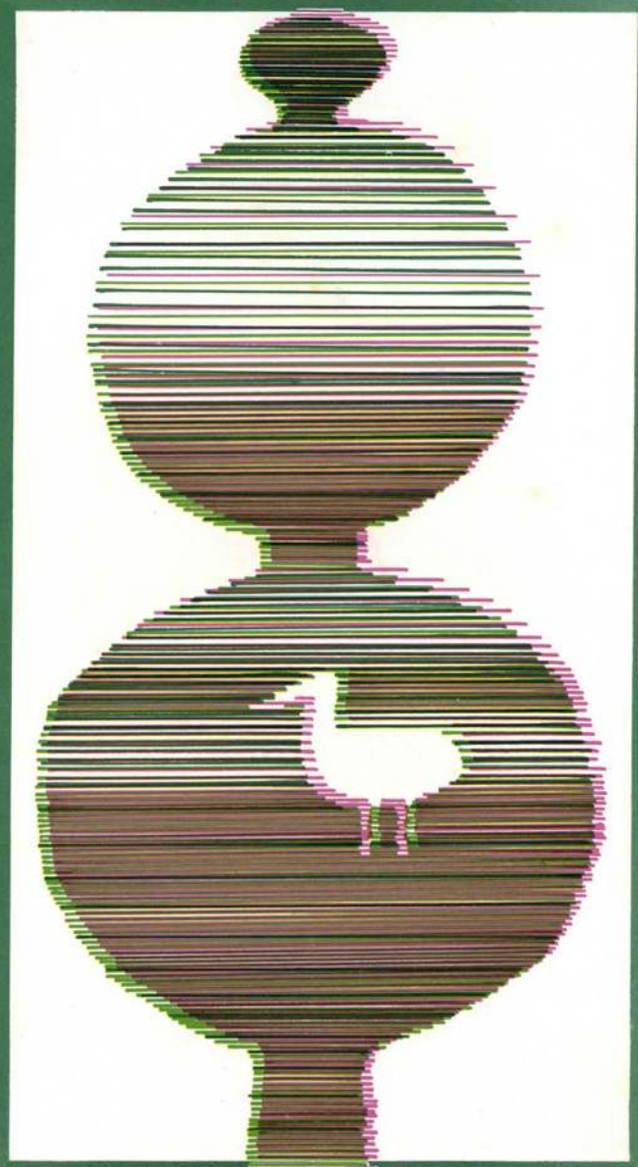
建築と社会

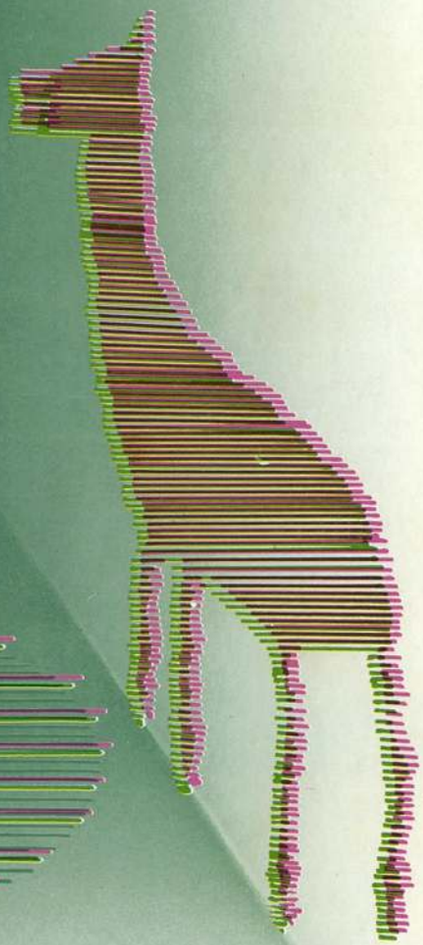
ARCHITECTURE AND SOCIETY ● VOL.52

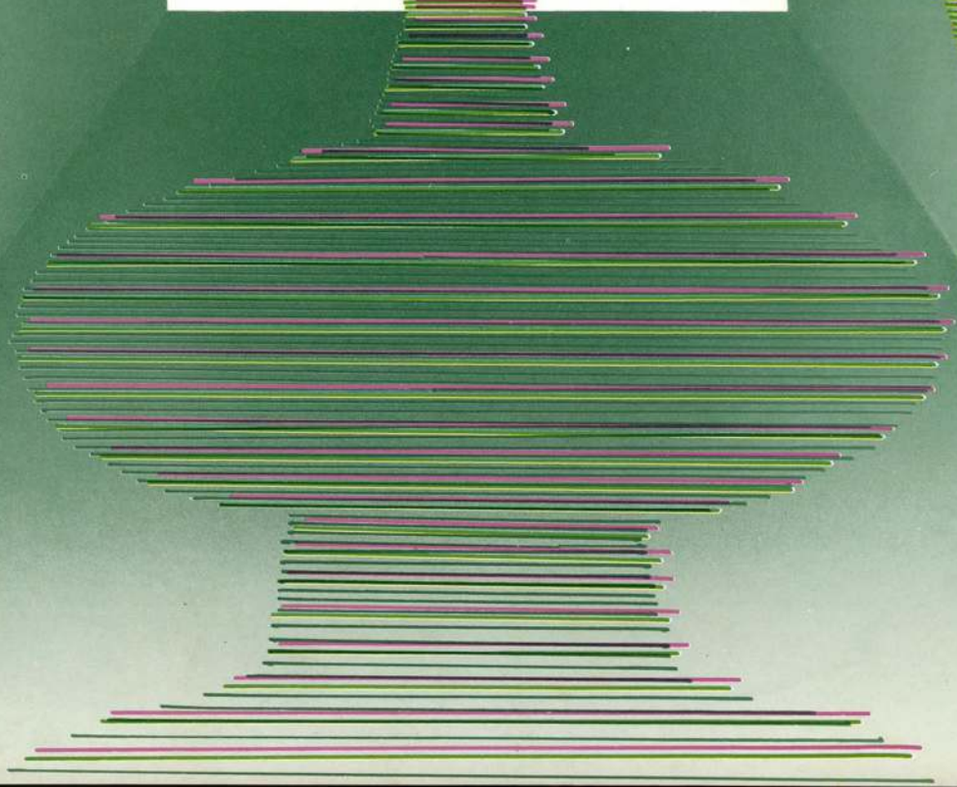
社団法人　日本建築協会
昭和46年 4 月25日発行　第52輯第 4 号
毎月 1 回25日発行
昭和24年 3 月19日第 3 種郵便物認可

特集
都市生活とみどり

1971
4
昭和46年







1 都市生活のアミニテ
イ 社会環境の新しいしくみ 2 都市と緑化運動　ビル緑化のすすめ 3 住まいの緑 4 生活環境トピックス 1 生活道路さまざま 2 都市の老人 3 子供と水 4 主婦と土 5 共同住宅と貸花壇

全米建築資材展でも注目を集めた《国際機》

クマリフト &アイレス電光時計



第9回東京国際見本市に出展

とき…4月16日～5月5日　ところ…晴海会場4号館

機種	積載量	毎分速度	カゴ寸法 W×D×H㎜	喫茶	食堂	旅館	ホテル	料亭	式場	レジャー	公共施設	高級住宅	事務所	銀行	学校	図書館	病院	商店	工場	倉庫	船舶	証券取引所	豊現営業	軽食	料理	料理材料	給食	小荷物	部品製品	材料商品
L-5	10kg	20m	280×280×400																											
J-30	30	20	500×500×600	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			■	■	■				■		■	■					
J-50	50	20	600×600×750	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			■	■	■				■		■	■					
M-50	50	30	600×600×750	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			■	■	■				■		■	■					
M-100	100	30	750×750×900	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			■	■	■				■		■	■					
M-200	200	30	900×900×1050	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			■	■	■				■		■	■					
M-300	300	30	1000×1000×1200	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			■	■	■				■		■	■					
M-500	500	15	1000×1000×1200	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			■	■	■				■		■	■					
S-150	150	20	840×1150×1200	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			■	■	■				■		■	■					
S-300	300	20	840×1150×1200	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			■	■	■				■		■	■					
M, H	80	60/20	750×750×900	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			■	■	■				■		■	■					

KUMA **クマリフト株式会社**

本　　社　大阪市東淀川区東淡路町２丁目43番地
電話：06(322)5125～6・5131～2・5141番
東京事務所　東京都台東区東上野6-1-4 イワツキビル
電話：03(844)３０３０

東京都台東区東上野６－１－４ イワキビル　ＴＥＬ：03(843)2141(代表)　クマガイ工業東京㈱／名古屋市中区東陽町７－２　ＴＥＬ：052(262)代0631　クマガイ工業名古屋㈱／京都市上京区智恵光院通丸太町上ル　ＴＥＬ：075(801)3388～９　クマガイ工業京都㈱／福岡市那珂藤原220－８　ＴＥＬ：092(41)4002代　㈱九州クマリフト／鹿児島市鴨池町486　ＴＥＬ：09922(5)4717　㈱九州クマリフト鹿児島出張所／広島市光町26城ビル101　ＴＥＬ：0822(61)3803・(31)1250　クマリフト㈱広島営業所／広島市小網町39　ＴＥＬ：0822(31)1250㈱関西機械建材社／高松市木太町宇東原608－30　ＴＥＬ：0878(62)5131(代表)　クマリフト㈱四国営業所／静岡市曲金524－１　ＴＥＬ：0542(85)7045　クマリフト㈱静岡営業所／仙台市木町９－15三協ビル内　ＴＥＬ：0222(33)6554　クマガイ工業東京㈱仙台支店／新潟市東湊町通１丁目2587　ＴＥＬ：0252(22)3389　クマガイ工業東京㈱新潟支店／長野市大字緑町1591　ＴＥＬ：02622(2)1907　クマガイ工業東京㈱長野出張所／堺市大美野146－12　ＴＥＬ：(0723)7－1392　クマリフト㈱近畿南営業所／出雲市今市町1007－４　ＴＥＬ：0853(21)0163　三和興業㈱／札幌市北一条東３　ＴＥＬ：0122(23)8611　中道機械㈱／香港徳成大厦1103室　ＴＥＬ：233201－２　㈱三精洋行／神戸市葺合区磯上通４－１－５磯上ビル　ＴＥＬ：078(25)0405　クマリフト㈱神戸営業所

アスファルトの常識をこえた床舗装材

フリントコート



弾力性・復元性・耐久性・防湿性にとくに優れ、常温で使えます。

各種工場、倉庫、駐車場、船舶などの床面に広くご活用ください。

屋根の防水用にも、どうぞ。

施工特約店

福高工業／札幌(561)3217
陽光建設／仙台(22)6278　東京(260)2609
三玄産業／東京(571)4421
鈴与・建材課／清水(53)3111
名建商会／名古屋(261)3671
ビチュメン興業／名古屋(762)1185
シェル石油・大阪発売所／東京(562)4646
大阪(303)7131　福岡(77)1961
日建工材／福岡(74)6665

シェル石油株式会社
本社・土木建設部
東京都千代田区霞が関3-2-5
電話(580)0111大代表
札幌支店　011-221-0141
仙台支店　0222-23-7147
名古屋支店　052-582-5411
大阪支店　06-203-5251
広島支店　0822-28-0581
四国支店　0878-31-1821
福岡支店　092-28-8141

SHELL

帝国ホテル新本館の1000室に大量採用された画期的な間仕切壁

乾式軽量遮音間仕切壁

KILD®

専用遮音ボード

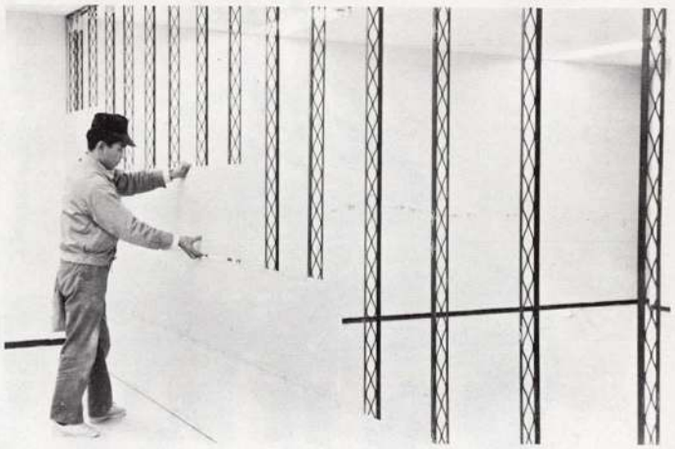
丸ツバメ遮音ボード



高層ホテルの間仕切は軽量で、遮音性にすぐれ、不燃であるなどシビヤーな条件を満足せねばなりません。KILD壁は、それら諸条件を満足するに充分な性能を備えた画期的新製品です。



この「丸ツバメ遮音ボード」は
建設省防火材料認定品です。
〔12㎜・15㎜〕……不燃材料
（認定No.1011）
〔9㎜〕……準不燃材料
（認定No.2001）



KILD壁の特徴

◎遮音性大　◎軽量　◎防火性大　◎仕上げ自由
◎配線配管自由　◎施工簡単　◎工期短縮
◎変位対応性大

KILD壁の遮音性能

遮音値　49デシベル（コンクリート176㎜厚相当）
重量　63kg/m²（コンクリート400kg/m²）

KILD壁の用途

◎高層ホテル　◎集合住宅(マンション)　◎病院
◎会議室　◎学校　などの間仕切壁に最適

＊ご一報次第カタログ進呈・但し、氏名、住所、勤務先を必ずご明記下さい＊

ボード製造

三井東圧化学(株)

本社　(〒100) 東京都千代田区霞が関　霞が関ビル
電話 (03) 581−6111(大代)
支店　大阪・名古屋・福岡・札幌

製造・販売・施工

株式会社 マンテン

本社　(〒542) 大阪市南区日本橋筋3−2
電話 (06) 632−1151(代)
東京営業所　(〒136) 東京都江東区亀戸2−3−17
電話 (03) 682−3241(代)
名古屋出張所　(〒460) 名古屋市中区宮前町4−16 東海塗料ビル
電話 (052) 262−6771(代)
福岡出張所　(〒812) 福岡市博多駅東1−12−26 岩瀬ビル
電話 (092) 43−4356
札幌駐在所　(〒060) 札幌市北三条東5−5 岩佐ビル
電話 (0122) 26−3181

会長就任あいさつ



塚本猛次

私はこの度，名会長で，建築界のために数多くの業績を残された東畑謙三先生の跡を継いで本会の会長に推薦されました。

本会が大正6年に片岡安先生を中心に関西建築協会として発足して以来，本年を以て54年となりますが，会長として片岡安先生，竹腰健造先生，尾崎久助先生そして東畑謙三先生と，四代に亘り片岡先生の創立当時の初心の趣旨を終始一貫して今日に至っております。

創立当時30数名の発起人の諸先輩が発意せられた目的は，創立当時の関西建築協会会則第一条に「我国建築界の堅実なる発展に期するに在り」とありますが，爾来歴代会長の御尽力によりまして今日では既に8000名以上の会員を擁し，会の目的も定款にある通り「建築関係各部門の連繋協力によって，建築に関する学術，技芸，事業の進歩発展を図るとともに，建築を通じ，広く社会に貢献すること」であります。

従って本会の運営においても，発起された当時の諸先輩の考えられた各自の意志によって運営された時代と異り，今日においてはむしろ確立された協会の組織と趣旨に賛同されて会員が入会して下さる仕組になっております。

会員は評議員を選任し，その評議員は理事を指名して協会の運営を委任しておりまして，その運営のためには優秀な人材と人数を擁した事務局が置かれております。

つまり協会の意志は，当然会員一人一人にありますが，それが評議員に反映し，評議員の協議に基づいて理事会が事務局を通じて本会の運営に当り，会員諸君の信任に応えてゆくこととなります。

又本会運営の費用は会員並びに賛助会員（団体会員）の会費と機関誌の広告収入及び有志からの寄付によって賄われております。これは貴重な資金を用いて運営を計っているわけで，その資金が充分に生かされてゆかねばなりません。

本会の具体的な活動はほとんどその主要なものを委員会に委ねており，各委員会はその目的に沿い，委員長を中心に委員各位の献身的な御努力により会員諸君は勿論広く社会へのサービスに努めております。会員諸君は是非各委員会並びに事務局の活動と密接な連繋を保って有益な提案，要請をなされるよう望みます。

本会の基盤となる建築界はその職域が極めて多方面に亘っており，相関連する諸問題を解決するには本会は最適の場でありますから，常に新しい問題と取組んで参りたいと思います。建築界におきましては，大学，高校の先生方，諸官庁の役職の方々，設計事務所，総合請負業，設備業，材料業，各種工事業の方々などそれぞれの職域において活動されておりますが，その職能は各異質のものがありませう。このような異質社会の結合発展こそ，本会のような複合協会の特徴ある活動の方式であると思います。

東畑前会長は本会の運営，財政の面にも心を配られ，その堅実な発展に大いに寄与されました。尚日本建築総合試験所創立を推進せられ，昨年の万国博に関しましては，業界における纏め役としての大任を果され，またデータシートの発刊など広く建築界のために熱意を傾注されました。不肖私が後任として就任いたしましても，固より浅学菲才，本会今日の姿を維持することも難しいものとおそれますが，会員各位の御支援はもとより，両名誉会長の御指導の下，副会長，理事，監事，評議員の皆様方，各委員会の委員長並びに委員各位，また，常務理事を始め事務局の諸君の御力添えを戴き微力乍ら誠意を尽したいと存じます。

どうぞ会員並びに業界各位の御協力を切に御願い申し上げるものであります。



会長退任あいさつ

東畑謙三

今回，名誉ある職，日本建築協会会長の座を退くことになりました。戦後間もなくの時期に竹腰先生の御指導のもとに，ややもすれば内気な私を引きづって頂き，当協会のお世話をさせていただいてから二十数年，会長に選ばれましてからでも七年，全く感無量の思いがあります。

日本建築協会は創立以来本年をもって54年，歴代会長，理事の御指導よろしきを得て全く光輝ある歴史を持っていますが，歴史に甘んじて泰平をむさぼれば，いつしかマンネリズムに落ちるきらいがあります。私はこれを非常に恐れた訳であります。幸いに理事，会員の皆々様の同情のある御協力を得て，会員も倍増，事業も多方面にわたり行へる様になり，何一つ心残りなく退任させて頂き，良き想出でのみ残り，この点会員の絶大な御支援に対し深甚の謝意を表します。

良き想出でと申せば，会員がますます増加したこと，雑誌「建築と社会」がよくなったこと，また建築材料資料集の発行など，毎月の仕事の充実などは無論でありますが，建築会館の新設，また関西業界の待望していました日本建築総合試験所の設立開設，また近くは万国博建設計画への会をあげての協力など，いづれも日本建築協会会長としての職があって始めて出来たことであって，私は私なりに喜びにひたっています。

私は当会会長として建築の諸会合に努めて出席しまして，痛切に感じましたことは，建築の中に同業団体や職能団体はたくさんあり，その各々がその職業，職能に応じていろいろの主張を出されること，また団体と個人との発言，発案，地位の差などで主張の差ができることであります。無論各々の職業，職能，地位に応じての主張であり，また各有能な方の主張でありますから，一つ一つは正論であり，適切な言葉でありますが，その主張に差があります。これはいたし方のないことでありますが，さりとてこのままにすまされぬ問題であります。建築全職域にわたって発展して行くためには，誰かこれをまとめて一本として活動をする必要があります。これこそ当協会の性格にあった仕事であり，また創立以来の当協会の存立の意義でもあります。

日本の産業界も近年まれにみる発展を遂げましたが，この辺で一服と言うところ。わが建築界は幸いに他産業にひして活況には持続性がありますが，やはり一つの曲り角に来たものと信じます。幸いに有能な新会長を得て，当会本来の存立の意義を充分発揮して益々発展することを期待するものであります。

最後に，永い間の会員ならびに友好団体の御支援を重ねて感謝致し，退任の辞といたします。

◀国宝・重文の拝観とぼたんの観賞・撮影会

——当麻寺と石光寺——

今回は中将姫の当麻曼荼羅で有名であり，またぼたんの名所としても知られている当麻寺と石光寺に詣で，国宝・重文の古建築や宝物などの拝観かたがた，丁度見頃の美しいぼたんの観賞と撮影の会を催すことにいたしました。

日　時　5月1日（土）14.00（集合）→17.00（解散）
（雨天でも参ります）

集合場所　近鉄南大阪線・当麻（たいま）駅前・目標会旗

〔参考〕自由行動（運賃各自負担……あべの橋より往復 280円）
往　13.11 近鉄あべの橋発，御所（ごぜ）行準急乗車
13.52 当麻着
復　17.18 当麻発，あべの橋行準急乗車
17.59 あべの橋着

行　程　14.00→14.10 当麻駅発，当麻寺別格本山中之坊着
〔奈良県北葛城郡当麻町当麻，中之坊
電話 当麻局（074548）2001〕
14.10→15.30 中之坊の案内で山内拝観，ぼたんの観賞と撮影
15.30→16.00 中之坊で抹茶をいただき，休憩
16.00→16.30 中之坊発，石光寺へ 徒歩10分，寺庭のぼたんを観賞
16.30→17.00 石光寺発，当麻寺を経て当麻駅着・解散

定　員　30名
会　費　500円（拝観料，抹茶代）集合場所でいただきます。
申　込　往復はがきに限ります。はがきは1枚に1名限りとし，氏名・勤務先名および所在地・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入の上4月18日（日）までに事業課へ。ただし定員を超過したときは抽せんにて決定し，ご通知いたします。尚参加決定後，当日無断で欠席された方は会費を申し受けます。

◀東京の新しい超高層建築の見学会

——京浜急行ホテル並びに朝日・東海ビルの新築工事——

（東京在住会員のご参加を歓迎します）

日　時　5月8日（土）13.00（集合）→17.00（解散）

集合場所　東京都港区高輪3丁目417—31　京浜急行ホテル新築工事共同企業体作業所正面入口受付前・目標会旗
（鹿島建設工事々務所　TEL　03—445—4111代）

〔参考〕自由行動（運賃各自負担……新大阪よりの新幹線往復 4,130円×2）
往　9.25 新大阪発ひかり22号乗車→12.35 東京着
（のりば⑤山手線で品川下車）
復　17.20 東京発ひかり69号乗車→20.30 新大阪着

行　程　13.00→14.30 京浜急行ホテル新築工事の見学
（品川駅前，歩道橋を渡ったその前）
15.00→17.00 朝日・東海ビル新築工事の見学
（国電東京下車，丸ノ内側徒歩5分・同ビル一般出入口集合）
17.00 朝日・東海ビルの見学を終ってそこで解散

定　員　30名
申　込　往復はがきに限ります。はがきは1枚に1名限りとし，氏名・勤務先名および所在地・役職・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入の上4月25日（日）までに事業課へ。ただし定員を超過したときは抽せんにて決定し，ご通知いたします。

○京浜急行ホテル新築工事概要

所在地	東京都港区高輪3丁目（旧東久邇宮邸跡地）
建築主	京浜急行電鉄株式会社
設計・監理	（株）坂倉建築研究所
施工	鹿島建設株式会社・東急建設株式会社（共同企業体）
客室数	951室
敷地面積	25,000㎡
建築面積	7,200㎡
高層部基準床面積	1,800㎡
延床面積	80,000㎡
日本庭園	11,500㎡
階数	地下3階・地上30階・塔屋3階
高さ	最高＋112.155m・軒高＋97.215m
深さ	−16.200m
構造	地階RC造・地上3階床までSRC造・地上3階以上S造
外装	特殊タイル打込みPCカーテンウオール
工期	昭和44年2月→昭和46年6月

○朝日・東海ビル新築工事概要

所在地	東京都千代田区大手町2丁目6−1
建築主	朝日生命保険相互会社・株式会社東海銀行
設計・監理	株式会社　日建設計
施工	清水建設株式会社（清水建設工事事務所 TEL　03—241—6214代）
敷地面積	3,327.140㎡
建築面積	2,783.660㎡（3階）
高層部基準床面積	1,249.200㎡
延床面積	50,618.650㎡
階数	地下4階・地上29階・塔屋2階
高さ	最高＋119.600m・軒高＋110.000m
深さ	− 20.300m
構造	地下2階までRC造・地下1階より地上3階までSRC造・4階以上S造
外装	アルミ板カーテンウオール
工期	昭和44年3月→昭和46年7月

◀SNSU—草津プロジェクトとクーラー・冷蔵庫の工場見学会

SNSUとはSは新日鉄であり，Nはナショナルで共同開発によるスペースユニットということです。耐火被覆された鉄骨の骨組が出来上ると各階床にPC版を敷き，工場で内部の設備に至るまで一切を組立て完成した箱型住宅即ちスペースユニットを工場から運搬し，吊り上げ移動して据付けるという設計であり，工法であり，量産化，省略化のサンプルともいえます。

昨年7月草津の松下電器団地の一画に，注目すべき画期的なSNSU

の第1号が完成されました。この素晴らしいアイデアによって開発された工場社宅は十分見学する価値のあるものと思います。

日　時　5月14日（金）13.50（集合）→17.35（解散）

集合場所　国鉄東海道線「草津」駅，2階出口前・目標会旗

〔参考〕自由行動（国鉄運賃は各自負担……大阪より往復 560円）

往　12.40 大阪発快速米原行乗車→13.45 草津着

復　17.44 草津発快速西明石行乗車→18.54 大阪着

見学場所　滋賀県草津市野路町字観音堂

松下電器グループ工場と社宅

見学時の連絡場所……松下興産草津管理事務所

TEL（07756）2—4607

行　程　13.57 帝産乗合バス草津駅前発→14.12 松下団地着

14.20→15.00 SNSU工場社宅見学

15.00→16.00 松下電器産業クーラー事業部工場見学

16.00→17.00 中川電機大型冷蔵庫工場見学

17.18 近江鉄道乗合バス松下団地発

17.33 草津駅着・解散

定　員　30名

申　込　往復はがきに限ります。はがきは1枚に1名限りとし，氏名・勤務先名および所在地・役職・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入の上4月30日（金）までに事業課へ。ただし定員を超過したときは抽せんにて決定し，ご通知いたします。

SNSU工事概要

建物名　松下電器グループ草津工場社宅

施主　松下興産株式会社

設計　ナショナル住宅建材（株）・新日本製鉄（株）

施工　ナショナル住宅建材（株）・新日本製鉄（株）

（株）鴻池組

構造・規模　鉄骨造4階建

建築面積　461㎡

延床面積　1,306㎡

◀飛鳥・藤原宮跡発掘現場その他の見学会

（共催　日本建築協会・大阪府建築士会・日本建築学会近畿支部）

最近飛鳥・藤原京の保存問題が大きく取りあげられるようになり，奈良国立文化財研究所では飛鳥・藤原宮調査室，奈良県遺跡調査室が発足し，昨年5月より，いよいよ本格的に発掘調査が開始されております。ついては今回文化財研究所のご厚意により見学会を催すことにいたしました。

日　時　5月22日（土）12.30（集合）→17.30（解散）

集合場所　近鉄上本町駅より上本町筋を南へ，かどの百五銀行大阪支店を東へ廻りすぐ，「なにわ会館前」・目標会旗

（雨天でも参ります）

案内者　奈良国立文化財研究所　宮沢智士氏

行　程　12.40 なにわ会館前発，近鉄バス1台に乗車

飛鳥・藤原宮跡発掘現場の見学をはじめ沿道の史跡を探訪。

17.30　大阪駅北口着・解散

定　員　60名（本会割当 20名）

会　費　300円（バス代）・集合場所でいただきます。

申　込　往復はがきに限ります。はがきは1枚に1名限りとし，氏名・勤務先名および所在地・役職・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入の上5月9日（日）までに事業課へ。ただし定員を超過したときは抽せんにて決定しご通知いたします。尚参加決定後，当日無断で欠席された方は会費を申し受けます。

◀通常総会議決報告

昭和46年2月25日開催の通常総会におきまして，下記のとおり議決されましたのでご報告申しあげます。

(1)　名誉会長の推挙

3月末日をもって会長を辞任される東畑謙三氏の名誉会長推挙の件は，満場一致で可決されましたので，昭和46年4月1日付で名誉会長に推挙申しあげることになりました。

(2)　監事・評議員の選任

監事及び評議員の選挙を執行いたしました結果，下記の方々が，夫々当選せられました。

監　事

神谷　新一君（竹中工務店）

本部所属評議員

（技術部門）

鬼藤　駿君（府住宅建設課）
辰巳　詢二君（府住宅開発課）
恒成　恒君（府営繕工事課）
福家　敬君（府千里事務所）
鎌田　恭男君（市都市再開発局）
佐藤　泰君（市公園事務所長）
田中　昭三君（市住宅建設課）
本郷　聡君（市建築部審査課）
坂内　幾男君（坂内建築設計事務所）
前川　陽一君（村野森建築事務所）
松村志津男君（大阪建築事務所）
山田新治郎君（山田建築事務所）
湯浅　武夫君（湯浅建築設計事務所）
林野　全孝君（近畿大学）
山田　幸一君（関西大学）
奥山清治郎君（都島工高）
西村　清君（今宮工高）
山田　修君（市立工芸高）
松軒　吉松君（大工技専）
道田泰治郎君（修成建専）
安部　章君（松下電産）
石川　清君（日生不動産）
高木　幹祐君（日鉄エコン）
大原　知君（大鉄管理局）
長沢　毅君（国鉄大阪工事局）
西村　良平君（京阪神急行）
藤原　稔恭君（藤原工務店）
星　広文君（平和建設）
三宅　浩君（竹中工務店）
若林　季雄君（鹿島建設）
池田　博君（住宅公団）
加藤　毅夫君（電々公社）
木村　博巳君（大阪郵政局）
森　堅君（府住宅供給公社）
松木　英雄君（住宅金融公庫）

（綜合部門）

井上　司郎君（松村組）
大野勝三郎君（鹿島建設）
片桐　正人君（清水建設）
志賀　修一君（フジタ工業）
島田　勢喜君（西松建設）
谷口　尚武君（大林組）
富中　三郎君（鴻池組）
三好歓之進君（大成建設）
村田　隆次君（安藤建設）
小坂井正夫君（小坂井組）
金剛　利隆君（金剛組）
前野慶太郎君（あめりか屋）
和田　真一君（東和組）

（電気部門）

姉川　正男君（東光電気工事）
岡本　繁一君（近畿電気工事）
嘉納　伝三君（三宝電機）
梶本　秀尾君（八千代電設工業）
杉村正三郎君（阪急電気工事）
鳴尾　源蔵君（大阪電気暖房）

（管工部門）

仙田　四郎君（関西暖房）
日下武千代君（山田工業）
田本　栄一君（高砂熱学）
高須　悌二君（朝日工業社）
竹中　清君（大阪電気暖房）
伴　一郎君（西原衛生）

（建材部門）

井上　定雄君（井上定）
石塚　泰祐君（菊水）
川岸　繁夫君（川岸窯業）
福田　愿治君（福田源）
万喜清三郎君（パンポー工業）
水谷小一郎君（水谷ペイント）
山崎　晃一君（田島応用化工）
若井　礼二君（伊奈製陶）
渡辺　忠君（東洋シヤッター）

補　選

本部所属評議員

浅海　正雄君（浅海電気）
栃木　政昭君（矢橋大理石）

法令コーナー

44

日本建築協会法規委員会

質疑などの投稿をお待ちしております

大阪府建築基準法施行条例の改正について（その1）

大阪府建築基準法施行条例は、建築基準法の委任を受けて、災害危険区域の指定とその区域内での建築制限、建築物の敷地、構造および建築設備に対する制限の附加、建築物の敷地と道路などに関する制限の附加ならびにこれらの制限に違反した者に対する罰則を定めたものであります。

すでにご承知のことと思いますが、昨年法律および政令に相当大幅な改正がなされ、本年1月から施行されておりますので、大阪府条例においても法令改正に伴なう所要の改正を行なったほか、社会情勢の変化、建築技術の進歩などにより、今日における建築の実態にそぐわないもの、あるいは他の関係法令で担保されたことなどにより不要と思われるものについては削除し、人命の安全確保を第一義的に考えて、大都市での建築実態に対応したものにするための改正を行ないました。

改正条例の主要な条文については、次回において解説を予定しておりますが、今回は改正条例と旧条例についての変更した主な事項についてその概要を紹介しておきます。

1．地域地区の防災対策

地域地区の防災に関する規定でありますが、旧条例では高潮に対する災害の防止を目的として大阪市、堺市の大阪湾に近い区域を「災害危険区域」として指定し、その区域内の建築制限を行なってきましたが、今回この高潮対策としての防潮堤あるいは護岸工事は第2室戸台風級に対するものとしては完成したので、建築制限を存続する必要がなくなったものと判断され削除しました。

今回新たに、昭和44年に「急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律」が制定され、この法律に基づいて知事が指定する崩壊危険区域を、建築基準法第39条による災害危険区域として指定することとしました。

この区域内においては、建築物の建築を原則として禁止することとし、住民の安全を確保するものであります。

2．長屋に対する規定の整備

長屋に関する規定でありますが、旧条例では長屋の各戸の主要な出入口は道路に面し、かつ、各戸は適当な空地を確保することを原則とし、建築物の構造、規模などにより防火上および避難上支障のないものは制限を緩和していたのを、今回実情に即した明確な規制にするため、敷地の奥行が35メートル以内であり、かつ、床面積の合計が300平方メートル以下のもの、または耐火建築物、簡易耐火建築物であれば、道路に面しなくても道路に通ずる幅員が3メートル以上の敷地内通路に面していればよいとしたことと、最小限度の環境基準として隣地境界線よりの外壁の後退を義務づけました。

3．避難関係規定の整備

(1)、階段に関する規定：旧条例では床面積による階段数とその階段の幅の合計の規制を行なっておりましたが、今回の法令改正により防火、避難についての規制が整備強化されましたので削除し、木造の特殊建築物で政令の規定から外れる小規模のものについて2以上の階段を設置することを義務づけるとともに、その他の特殊建築物についても階段を避難上有効に配置するように規制内容を整備しました。

(2)、屋外への出口に関する規定：旧条例では限られた特殊建築物について2以上の非常口を設けることを規制していましたが、今回の改正で特殊建築物で適用するものの範囲を拡げ、出口の幅および敷地内避難通路の幅員の規定を明確にして、有事の際の避難の確保をはかることにしました。

4．集会場、劇場などに対する規制

集会場、劇場など不特定多数の人が集合する特殊建築物に関する規定でありますが、旧条例の諸規定は一用途一建築物的な考え方から建築物の建築計画において、立地ならびに形態制限を行なっておりましたものを、社会情勢の変化、建築技術の進歩の急速な発達に対処するため、

(1)、人命、財産の安全確保が担保でき得る範囲内において設計の自由が得られるよう配慮し、立地ならびに形態制限を大幅に緩和しました。

(2)、避難階においては、集会場などの出口のある側には、通路あるいは知事が規則で定める避難上有効な構造、設備を有する避難廊下（いわゆる安全な場所）を設置するようにし、また主階が2階以上にある場合は、避難廊下かバルコニー、主階が地階の場合は、避難廊下または空堀の設置を義務づけ、避難の動線の確保をはかることとしました。

(3) 廊下の設置義務を廃し、客席内の通路を避難のために利用できるようにするとともに、2方向避難の確保のため客席からの出口の片寄りを禁止し、客席からの出口の最低合計幅に等しい通路などへの出口、および主階が避難階にない場合は、階段の合計幅の確保と階段の安全確保の構造制限を義務づけました。

(4) 多目的ビル内に、集会場、劇場などの用途に供するものが複合して設けられる場合、旧条例では階段の数が非常に多くなるので、集会場、劇場などの最大の客席の床面積によって算出した最低合計幅による階段および避難階段で避難階まで達せられるようにしました。

(5) 建築技術の進歩のテンポに即応でき得るように技術的細部の規制については、別途知事が定め得られるようしました。

5．接道関係規定の整備

劇場などの敷地が接する道路の幅員に若干の訂正を加えたほか、大規模な物品販売業を営む店舗（その用途に供する部分の床面積の合計が3,000平方メートルをこえるもの）については、2以上の道路に接すること、その他接道条件の強化を行ないました。

6．構成および表現の整備

条例の構成および表現に関することでありますが、旧条例と異なり、法の体系にしたがい建築物の用途別に改組するとともに、各条文の表現を明確、かつ、簡略なものにすることにより条例の理解を容易にしました。

（大阪府建築部建築指導課　木田 照之）

◇

建築基準法第55条第2項の指定による建ぺい率の緩和について

45年12月号法令コーナで紹介した建築基準法の一部を改正する法律による改正前の建築基準法第55条第2項の規定に基づいて、建ぺい率の緩和をする区域の指定を、大阪市については45年10月、東大阪市については45年12月、堺市については46年1月に指定になっていますが、その他の区域（豊中市においては近日）については3月1日に指定しました。

建築基準法第55条第2項の規定に基づく区域

都市計画区域名	指定区域	備考
池田市	住居地域、準工業地域、工業地域（但し、一部住居地域を除く）	約 ha 810
箕面市	住居地域（但し、一部除く）	1,225
吹田市	住居地域、準工業地域、工業地域（但し、一部住居地域を除く）	1,238
茨木市	住居地域、準工業地域（但し、工業地域一部住居地域を除く）	2,210
摂津市	住居地域、準工業地域、工業地域（但し、一部住居地域、準工業地域を除く）	750
高槻市	住居地域、準工業地域、工業地域（但し、一部住居地域、準工業地域を除く）	2,400
島本町	住居地域、準工業地域	293
東能勢村	住居地域	37
八尾市	住居地域、準工業地域、工業地域、工業専用地区(但し、準防火地域、一部住居地域を除く)	2,535
枚方市	住居地域、準工業地域、工業地域、工業専用地区(但し、準防火地域、一部住居地域を除く)	1,373
門真市	住居地域、準工業地域、工業地域（但し、一部住居地域を除く）	1,050
守口市	住居地域、準工業地域、工業地域（但し、一部住居地域を除く）	1,090
大東市	住居地域、準工業地域、工業地域	1,167
寝屋川市	住居地域、準工業地域、工業地域（但し、一部住居地域を除く）	2,120
柏原市	住居地域、準工業地域、工業地域	857
松原市	住居地域、準工業地域	795
交野市	住居地域、準工業地域、工業地域	680
四条畷市	住居地域、準工業地域	327
藤井寺市	住居地域、準工業地域	723
河内長野市	住居地域、準工業地域、工業地域	1,445
羽曳野市	住居地域、準工業地域、工業地域	1,302
狭山町	住居地域	624
美原町	住居地域、準工業地域	477
河南町	住居地域	75
太子町	住居地域	196
泉佐野市	住居地域、準工業地域、工業地域（但し、防火地域、準防火地域、風致地域を除く）	1,130
田尻町	住居地域、準工業地域	
貝塚市	住居地域、準工業地域、工業地域、工業専用地区（但し、準防火地域、風致地区を除く）	1,220
泉南町	住居地域、準工業地域、工業地域（但し、一部住居地域を除く）	820
熊取町	住居地域、準工業地域	807
東鳥取町	住居地域、準工業地域	241
南海町	住居地域、準工業地域	498
岬町	住居地域、工業地域（但し、一部住居地域を除く）	548
高石市	住居地域、準工業地域、工業地域（但し、風致地区、一部住都地域を除く）	900
和泉市	住居地域、準工業地域、工業地域（但し、準防火地域を除く）	1,986
泉大津市	住居地域、準工業地域、工業地域、工業専用地区(但し、風致地区、一部住居地域を除く)	920
岸和田市	住居地域、準工業地域、工業地域（但し、準防火地域、風致地区、一部住居を除く）	2,430
忠岡町	住居地域、準工業地域	
富田林市	住居地域、準工業地域、工業地域、工業専用地区	1,536

美装塗床仕上材

チッピー

美装塗壁仕上材

ウォールチッピー

間隙充塡材

ABCコーキングウレタン

内壁美装仕上材

ウォールコートM

内外装材

ウォールコートS

照明器具各種

通気性吸音板

カラ・クリート

フェロ・コン

機械台座用材

ノンシュリンク

コンクリート用接着補修材

クリートボンド

不燃性吸音吹付仕上材

ミクライト

着色耐摩耗性床材

アームストロング

通気吸音板



大阪支社
大阪市東淀川区中島町4-8-3
TEL 大阪06-303-1171代
水島営業所
TEL 倉敷0864-46-1515
四国営業所
TEL 高松0878-62-6221
神戸営業所
TEL 神戸078-32-2928
京都営業所
TEL 京都075-671-1818

本社
東京都千代田区永田町2-12-14
TEL 東京03-580-1411(大代)
出張所
名古屋・札幌・仙台・北陸
広島・福岡
営業所
北関東・横浜・静岡・宇都宮
千葉
駐在所
金沢・鹿島・長野

読者の頁

□文化遺産の保存と開発
－兵庫県下の実例とともに－

今日お話するテーマは〝文化遺産の保存と開発〟－兵庫県の実例から－ということですが、実はこのテーマは非常にむずかしい問題を多く含んでおり、簡単に結論づけることは困難です。
しかしそれだからといって現在のまま放置していてよいというものではなく、それがどのような結果をまねくであろうかは、自ら明らかなところです。

■人間にとって文化遺産とは何か

そこで、この問題について述べるまえに、いったい人間が生きているということはどういう意味をもつものであるかについて考えてみたいと思います。
現代のこの文明社会といわれる世のなかで人類は遠からず自らの手によって死をまねくに至る、であろうということが予言されています。それは、予言者の言葉としてでなく、また哲学者の観念の世界からでなく、われわれにとって身近かな周辺からかなり切実な問題として予感されるようになってきているのです。
われわれは大気の汚染から、食物に含まれている毒性から、騒音や緑や自然の喪失によって、生態学のうえで地球上に生物を存在させていた生物と無生物との相互作用のバランスの原理を自ら崩し去ろうとしているのではないかと思うのです。それはゆっくりと、しかし着実に進行し、われわれが気づいたときにはすでにとりかえしのつかない結果をまねくおそれがあります。
生態学のうえからいえば、本来人間は自然とふれあい、自然に寄生しなければ存立しえないといわれています。それにもかかわらず人間は自然を支配して生きることができるという大変おこがましい態度にいつしか姿をかえてしまいました。現代文明の欠陥は、まずこのような人間が自然を征服できるといった誤った観念から是正していかなければならないと思うのです。そして、この支配し征服するという考えがどのような道を辿ることになったかは、過去の歴史をふりかえってみるとき、これまた自ら明らかなところです。
それでは人類の進歩とはなにか、人間がゆたかな生活を過すということはなんであるかといいますと、それは人間が新しいエネルギー源を発見し、発明することや合理主義的な信条によって新しい物質を生産し活用することであるように説くこともできるでしょう。しかしこの進歩の思想の根底にある合理主義的な物質主義的な考え方が人間の生き方を規定し、人間を管理してしまっている結果を見のがすことはできません。このためにまねいた自然の破壊、人間の精神面の死、人間が生きていることの意味を自ら問う心の欠除は改めて問われなければならないでしょう。人間の心のゆたかさ、精神のやすらぎや歓び、もっと素朴な、心のこもった生活、現代の文明がいやおうなしにおしつけている安楽の概念を放棄し、問い正したなかに創造される新しい生活の様式、これこそ求めなければならないのではないかと思うのです。
大変話がわき道にそれたようですが、まずこのような思考を前提として、この文化遺産の保存と開発の問題を論じなければ、それは全く本質を見誤るおそれがあると思うのです。

■人間の生きていくための哲学

文化遺産とはなにか。一般的にいえば、人類の文化活動によってつくり出された事物、事象で文化的価値のあるものということになります。
人類の歴史は１万年以上まえの旧石器時代から始まり、日本の場合、縄文式文化(B.C7000年～B.C 300) 弥生式文化 (B.C 300～A.D 300) 古墳文化 (A.D 300～A.D 480) を経て、６世紀の飛鳥文化につながります。海外では紀元前4000年ごろからオリエントに青銅器文化が起り、またナイル河流域のエジプト文明、エーゲ文明からギリシヤ、ローマの文化につながります。
このような数千年にわたる人類が生きるために営んだいろいろな活動のなかから、文化的に価値あるものについて、それを保存し活用することは、われわれが現代に生きていくうえで、またわれわれの子孫が将来に生きていくうえでいかに意味あるものであろうかは改めていうまでもないことと思うのです。
明治12年、工部大学の第１回卒業生で、明治建築の第一人者となった辰野金吾が、英国に留学した際、向こうの人から日本の建築史について尋ねられたとき、一言もかえす言葉がなく、身のおきどころがないほど恥かしい思いがした、と述懐し、このことが原因して、東大にはじめて日本建築の講義が行なわれるようになったことは有名な話です。とくに建築は、その対象が人間の生きてゆくためのうつわであるだけに、その設計態度や施工にあたっては、人間性に根ざしたものでなければならないと思うのです。
人間性に根ざすということは申すまでもなく人間の生きてゆくための哲学を考えることであり、その哲学を支えるものは、人間が今日まで生きてきた人類の歩み、すなわち歴史を理解することであると思います。

■文化遺産の面的保存へ！

建築が芸術であり、その時代相を反映する象徴としての意味をもつとき、そして建築とは空間の創造であるとするならば、それはたとえどのように精緻な図面や写真や文章によって説明しようとしても、実在する建物そのものにまさるものはないのです。過去の優れた文化遺産を保存するということは、このような意味が背景にあると思います。
ただわれわれは、いままであまりにもその保存にあたって対象物を、たとえば建物そのもの、いいかえるならば点の保存や修理のみにかた寄りすぎていたことを反省しなければならないでしょう。いくら歴史的に価値の高い建築が残されていても、その背景となる自然や環境が切りとられたり、現代の新建材による建物に取り囲まれるならば、その保存は物のみの保存に終ってしまうおそれがあります。
近年の急激な大きな開発の波からするならば、過去千年以上の安定した景観を一瞬のうちに破壊し去ることはいとも簡単なことです。
奈良や京都の世界的に第一級の文化遺産が無神経な開発の波によっておびやかされるのみではなく、現実に破壊されていきつつある姿をユネスコが他人の家のこととして黙視できず、昨年秋、京都で〝京都、奈良伝統文化保存シンポジウム〟を開いたのは、このような日本の文化遺産の壊滅を世界の人々が憂えたからにほかならないのです。いまや文化遺産の保存は、点から面に拡大され、自然の環境、良好な環境のなかで保たれ、活用されなければなりません。幸い、日本の文化遺産のうち社寺建築は、自然を背景に建つものが少なくなく、さきほど述べたような人間にとって欠かすことのできない自然を保護し、その環境のなかに文化遺産を包括して保存する方法が必要となってくるのです。
古墳や埋蔵文化財についても、公園や自然環境の一部としてのこされることがのぞましい姿でしょう。ここに文化遺産と自然環境とをあわせ保存修景する景観保全の思考とデザインが必要となってきます。しかし近代の建築については、それが市街地に建てられたものがほとんどであるため、その保存はなかなか困難であることは、東京丸の内の三菱一号館や、帝国ホテルの例であきらかなところです。

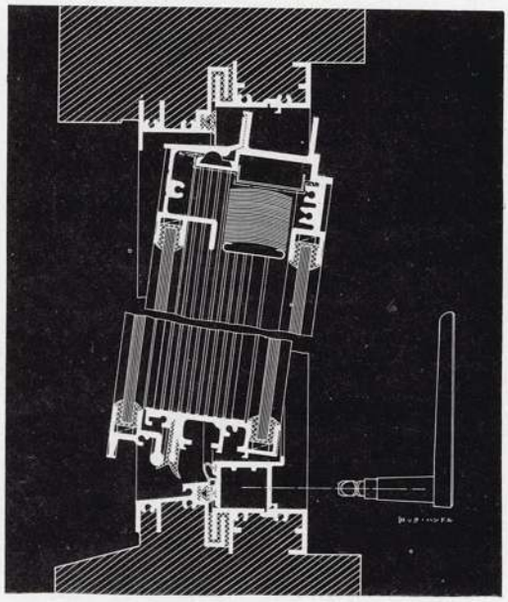
■兵庫県の実例から

ここでさらに焦点をしぼり、兵庫県あるいは神戸市での例をご紹介します。神戸市では近代建築の一つである明治の洋風建築が市内各所でとりこわされています。そのうち、旧ハッサム住宅が相楽園に、旧ハンター住宅が王子公園に移築保存されています。この移築保存の方法は決して好ましい方法とはいえませんが、市街地で地価の高いところでは、なかなか現地保存が困難な理由によるものです。
この保存の経過をもう少しくわしく述べますと、神戸のまちは、明治元年の開港以来約１世紀の歴史しかもたないのですが、そこに建てられた多くの洋風建築、あるいは異人館と呼ばれるような外人住宅は、日本の近代建築の歩みを物語る一つの典型としての意味をもつものです。神戸という国際港の発展のあとを裏付け、そのまちの景観を形成するうえで少なからぬ役割りを果してきたのです。そのような建物は戦争その他が原因でその多くが失なわれているのですがわずかに戦火を免かれたものでもこのままでいくと、なに一つ残らない状態になることが予測され、建築史家、その他関係者のアピールがあって、ハッサム邸やハンター邸が神戸市、兵庫県の手によって保存されることになりました。
しかしこの方法はどちらかというと学者や一部関係者の意志によってこの問題がとりあげられたものであり、今後はやはり市民や住民の意志

空間防衛

「空間防衛」という使命を果たすために
カマチの設計ひとつにも細心の注意が払われました

たとえ断熱ガラスを使っても、サッシ部分は無防備だったものに対し、エルミン窓は障子、枠ともに断熱材ネオプレーンによって内・外側が完全に絶縁されています。外気熱の影響はほぼ完全にシャットアウトできました。その結果、空調コストの大巾なダウンをお約束できます。



ELUMIN WINDOW

精度の高い規格品が揃います

高い精度こそ窓の生命
エルミン窓は枠材の組立てからグレージングまで一貫して工場で行なわれます　特殊なベンディングマシンとパンチングマシンの使用により窓の精度は抜群　それぞれ完全な互換性を持っています

● 大型窓が180度ダイナミックに横軸回転

清掃の時は障子部分を180度反転させることができます。ガラスの外面も室内側から手軽に安全に拭けるわけです。都会のビルではこの独特の機構がどんなに大きな経済的メリットを生みだすか知れません。
もちろんふだんの時は特殊なロックで固定します。エルミン窓は最大高2200㎜、最大巾3000㎜、最大面積4.3㎡という大型窓の製作が可能。この場合も気密性、断熱性、遮蔽性能の良さは変りません。



● 外部の騒音を侵入させません

二重ガラス、気密構造、断熱構造、特殊な引きつけ型のロックなどエルミン窓の特長のすべてが、高い遮音性能に結びつきます。外部の騒音はほとんど気になりません。

ブラインド内蔵アルミ二重窓
エルミン窓

エルミン窓の性能比較表

項目	窓の種類	エルミン窓 内外6㎜ガラス アルミ断熱枠	普通のアルミサッシ 一重ガラス6㎜ アルミ枠	複層ガラス窓 内外6㎜ガラス 密閉空気層6㎜ アルミ枠
熱貫流率 Kcal/m²·h·℃	ガラス面	2.6	5.8	3.0
	窓全体	2.8	6.1	3.9
遮蔽係数 スラット角度45° 外側し スラットの色中間色		0.35 ブラインド内蔵	0.64 内側ブラインド	0.57 内側ブラインド
日射による冷房負荷 北緯35°41' 16時 西窓8月 Kcal/m²·h		210	384	342
通気量 m³/h·m C=0.8	風速10m/sec	0.20	0.37	
	風速20m/sec	0.38	1.05 気密機構	
遮音性能 透過損失 dB	500%	34	29	27
	2000%	42	30 気密機構	32

日本エルミンサッシ株式会社
本　社　東京都千代田区岩本町1丁目11番2号(三泉ビル)TEL 861－1891(代表)
大阪営業所　大阪市西区京町堀1の125(東洋ビル)TEL 441－1979(直通)443－1461(ビル交換)

によってこの問題が取りあげられるようになることがのぞましいでしょう。

また北神地区では、山田町衝原に箱木千年家という民家があり、これは日本の民家の現存するもののなかでもっとも古い例の一つに数えられていますが、これが呑吐ダムの建設によって水没しようとしています。また、鎌倉時代の和様天台伽藍の様式をもつ国宝大山寺とその背後の原生林は、その原生林の近くが最近売却され、無届けの宅地造成が行なわれようとして神戸市の宅地規制課よりストップをかけられましたが、その伐採された自然林は再びもとに戻らず景観のうえで非常にマイナスになっています。この辺りは大都市に近く珍しく原生林や清流があって、将来市民の憩いの場となりうるところですが、残念なことです。ここに寺関係の古文書や寺宝を収納する資料館を建設して文化財と緑と公園とをあわせもつにふさわしい環境につくりあげることができるにもかかわらず、今日までなんの手も打たれていないため、このような心ない行為が行なわれているのです。

また、明石の奥に椹谷というところがあり、この辺りは数年まえまでまだのどかな農村地帯でしたが、ここに鎌倉時代の阿弥陀堂、三重塔、室町中期の文珠堂など天台の伽藍配置をもつ如意寺が残されています。それはちょうどスリ鉢状の谷あいにあるのですが、その周辺の丘陵に開発の手がのびるとその静寂ないままでの雰囲気や景観はいっぺんに失なわれるおそれがあります。このように地上にはっきり現われている建造物などの文化遺産についてさえもこのようなことですから、地下の埋蔵遺跡については全くその処置が困難な問題となるのです。

■埋蔵文化財の保存と開発

埋蔵文化財については、近年とくにその発掘や破壊をめぐってトラブルが各地に起こっていますが、最近の県下の例を二、三をあげて参考に供したいと思います。

まず、山陽新幹線の問題ですが、県文化課の調査では、新幹線の県下総距離 116.2kmのうち、遺跡の数61ヵ所を昭和42年から45年秋にかけて受託工事費約１億円で緊急発掘調査が行なわれ、このうち、山田古墳群と播磨国分寺址の西南隅が原状保存となり、とくに後者は一部路線の変更が行なわれたほか、予備調査35件のうち全面調査12件、部分保存が７件、その他52件が工事承認となった経過をもっています。

播磨国分寺跡については、この地は大正10年史跡の指定を受けていますが、今回、姫路市、神戸大学らの発掘調査によって北側の寺域がほぼ推定され、この部分を史跡として追加指定を行なうべく土地所有者と折衝中、一部の土地所有者から強い反対を受けることとなっており、一部ではブルドーザを入れて遺跡を破壊するまでに至っている。この問題については県および国は、一部反対者のもつ史跡部分の買上げを計画していますが、なかなか交渉は難航している実状です。これは開発と保存とが強く対立した例ですが、うまく話し合いがついて成功した例として、やはり播磨町で国鉄土山駅の近くですが、弥生後期の古代住居跡が出て、昭和41年国指定史跡となり、これを〝古代の村〟と名付けた史跡公園にすべく、地元の地主62名と県および播磨町が交渉をもち、現在、全部で約13,550坪の地域のうち12,324坪約90%が買収をおえて、44年から48年にかけて、住居跡の復原や植物群落、貝塚、環壕、展示館などがつくられることになっています。

これなどは遺跡を保存し活用しようとするもっとも好ましい方法の一例です。

ここで考えられることは、開発者はなにがなんでも山や谷を切り開いて低地をつくり、住宅をたてればそれが開発であり、家のない人に住宅を提供し、あわせて金もうけをするという考え方のみでなく、また文化遺産を守りたいとする側も、どれもこれも残せというのではなく、お互いの話し合いのなかで、お互いの立場を尊重し理解する姿勢、たとえばさきに述べた人間と自然という本来お互いに依存しあって生きていくという基本的な姿勢、保存ということも開発の一手法であり、しかも原型を保つ、残すということは新しい、しかし重要な開発方法の一つであるということが、お互いに認識されなければならないと思います。

■「文化財保護法」の問題点

また重要なことは、現在の文化財保護法の問題があります。この法律は昭和25年、ちょうど法隆寺金堂の壁画焼失を契機として従来の古社寺保存法にかわって制定されたものですが、この法律の運用にあたって問題点が少なくなく、その改正が必要だということです。

たとえば、文化財を守る法律ですが、その守り方といいますが、各地方公共団体の任務分掌、国が守る範囲、県や市町村が守る範囲が明確でなく、現在のところ市町村で文化財保護の条例を定めているところはきわめて少ないのです。

開発の盛んな大都市においてすら北九州市を除いて文化財保護条例のようなものは設けられておりません。このために文化財を守る範囲とい

資料提供：兵庫県教育委員会文化課

古代の村　13,550坪のうち買収地12,324坪　S.44～50年で造成　S.41 国史指定史跡　弥生後期





完全責任施工　年限保証

日本アスのアスファルト防水

■シグマートによるウエルドシステム防水工法
■特殊絶縁防水工法(特許出願中)
■メルタン防水工法



50年の実績が生んだ防水

シグマート・SPウエルドルーフィング

■全国に配置された組合員の強力な連繋で完全な施工工事をお受けいたします

地区別	会社名	電話
北海道地区	日本スレート株式会社	札幌 231—7511代
	日新建工(株)札幌出張所	札幌 221—5015
東北地区	信栄工事(株)仙台出張所	仙台 23—1735
	日新建工(株)仙台支店	仙台 25—5431代
関東地区	伊藤建材株式会社	東京 842—1431代
	春日工業株式会社	東京 802—3871代
	金岡工業株式会社	東京 363—4341代
	木下工業株式会社	東京 634—0821代
	協立工業株式会社	東京 433—1961
	大東スレート株式会社	東京 883—3131代
	日新建工株式会社	東京 803—2411代
	日本綜合防水株式会社	東京 403—0171代
	野口工材株式会社	東京 444—3531代
	鍋田工業株式会社	東京 263—4861代
	藤井工業株式会社	東京 941—0271
	富士工材株式会社	東京 634—0161代
	藤瀝青興業株式会社	東京 362—5697代
	北条瀝青工業株式会社	東京 551—2676
	マサル瀝青工業株式会社	東京 842—6311代
	大和工業株式会社	東京 802—4751代
	瀝青建材株式会社	東京 861—2706—8
	瀝青建材(株)宇都宮出張所	宇都宮 22—9737
	石田建材工業株式会社	高崎 22—3301—3
	石田建材工業(株)大宮支店	埼玉 31—1225—7
	石田建材工業(株)宇都宮出張所	宇都宮 33—7697
	同和建業株式会社	新潟 45—2251代
	株式会社奈良屋商店	水戸 41—5141代
北陸地区	石橋建材株式会社	福井 23—0775
	有限会社折橋政次郎商店	高岡 22—0999
	有限会社小島工業所	高岡 23—0391
	島屋建設株式会社	金沢 42—5151

地区別	会社名	電話
東海地区	協和建材工業株式会社	清水 45—2221代
	三信建材工業株式会社	豊橋 45—8211代
	中央建材工業株式会社	名古屋 761—6181代
	東京建材工業株式会社	名古屋 411—6621
	日本建材鋼業株式会社	名古屋571—5541～4
	三井工業株式会社	静岡 85—9151～3
	宮崎建材株式会社	名古屋 331—1531代
近畿地区	清水興業株式会社	大阪 372—0250～3
	東洋建材株式会社	京都 361—9171
	棚田建材有限会社	神戸 22—9182代
	中村瀝青工業株式会社	神戸 34—5884
	日新工材株式会社	大阪 541—3785～6
	有限会社ミサキ商会	和歌山 22—3922
	フタバ興業株式会社	大阪 385—2781代
	マサル瀝青工業(株)大阪営業所	大阪 303—0241代
	マルエス工業株式会社	大阪 458—4841～3
	日新建工(株)大阪出張所	大阪 541—1607～8
	日本綜合防水株式会社大阪支店	大阪 329—1023代
中国地区	株式会社三洋技建	大竹 2—5155代
	東中国防水工業株式会社	岡山 23—1181代
	豊永建材株式会社	広島 61—6371～3
	大和工業(株)広島出張所	広島 71—4687
	株式会社巴商会	宇部 21—0760
四国地区	大三工業株式会社	高松 51—6811代
	大三工業(株)高知支店	高知 83—7328～9
	徳島大三工業株式会社	徳島 54—4161代
	株式会社マルマス河野商店	今治 2—5000代
	株式会社山本商会	松山 31—6261代
九州地区	安藤工事株式会社	福岡 28—5207～9
	株式会社北原建材商会	鹿児島 23—9395～6
	株式会社工材社	北九州 38—1468～9
	株式会社大二商会	宮崎 24—1625
	日建工材株式会社	福岡 74—6665代
	日新興業株式会社	延岡 3—2455～9

■建設省東計第240号認可

日本アスファルト防水工業協同組合

東京都足立区千住東2－21－28 日新工業株式会社内　電話（882）2424（代）
関東支部　東京都足立区千住東2-21-28 日新工業株式会社内　電話（882）2424（代）
関西支部　大阪市東淀川区瑞光通り4-30-2 日新工業株式会社大阪支店内　電話(329)7737(大代)
九州支部　福岡市大手門1－6 日新工業株式会社九州出張所内　電話（74）3461

うか、義務感のようなものが地方自治体（とくに市町村の場合ですが）にあまりなく、あいまいになってしまっていることがあげられます。またこのこともあって、地方自治体に文化財を守るための行財政措置をとる意志理由が乏しく、たとえば緊急の発掘調査、あるいは文化財地域の買上げなど、多額の資金の必要が生じながらその資金のでるところがないわけで、この面での行財政措置を強力に行なえるように法を改正する必要があるのではないかと思います。実際にある地方公共団体、それが小さくなればなるほど文化財を守ろうとする努力より、開発にお金をかけて、町を繁栄させようとする意識が強いあまり、たとえば〝あの遺跡は守らなければならない〟とか〝自然を保護しなければならない〟といっても、開発による土地の値上りなどで受ける物質的利益が大きければ大きいほど、この声は部内でも立ち消えにされ、そのような発言が圧殺される傾向が強いのです。

■〝経済主義〟への反省を

わが国が、高度の経済成長を示し、G.N.Pが世界第2位とか第3位とかいい、それを自慢していたとたん、その成長がもたらした公害について頭をかかえなければならなくなった姿は、ヨーロッパ諸国からみると全くナンセンスなことなのです。〝自ら墓穴を掘る〟とはこのことでしょう。彼らは日本の経済成長を決して高く評価はしていません。あくせく馬車馬のように働くことから生まれる富は、その代償としてわが身をけずっているわけで、その反動として今度はレジャーだといって、享楽的な施設が日本各地に出現する、貧しい住宅に住みながら身なりは最新流行を追うといったアンバランスが生まれています。

人間は、一生を苦しみながら生きるために生まれてきたものでしょうか。人間は生きるために働くのか、働くために生きるのか、私は働くことを決して否定するものではなく、また遊ぶことを決して奨励するのでもありません。人間はなんのために生きているのであろうか、との問いかけのなかに私はすべての問題が帰着するように思えるのです。

■パリのマレー地区・〝永久計画〟

私は、昨年の夏、短期間でしたがヨーロッパの都市の開発と文化財の保護行政などについて見学する機会を得ました。

ストックホルムのアーランダー空港に降り立ったとき、その清澄な明るい空気、空の色に、空気はこんなにおいしいものか、光はこんなに澄んで輝かしいものであるかを感じました。

パリではマレー地区という古い市街地で、歴史的に由緒をもつ地区の保存状況を、マレー街保護建築事務所長ミノ氏の説明と案内とで見学する機会を得ましたが、そこにみられる徹底した文化遺産の保存と活用との精神、目的、住民との協力は、このテーマについて少なからぬ示唆を与えるものであることを実感として受け取ることができました。

この計画はまた〝永久計画〟とも呼ばれ、それは何十年かかってもやり遂げるというねばり強い、しかし決して一時的な妥協の所産としてではなく、非常にスケールの大きな息の長い計画のもとに実行され、さらにこれについて地区の住民の積極的な協力があることを理解できた次第です。



自然と文化遺産との景観が損われた例　神戸市垂水区杤谷町如意寺周辺

わが国の文化遺産の保存と開発の問題についても、このような息の長い、しかし決して挫折することのない計画のもとに、地域住民の協力を得て行政体、企業体、文化団体らがお互いの立場を理解しあってこの命題に取り組むことが肝要であると思います。

（これは、昭和46年1月23日に開催された**新建兵庫設立総会**での講演をまとめたものです。）

■追　而

私は、この話をして数日後思いたって久し振りに西神戸の杤谷にある如意寺を訪れてみました。それは冬の粉雪が舞う寒い日でしたが、いつも仁王門から見て美しい景観をなしている三重塔とそれを取り囲む自然、このなんでもないような自然と文化遺産とのおおらかな調和のある空間が、なんと無惨に打ち壊されているではありませんか。**（写真参照）**

そこには、三重塔を望むパースペクティブのある空間をあたかもさえぎるかのように、かつて田圃だった土地に灰色の波型鉄板の外壁と波型スレートの屋根をもつ工場建築が忽然と出現してしまっていたのです。

それは少なくとも昨年1970年の末までは寺の建立以来数百年の永きにわたって保たれてきた静寂と緑と中世寺院とがおりなすゆたかな空間が一瞬のうちに失なわれてしまったことを意味します。数日前、講演で述べたようなもっとも恐れていた景観の破壊が、目のあたりに現実の問題として現われてしまっていたのです。

この地が将来、文化遺産と緑地をあわせもつ公園としてふさわしい環境にある地域であることは誰がみても明らかなところであり、このような事態をまねくまえに、何らかの手を打てなかったものであろうか、と悔いるとともに、現代のわが国の都市計画、文化財行政の貧困を改めてなげかずにはおれなかったのです。そしてこのような事態が日本各地に起こりつつあることを残念ながら予感せざるを得ないのであります。開発と文化遺産との調和が、ゆたかな人間性をわれわれの生活に取り戻すためにいまほど求められるときはないでありましょう。

（坂本勝比古）

□ 明治建築土木史年表・関西篇（その45）

（明治11年11月8日）□

明　治

11年11月8日　東京「京橋区より芝区へ渡る新橋」（駅名で有名な新橋のこと）が破損したので、府庁土木掛の模様替えの計画が報じられる。「眼鏡形の石造」で「御入費は太凡3000円程。」「嘸立派で有ませう。」とある。

〃　〃　〃　兵庫県明石西魚棚の煙草商夷屋新工風の安くて上等の巻煙草が好評で、京都、長崎より注文多く、職人7、80名が「夜を日に継で」製造している。また大阪高麗橋2丁目森川宗三郎は、西洋式のレッテルを「発明」して売弘め、舶来品に劣らぬといわれている。従来外国品を用いていた業者からも盛んに買い求められているという。

〃　〃　〃　13年1月1日開館予定と伝えられていた東京上野公園内博物館に「佃島監獄署（石川島の誤り）」の「懲役人が製造する極上等の煉化石（煉瓦）を」使用することになった。この「代価は1万本に付」50円。1本5厘でこの頃の物価から言えば、かなりのものと思われる。

〃　〃　〃　午前11時55分。東京京橋新肴町の土蔵で、「ピストルの玉のドンドルを剝さんと火箸を以てこぢ」った職工があり、土蔵内の合薬55斤が爆発。5人重軽症。この土蔵は「滋賀県平民大倉組の渡辺久兵衛方の土蔵」とある。

〃　〃　〃　東京府知事楠本正隆の告示37号。新設の区郡に関係なく、従来の公立小学校は、各組合町村で従来通り維持すべしとある。他の府県でも同じような通達があったとも思われる。

（東京都北区神谷2ノ22ノ13　**須藤欣二**）



あれから百年、三島の宿は変りました。

ホワイトLGもその変貌に一役買っています——

その昔、上り下りの旅人でにぎわった東海道の宿場町三島。今では新幹線の停車する近代都市に変りました。

その三島駅で、**ホワイトLG**がホームの屋根をささえています。錆びないこと。これがホワイトLGの使われる要因です。

特　長　■防錆処理なしで使用できる。■塗装にも適している。■経済的である。

くらしと鉄を結ぶ月星印

月星印

特殊亜鉛めっき軽量形鋼

ホワイトLG

総合スチールメーカー

日新製鋼株式會社

東京都千代田区丸ノ内3—4—1（新国際ビル）
TEL　東京　03（216）5511（大代表）

建築と社会 ニュース

ニュース原稿をお送りください。

■「大阪から公害をなくす会」発足

大阪府下12地区の住民組織を核に、労組、大学関係者など計55団体が加盟した「大阪から公害をなくす会」結成大会が、2月17日午後6時から北区・中之島中央公会堂に約2千人が参加して開催された。

これは公害反対の広域的な住民運動としては、全国でも最大規模の組織で、会長に選ばれた丸山博阪大医学部教授は「公害の元凶として企業と政治の責任を追及する。それには住民の団結力しかない」という、きびしい府民の立場を打出し、こんご兵庫県下の広域住民運動組織「兵庫県から公害をなくす市民連絡会議」をはじめ、各地の住民運動とも連帯を押し進めていくという。ついで各地区からの報告、映画、学者の講演のあと、こんごの運動の進め方などが話合われた結果「大阪から公害をなくす当面の要求」として、①泉北一区追加埋立てと企業誘致の中止。西淀川区外島地区への企業進出中止。②関西電力堺港火力発電所七、八号機の本格操業の中断。岬町多奈川、大阪南港の火力発電所建設中止。③大阪空港へのジェット機乗入れ規制、④府民の上水道源である淀川、大和川、猪名川などの汚濁防止の緊急措置。⑤産業廃棄物処理場は、地域住民の同意なく建設させない。建設および維持費は企業負担。⑥公害の実態調査、資料の公開、厳密な監視体制のほか、住民の調査活動の保障。⑦府公害防止条例の抜本的改正――などを決議した。

運動の第一弾として、19日からの2月府議会に提案される大阪府公害防止条例案に「工場の新増設にきびしい規制を盛込ませるなど、府民の立場にたった条例制定」を働きかける。

加盟団体には、住民組織では西淀川から公害をなくす市民の会、高石から公害をなくす市民の会、高石から公害をなくす対策会議、此花から公害をなくす会準備会、堺から公害をなくす市民の会ほか数団体、科学者団体では日本科学者会議大阪支部、大阪府保険医協会、大阪民主医療機関連合会ほか数団体、その他労組などがあり、府県段階の広域住民組織としては、去年八月「兵庫県から公害をなくす市民連絡会議」(40団体のほか、個人加盟)、同年10月「神奈川県住民運動連絡会議」(38団体)が結成されたのに次いで、全国で3番目だが、参加55団体、構成員30万人という数は、公害反対の運動組織としては全国最大規模。

■建築基準法および建築士法施行20周年記念表彰式・講演会

大阪府では、基準法・士法施行20周年記念行事の一環として、標記表彰式・講演会を去る2月15日午前10時から正午にかけて、大阪府庁別館7階研修所講堂にて開催された。表彰式は午前10時から10時30分にわたって行なわれたが、ひきつづいて竹腰健造氏(大阪府建築審査会長)による「新しい時代の門出」のテーマで示唆にとんだ講演があって盛会裡に終了された。



講演する竹腰健造氏

「設計に緑を」――竹中工務店の新しい運動――

竹中工務店では、1月から設計部を中心として「設計に緑を」という運動を進めている。緑化運動については、すでに各方面から多くの提案がなされ、大阪市をはじめとして、行政面でも熱心な努力がなされている。同社の運動はこれらの動きに具体的に呼応するものといえるが、緑を単に、樹木や草花を意味するにとどめず、メンタルな領域を含めて、豊かな環境の創造を象徴する言葉としてとらえているところに、その特色がある。御堂筋に面して大胆に緑を開放している伊藤忠、センタービル。吹田市内に建設中の大同生命本社など、都市再開発、地域開発にともなう広場と緑の環境づくりに、竹中工務店のすぐれた実績が、今回の運動の基盤となっている。今後、この種の運動が、一企業にとどまらず、社会全般に輪を広げることを期待したい。



すぐれた居住性を創造する

軽量気泡コンクリート

シポレックス

SIPOREX



軽量

比重0.5

コンクリート¼の重量

断熱

コンクリートの10倍の断熱性

耐火

法定耐火材料

ダイキン工業(株)滋賀工場
設計　株式会社　日建設計
施工　(株)大林組、鹿島建設(株)
　　(株)竹中工務店　　JV
使用場所　ヤネ・カベ

◆シポレックスは工場、住宅から超高層ビルまであらゆる建物の屋根・床・壁・間仕切・耐火被覆に使用されますが次の建物には特に最適です。

1　工期短縮を要するすべての建物
2　空調を要する工場・倉庫事務所住宅等
3　鉄骨大張間の工場・体育館等
4　軽量化を要する高層建築物・軟弱地盤の建物
5　鉄骨耐火構造の建物

シポレックス販売株式会社

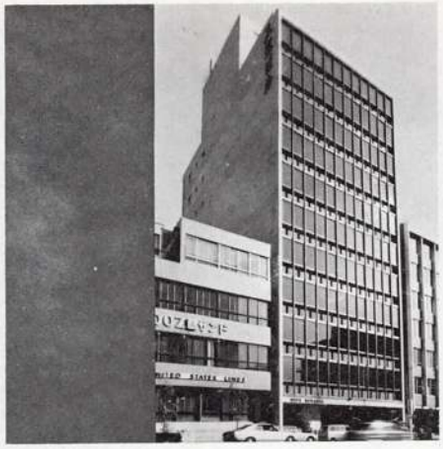
本社・東京支店　東京都千代田区神田司町２－６(平沼ビル)
　　電話　東　京　(256)代表３　４　５　１
大　阪　支　店　大阪市西区立売堀北通１－90(第三富士ビル)
　　電話　大　阪　(538)代表０　５　２　１
名古屋支店　名古屋市中村区広小路西通３－２(大商ビル)
　　電話　名古屋　(581)代表７　４　２　１

□ 写真と概要をどしどしお送りください。
凡例：a．所在地　b．建築面積　c．延面積　d．構造規模　e．工　期



640. 日本交通㈱鳥取本社

設計：KK　真鍋建築設計事務所
施工：山　本　工　業　KK
a．鳥取市吉方７９７－５
b．666.670 m²
c．3,714.100 m²
d．SRC造、B１、５F
e．昭和44年８月～昭和45年６月



641. 入　江　ビ　ル

設計：KK　創建設計事務所
施工：KK　竹中工務店
a．神戸市生田区京町７６－２
a．408.28 m²
b．4,983.63 m²
d．SRC造、B１、11F、PH２
e．昭和44年９月～昭和45年11月



642. 法華クラブ福岡支店

設計：KK　ゲンブラン
施工：KK　大　林　組
a．福岡市住吉３丁目１番９０号
b．434.565m²
c．5,165.7 m²
d．SRC造、B１、11F、PH３
e．昭和44年７月～昭和45年８月



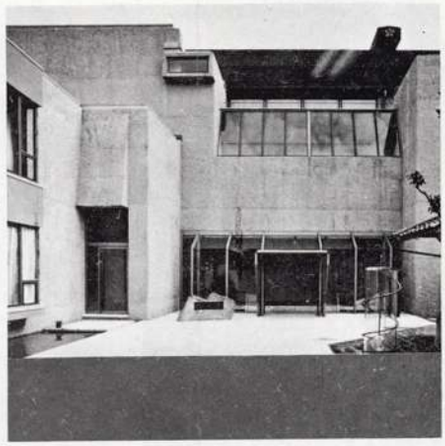
643. 博多城山ホテル

設計：KK　大　林　組
施工：KK　大　林　組
a．福岡市中洲５丁目３番４号
b．1,250.93 m²
c．12,255.41 m²
d．SRC造、B２、９F、PH２
e．昭和44年９月～昭和45年12月



644. 交野福祉センター

設計：KK　赤松菅野建築設計事務所
施工：前　田　組
a．大阪府北河内郡私部
b．596 m²
c．1,684 m²
d．RC造、B１、３F
e．昭和45年７月～昭和46年３月



645. 大阪天満宮会館

設計：岡　田　金　次　郎
施工：池　田　建　設　KK
a．大阪市北区大工町
b．670.50 m²
c．2,057.44 m²
d．RC造、３F
e．昭和44年10月～昭和45年８月



646. 兵庫県交通安全視聴覚センター

設計：兵庫県建築部営繕課
施工：三　　協　KK
a．尼崎市武庫元町交通安全公園内
b．1,520 m²
c．256 m²
d．RC造、１F、屋根S
e．昭和45年４月～昭和45年８月



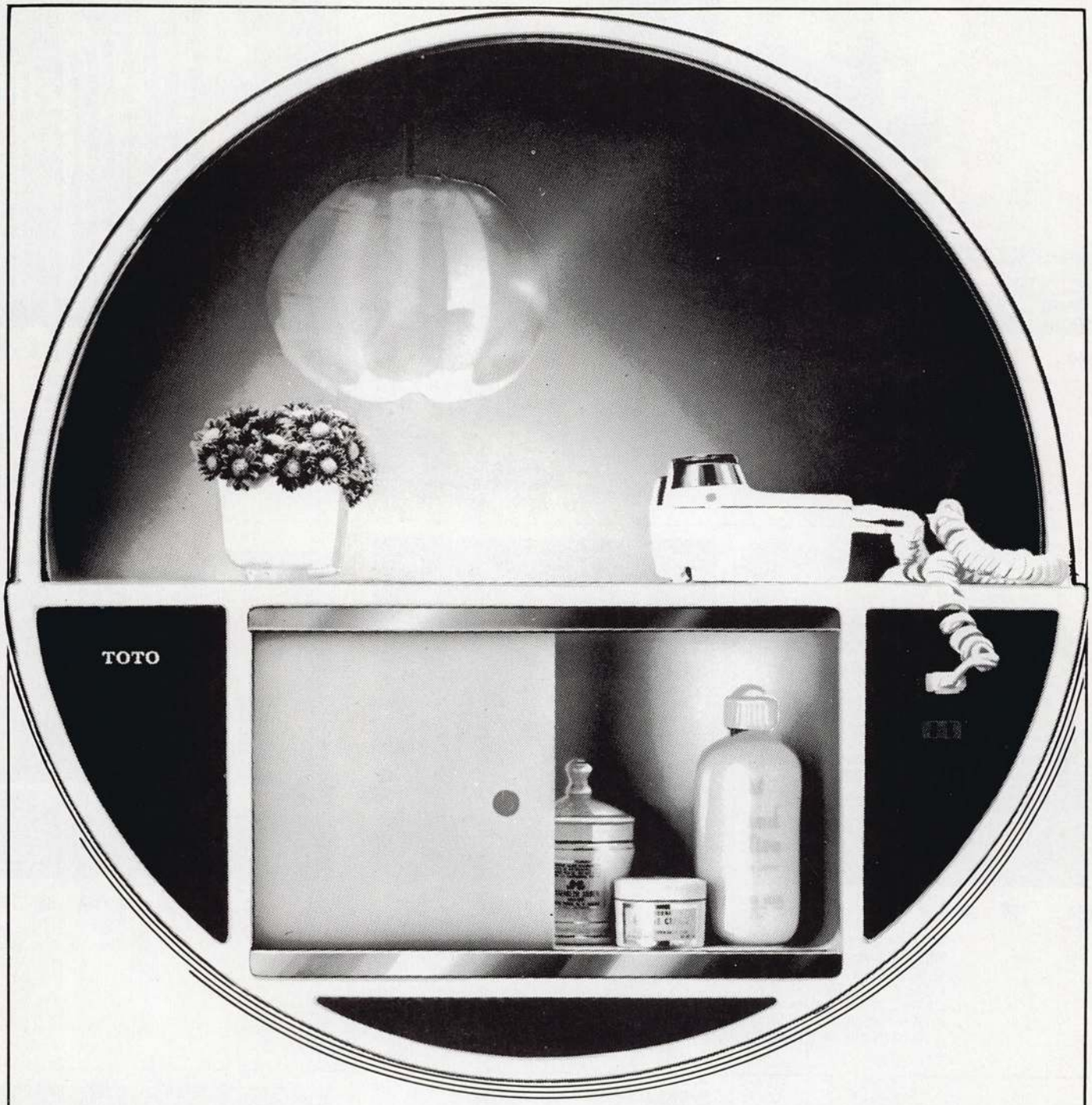
647. 三重県立大学医学部基礎校舎

設計：近藤建築設計事務所
施工：KK　浅　沼　組
a．津市江戸橋地内
c．9,848.994 m²
d．RC造5F、SRC造3F
e．昭和44年10月～昭和45年12月



648. 公立学校共済組合名古屋宿泊所王山会館

設計：KK　石本建築事務所
施工：KK　鴻池組名古屋支店
a．名古屋市千種正覚王山通り8-18
b．1,623.55 m²
c．6,889.00 m²
d．本館SRC造、７F、PH１
　職員宿舎RC造、４F、PH１
e．昭和44年9 月～昭和45年10月



洗顔・化粧・はみがき用具がきちんと納まります

TOTO

東陶機器株式会社
旧社名　東洋陶器株式会社

大阪市東区高麗橋5の32　〒541
(06) － 203 － 5701



化粧キャビネット

Y3503　露出形・円形
¥7,600　意匠登録出願中
直径582×厚さ120mm
色・アイボリーホワイト

Y3502　露出形・角形
¥6,600　意匠登録出願中
515×565×135mm
色・アイボリーホワイト
※ 浴室での使用はお避けください



クラスメート

71

〔大阪市立都島工業学校　昭和16年12月卒〕

すわっている人 左より（敬称略）

桃田 精介（KK竹中工務店・新東昭開発大阪支店営業部長に出向）
大町 幸一（大成建設大阪支店　営業課長）
鳥巣 次郎（とす松浦建築事務所）
大森 通亘（高田機工ＫＫ　営業課長）
和田善之助（清水建設KK大阪支店　営業部長）
木村 敬一（KK乃村工芸社　チーフプロモーター）

後列の人 左より（敬称略）

多喜　久（不二建設KK　営業部長）
堤　勝司（KK松村組　見積部長）
天池　清（金井重要工業ＫＫ　営繕課長）
前川 政則（KK銭高組本店　工事部）
賀本 一男（KK大阪建築事務所　工務課長）
古田 健蔵（貸　家　業）
竹内 一郎（竹内工務店自営）
小林 久夫（KK安井建築事務所）

大阪梅新・大東方にて　昭和46年３月９日

大東亜戦争勃発の時と同じ昭和16年12月に卒業したわれわれは、ちょうど実業学校卒業生の上級学校への進学制限がされていた時であり、ほとんどみんな直ちに就職し、その後、日ならずして兵隊に行ってしまった。その結果53名の同級生のうち２割にあたる11名の戦死者を出すというような、しかもその人達はクラスでも1、2番を争う偉い奴が多いという悲しい結果になってしまったことは返すがえすも残念なことです。しかし幸いにも生き残ったわれわれは敗戦後の苦しい時代を頑張り通し、年令も48、49才と油ものりきり、それぞれの職場で大いに活躍しています。学生時代勉強もそっちのけで軍事教練にはげみ、青春時代に戦争を体験したわれわれは、とくに大正12年生まれの猪年の者も多く、ただガムシャラに精神力で突進することだけで今日まで来たものの、時代も変り、この頃ようやく落ちつきもでき、遊ぶことも覚え、みんな集まると2、30年前にかえって、青春を楽しんでいるようです。**天池　清君**　顔と頭の良さはクラス一番　金井重要工業の営繕課長として同社が多角経営でやっている「サニーヒル」や有馬の古泉閣の方でも大活躍。**大町幸一君**　大成建設の神戸営業所から昨年大阪支店の営業に変り、いつも変らぬ笑顔で営業成績抜群。**大森通亘君**　鉄骨の高田機工の優良株。ゴルフの方も仲々の腕前。**賀本一男君**　大阪建築事務所にあって工事管理のベテラン。先年東南アジアで得意のジェスチュア英語で大いに敏腕を振ってきた由。**木村敬一君**　乃村工芸社にあってセンスの良いところを大いに発揮。万博でも大活躍。**小林久夫君**　安井建築事務所で永らく四国に行っていたが大阪へ帰って国際空港ビルなどをはじめ、現場管理で内外より評判の良いのは彼の頭の良さと人の良さか。**竹内一郎君**　昨年馬場建設をやめて独立。目下地盤固めに大奮闘。長男もすでに建築の実社会で活躍中とか。**堤　勝司君**　松村組の積算の重鎮、昨年ちょっと身体をこわして休んだが、すっかり良くなり、またまた活躍を開始。ライバル会社からみればなかなかの強敵。**鳥巣次郎君**　同級の松浦君と組んでとす松浦建築事務所を開設。学生時代から仲々のファイトマンだった彼、目下業績もぐんぐんと伸びていると睨んだ。**古田健蔵君**　家業の建築請負からマンションの経営へ。目下悠々とゴルフを楽しんでいるところか。**前川政則君**　銭高組はえ抜きの現場マンのオーソリティ。彼の手にかかった建物の何と多いこと。**桃田精介君**　永年竹中工務店の設計部でその敏腕を発揮していたが、今度見込まれて傍系の新東昭開発に出向して同社の営業を担当、大いに張切っている。**和田善之助君**　清水建設で永年の現場より大阪支店の営業部長に栄転。若い頃からのポツポツの白髪がこの頃では半分位。大会社の営業部長としての貫録十分。**多喜　久君**　不二建設の営業部長として活躍する一方、母校の同窓会「浪速工業会」の理事や建築科の「青甍会」の幹事、クラス会の幹事などこまめに動き廻っている世話好きの男。

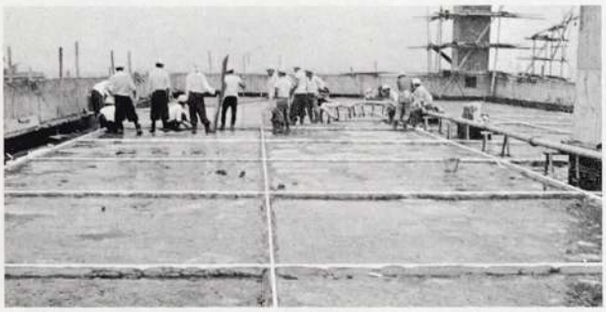
なお建築協会の委員の星野二郎君、それに沢田幸一君、西谷正雄君も出席予定であったが、都合で来れなくなり残念でした。

（多喜記）

防水層の保護と軽量、断熱に

共栄のパーライトコンクリート PC－D工法

（歩行用及び防水下地用）



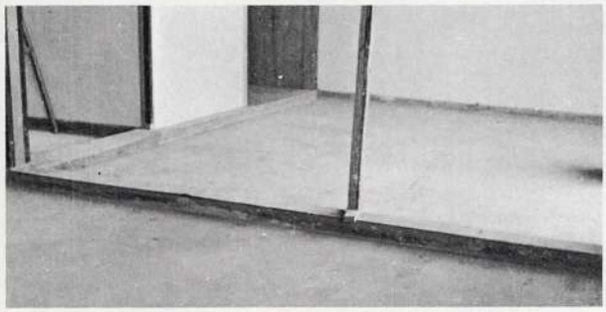
共栄パーライトコンクリートＰＣ－Ｄ工法採用の京都工芸繊維大学
（設計　教育施設研究所、施工　ＫＫ大林組）

作業が一工程省け工期の短縮と コストが安くなる合理化工法

- 防水層の押えに使用し仕上モルタルの要らない金ゴテ一パツ仕上工法
- デッキプレートの軽量化や露出防水下地、または貼物下地にナラシモルタルの要らない金ゴテ一パツ仕上工法

畳下地の省力化と塩ビ系タイル下地の防湿、防温、軽量化、断熱（結露防止）に

共栄のパーライトモルタル PM－C工法



共栄パーライトモルタルＰＭ－Ｃ（普通タタミ下地）採用
の住友電工西島社宅（設計施工　ＫＫ竹中工務店）

- タタミ下地の床組（大工仕事）が全く要らないので**工期短縮とコストが安くなる**
- 床組しないので建物の**ボリュームの節約ができる**
- 無機質 100％絶対耐火それに多孔性材料のため吸温、遮音に優れている
- **独立気泡**の共栄パーライトと**防水液を使用した完全防水パーライトモルタル**であるため、湿気を全く透さない
- **比重・断熱共木材並１：３**
  （比重0.85kg／ℓ、熱伝導率0.14kcal／mhc）

遂に出た…ベニヤ仮枠コンクリート下地の**かべ**、天井の一パツ吹付仕上工法

ネオパールスキン®

化粧、吸音、防湿、断熱（結露防止）と多目的用に

- ベニヤ仮枠コンクリート下地（天井及びかべ）に直接吹付して剥離の心配がない
- **かべ面は金ゴテ押え**すれば聚洛壁タイプの表面強度のあるソフトでデラックスなムードである（ネオパールスキンの特徴）
- 一工程で仕上るので**工期の短縮とコストが安くなる**
- 下地はボード類、鉄板類、石綿板、モルタルなど何んでもよい
- 標準色20色と特別色もできる



ネオパールスキンをベニヤ仮枠コンクリート下地の天井（吹放し）壁（金ゴテ押え仕上）採用の西宮トラピスト修道院
（設計　村野森建築事務所、施工　ＫＫ竹中工務店）

共栄パーライト販売株式会社
大阪市東区森之宮西の町５９４　TEL代表(941)９２４３

眼 けんちくのめ・けんちくのめ・けんちくのめ・けんちくのめ

眼

眼

眼

福田朝生
KK双星社竹腰建築事務所代表取締役
堯天義久
神戸大学教授・工博
宮脇和正
大阪府建築部長
安田誠一
安田株式会社会長

眼 けんちくのめ・けんちくのめ・けんちくのめ・けんちくのめ

眼

眼

眼

眼

〔一月号より六月号まで上記四氏で担当〕

● 建築士と建築士法

建築士法が制定の意志に反して単なる資格法的な面だけが強調されて運営されていることは建築界はもとより一般社会にとって極めて不幸なことといわねばならない。
建築設計監理業務法の制定が強く望まれているのは、建築設計監理業務の適正化を目指すと同時に資格法として士法を正しい姿に改めることにほかならない。
また士法に1級、2級の階級制を採用したことはわが国独自のものとされているが、現行の階級制がそのままでよいかどうか、特に2級建築士の存在が果して社会の期待に応えているかどうか甚だ疑わしい。規模がどうあろうと建築物に上下の差があるはずがない。小建築物といえどもその設計および監理はれっきとした建築士の仕事でなければならない。したがって、もしかりに区別をするとすれば2級建築士の程度を現在の1級建築士のレベルまで引き上げるとともに設計、構造、設備などの専門分野にはっきり分けてしまい、1級建築士は2級建築士を統轄する設計監理のプロデューサたるべき人々の資格と改めるべきではないか。 (F)

● 耐震設計におけるfactor of ignorance

構造の規準が改正されるたびに「研究が進むほど、設計規準が厳しくなる」「設計を丁寧にやるほど、非常識になる」とかの言葉をよく聞かされる。規準の改正は、学問技術の進歩の過程でやむをえないし、構造の一部の破壊破損が全体の崩壊に進むことのないという構造設計の基本理念からむしろ当をえていることであるのだが、この率直な一般の印象はなぜであろうか?
耐震設計において、「ある構造物はいかなる地震荷重に対し設計すべきか」という命題が解決しない限り安全率は明確にならないので、factor of ignorance の性格を帯び易い。ところが、この命題自身が耐震設計そのものでもあり、ここに問題の困難さがあるとともに、上の率直な印象を招く原因になっている。このfactor of ignorance をなくするためには、崩壊建物許りでなく、崩壊しなかった建物に科学的メスを加える必要もある。地震の研究が進めば、もしかりにすべての建物はwhite noise, 330gal の地震を対象とすべきだとなったとしても、設計安全率は明確にされるだろうし、またある建物に対しては、こういう地震は考慮しなくてもよいといった明快な結論がでてくる可能性もある。 (G)

● 線引の一問題点

都市計画法が全面改正されて都市計画区域を市街化区域と市街化調整区域とに分ける、いわゆる線引が行なわれ、開発許可制度ができた。
大都市周辺の限りないスプロール現象をくい止めようというのが最大の目的である。公共投資を効率よく計画的に行なって、都市への人口集中をよりよく誘導しようというのである。したがってこれからの都市住宅はこの市街化区域の中に建設されなければならない。いってみればあたりまえのことであるが、これがなかなかむつかしいのである。各市では開発についての関連公共公益施設についての費用負担が問題になっている。通勤の足である鉄軌道、バス事業もまた開発者負担の問題が提起されている。
このような事情を考えると、すべての開発行為が順調に市街化区域の中でほんとに起るであろうか。
さらに線引により、市街化区域内の地価は公共投資が期待され、それだけ価格があがることはないか。まずこのことが区域内の開発をにぶらすのではないか。線引と公共投資だけで、市街化区域での開発を誘導するにはまだ条件が足りないようである。 (M)

● 百年の大計・故後藤新平を称える

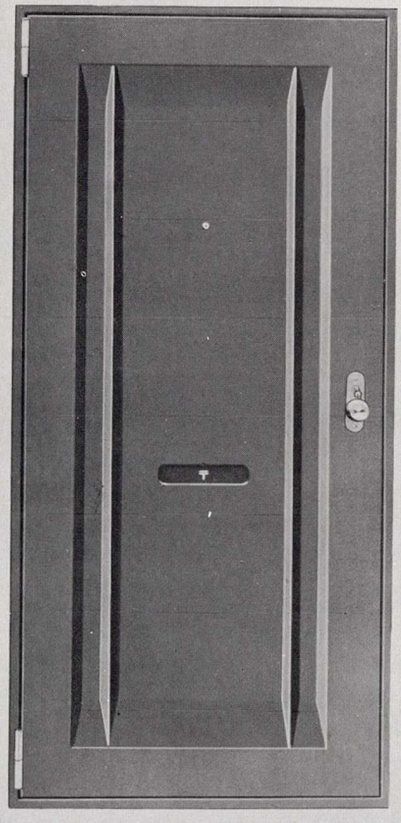
明治、大正時代の政治家後藤新平という人は、偉大なる人物であったと思います。現職中は「後藤の大風呂敷」とさんざんたたかれたものです。何事でも百年の大計をたてて計画した人でした。
私が50年前台湾へいったとき、台北の新市街の余りにも立派なのに驚嘆しました。全部洋風で三階建以上です。人道は、一階の軒下4メートルぐらい、人道の上が二階になります。車道は、人力車よりない時代に、実に広く六車線ぐらいはできましょう。後藤新平が、台湾総督府民政長官時代の建設です。総督府も立派なものでした。当時大阪はもちろん、東京でも洋風は非常にまれでしたからまったく驚きました。台湾在住の内地人の方が、「台湾人に東京をみせるより、台北をみせるだけにした方が、政治的効果がある。」といわれたものです。
東京駅も後藤新平の計画でできたものですが、東京のS氏が、私に、「東京駅にクモの巣の張ったマンガを書いて、トテツモナイ大きなものを造ったと、さんざんたたかれたのだが、後藤ならこそ、よくあれだけのものを造ってくれたのだ。」といってたたえられました。
後藤新平は、東京大震災の後、内務大臣兼帝都復興院総裁として、画期的な復興計画を作りました。現在の昭和通りは、2倍か3倍の大道路の計画でしたが、議会でさんざんたたかれて、だんだん細くなり、ようやく現在の広さになったと聞いています。もし、後藤新平の計画通りにしていましたら、交通マヒもなく、世界の模範都市になっていたことでしょう。 (Y)

住宅



きんき プレスドア

防火ドアー



住宅用として開発

きんき アルミサッシ

〔ＫＪ指定メーカー〕

製造元 **近畿車輛株式会社**

本社建材工場　大阪府布施市橋本１番地の１　電話大阪（782）１２３１代表
所沢建材工場　埼玉県所沢市大字所沢１４１５番地　電話所沢（22）５１０１代表

販売元 **近畿工業株式会社**

本　　社　大阪市北区梅ヶ枝町１０８番地　新梅ヶ枝町ビル　電話大阪（363）３３７１代表
東京支店　東京都千代田区神田松永町１９　東京近鉄ビル　電話東京（255）８２７１代表
名古屋支店　名古屋市中村区広井町２－２２　川島ビル　電話名古屋(571) 9111
神戸営業所　神戸市生田区海岸通１－５－１　新東方ビル　電話神戸（39）０９０５
広島営業所　広島市鉄砲町１０番１０号　寿屋ビル　電話広島（21）６５８５
福岡営業所　福岡市博多駅中央街８の３６　博多ビル　電話福岡（41）９３６１

御一報次第カタログ拝送します。

The Architectural Association of Japan

建築と社会

表紙デザイン：表紙デザイン小委員会 & 山元清重

都市生活とみどり　1971年 Vol. 52 4

会　告　会長就任あいさつ（塚本猛次）・会長退任あいさつ（東畑謙三）・国宝重文の拝観とぱたんの観賞撮影会―当麻寺と石光寺―・東京の新しい超高層建築の見学会―京浜急行ホテル並びに朝日東海ビルの新築工事―・SNSU―草津プロジェクトとクーラー冷蔵庫の工場見学会・飛鳥藤原宮跡発掘現場その他の見学会・通常総会議決報告 …… 3

法令コーナー44.　大阪府建築基準法施行条例の改正について(木田照之)・建築基準法第55条第2項の指定による建ぺい率の緩和について …… 7

読者の頁　文化遺産の保存と開発―兵庫県下の実例とともに―（坂本勝比古）・明治建築土木史年表45（須藤欣二） …… 9

建築と社会ニュース　「大阪から公害をなくす会」発足・建築基準法および建築士法施行20周年記念表彰式講演会・「設計に緑を」―竹中工務店の新しい運動― … 15

スケッチブック　最近竣工した新建築9点（№640～648） …… 17

クラスメート71.　大阪市立都島工業学校　昭和16年12月卒 …… 19
（小林久夫・堤勝司・前川政則・桃田精介・和田善之助・多喜久ほか8名）

建築の眼　福田朝生（建築士と建築士法）堯天義久（耐震設計における factor of ignorance）宮脇和正（線引きの一問題点）安田誠一（百年の大計故後藤新平を称える） …… 21

海外写真　ソ連の街と人　4 ……写真と文・松井　昭光 … 25

作品作風　村野・森建築事務所……設計：村野・森建築事務所 … 26
施工：鹿島建設KK
「設計とみどり」……Uビル，花隈公園駐車場，静岡県庁東館，大阪銀行協会ビル，伊藤忠ビル大阪センター，東洋紡績敦賀ナイロン工場ほか7点

特集＝都市生活とみどり

1　都市生活の快適さと空間のしくみ ……多胡　進 … 38
2　都市と緑化運動 ……加藤　一男 … 44
　ビル緑化のすすめ ……中川　秀夫 … 47
3　住いの緑 ……近藤　公夫・UDO … 49
4　生活環境トピックス
　生活道路さまざま ……嶋田　勝次 … 58
　都市の老人 ……安田　孝 … 60
　子供と水 ……近藤　公夫 … 61
　主婦と土 ……鈴鹿　幸雄 … 62
　共同住宅と貸花壇 ……塚本　正司 … 63

技術の頁 104.　設備部門　自動灌水装置……塚本　正司 … 64

戦後の建築運動史 8　友宜団体との交流……NAC … 71

月報　日本建築協会月間の動き（昭和46年2月分） …… 77

編集人　松井昭光
印刷　昭和46年4月20日
発行　昭和46年4月25日
発行人　福中定三郎
発行所　(社)日本建築協会
大阪市東区北浜3―37
電 大阪231―9648
振替口座大阪39975

印刷者　網野栄
印刷所　(株)研文社
大阪市北区堂山町66
電 大阪361―2091
売価　1部 300円・送料共

◀次号特集予告：企画と設計のプロセス
1総論　企画と設計のプロセス
2各論　官公庁における現行の企画設計方式
官公庁の委員会方式
住宅公団の標準発注方式
民間の企画における現行方式とプロジェクトチーム方式
地域経済の展開に対応する開発方式
◀6月号特集予告：解体工学

KENTIKU TO SHAKAI No. 4 Vol. 52, April 1971

(Architecture and Society)

A Journal of "The Architectural Association of Japan"

Cover design: K. Yamamoto

Editor: *Akimitsu Matsui*
Publisher: *Teisaburo Fukunaka*
Published by
The Architectural Association of Japan.
3 7, 3-chome, Kitahama, Higashi-ku, Osaka, Japan.
Price: *single copy price ¥300*

CONTENTS

Column for Laws & Ordinances about Architecture	7	
Column for Readers	9	
News for Architecture and Society	15	
Column of New Buildings	17	
Class-mates	19	
Essayes ("Kentiku no Me")	21	by *Asao Fukuda, Yoshihisa Gyoten, Kazumasa Miyawaki, & Seiichi Yasuda*
Photograph: Town and people of U.S.S.R	25	Photo: *Akimitsu Matsui*
WORKS OF NEW ARCHITECTURE ASSESSED		
Atelier of T. MURANO & MORI ASSOCIATED ARCHITECTS OFFIC	26	Design: *T. MURANO & MORI ASSOCIATED ARCHITECTS OFFICE* Construction: *Kajima Cooperation*
Greens in Design	30	
SPECIAL FEATURES ON URBAN LIFE AND THE GREENS		
[1] Amenity Planning for Urban Life	38	by *S.Togo*
[2] Urban and Tree-planting Movement	44	by *K.Kato*
Encouragement toward furnishing greens to building	47	by *H.Nakagawa*
[3] Green in the Dwellings	49	by *K.Kondo and UDO*
[4] Living Environment Topics		
Diverse Roads for Social Life	58	by *K.Shimada*
Aged within Cities	60	by *T.Yasuda*
Play Water for Children	61	by *K.Kondo*
Housewives and Soil	62	by *Y.Suzuka*
Collective Housing and Rentable Flower Bed	63	by *M.Tsukamoto*
COLUMN OF ENGINEERING		
104 Automatic Irrigation System	64	by *M.Tsukamoto*
History of Postwar Architects and Engineers Movement—8—	71	by *NA*
BULLETIN	3, 77	

海外写真

写真と文
松井昭光

ソ連の街と人

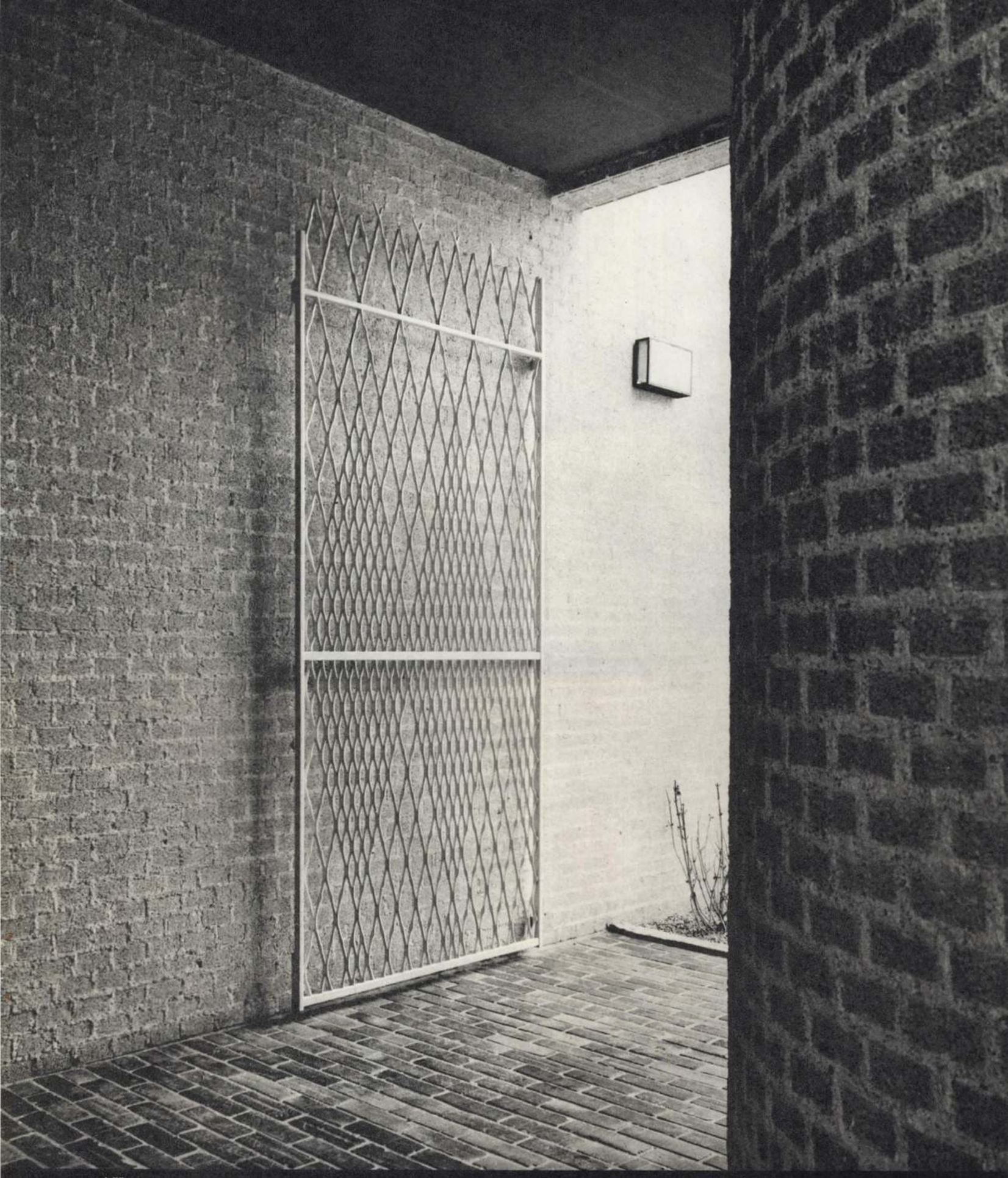
4

休み時間になると、広場は休息の場所だ。総じて、中年組が多いけれど、それでも公園道路ほどのことはなく、結構、若いアベックも腰をおろす。ベンチがまた腰をおろして背をもたせるにはほどよい曲線をもっている。バックの建物は、レニングラードの中心地ネフスキー広場にある宗教・無神論関係の歴史博物館。





◀外観



▲玄関

撮影：恒成一訓

村野・森建築事務所

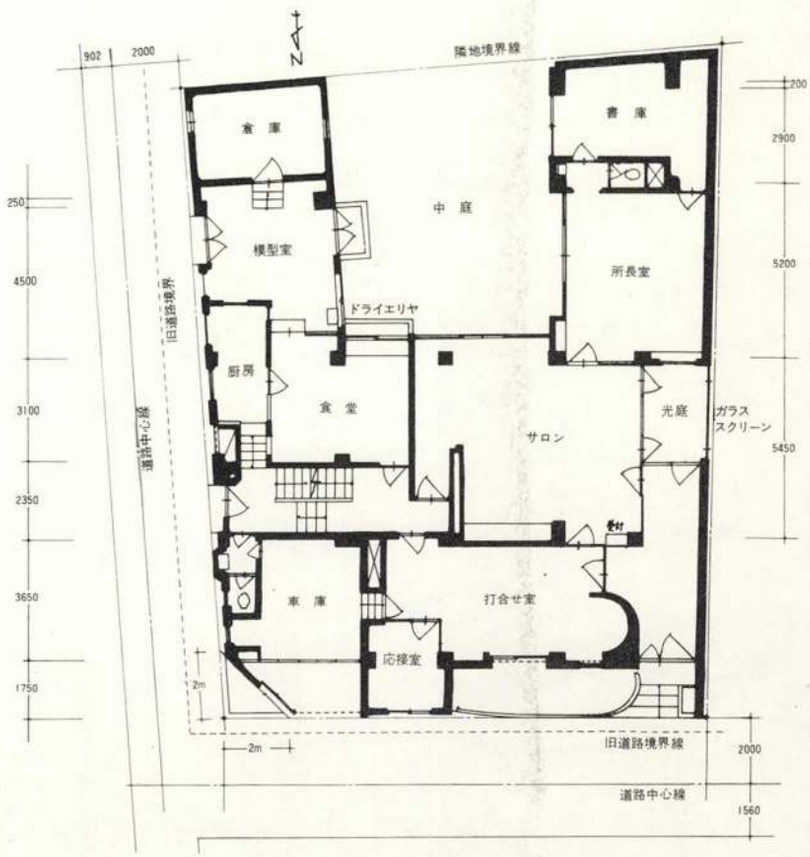
設計監理：村野・森建築事務所　　施工：鹿島建設KK



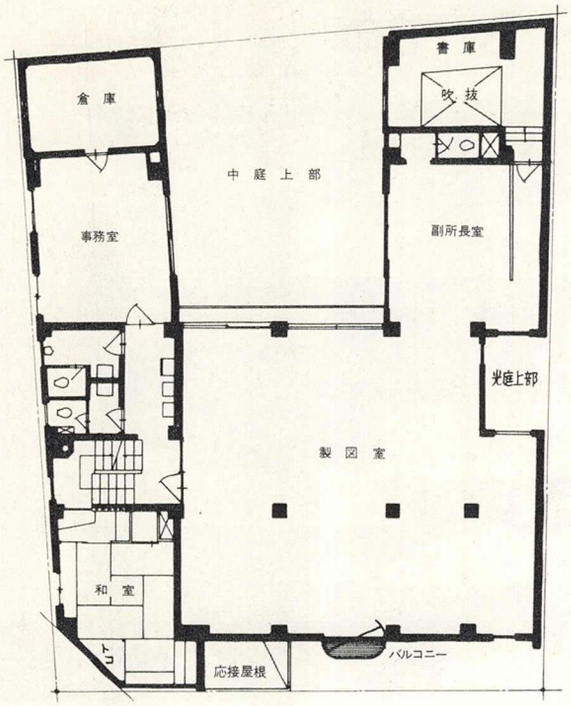
▲1階サロンより中庭をみる

村野・森建築事務所

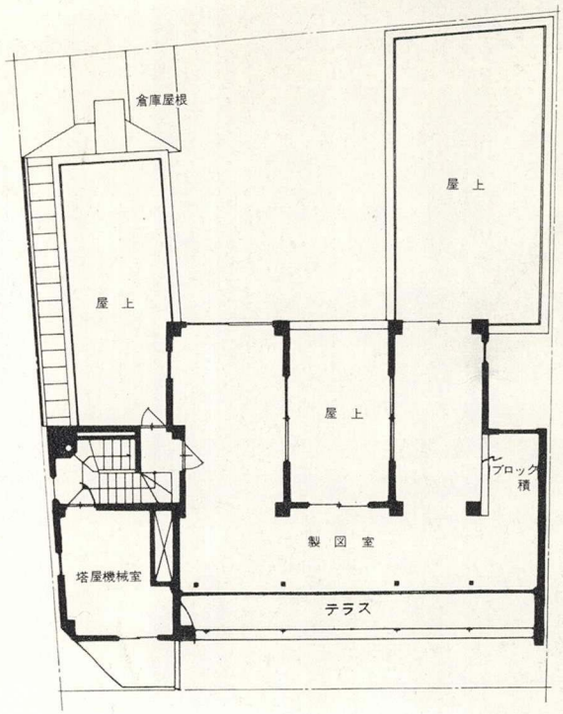
設計監理　村野・森建築事務所
施　　工　鹿島建設KK
設　　備　三機工業KK
所 在 地　大阪市阿倍野区阿倍野筋２－３－８
工　　期　昭和45年１月～同年11月末
構　　造　地上３階　地下１階
　　地下部分ＲＣ造　地上部分ＳＲＣ造
面　　積　建築面積　214.37m²
　　延床面積　564.83m²
外　　装　タイル貼およびリシン掻キ落シ
内　　装　床　１階　ＴＢ、パーケットモザイク　ゴムタイル等　２、３階　ビニタイル
　　壁　ネオパールスキン　金コテ押エ　ラフトン下地吹付ペンキ
　　天井　ＰＢ下地シネラートンおよびＰＢパーライトペンキ
冷暖房設備　エアロマスター（ガスボイラー使用）



1階

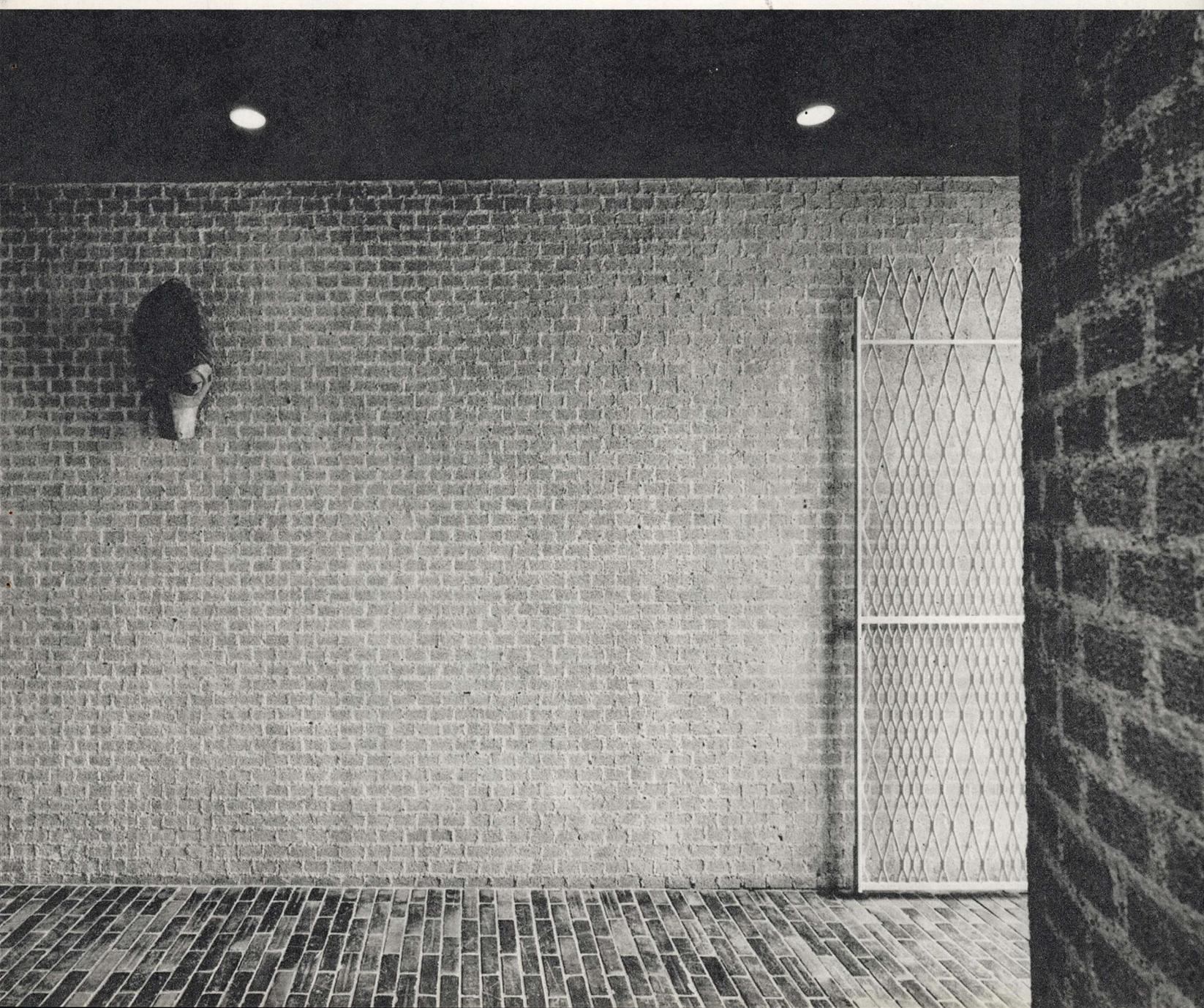

倉庫
書庫
吹抜
中庭上部
事務室
副所長室
光庭上部
製図室
和室
トコ
応接屋根
バルコニー

2階


倉庫屋根
屋上
屋上
屋上
ブロック積
製図室
塔屋機械室
テラス

3階

▼玄関



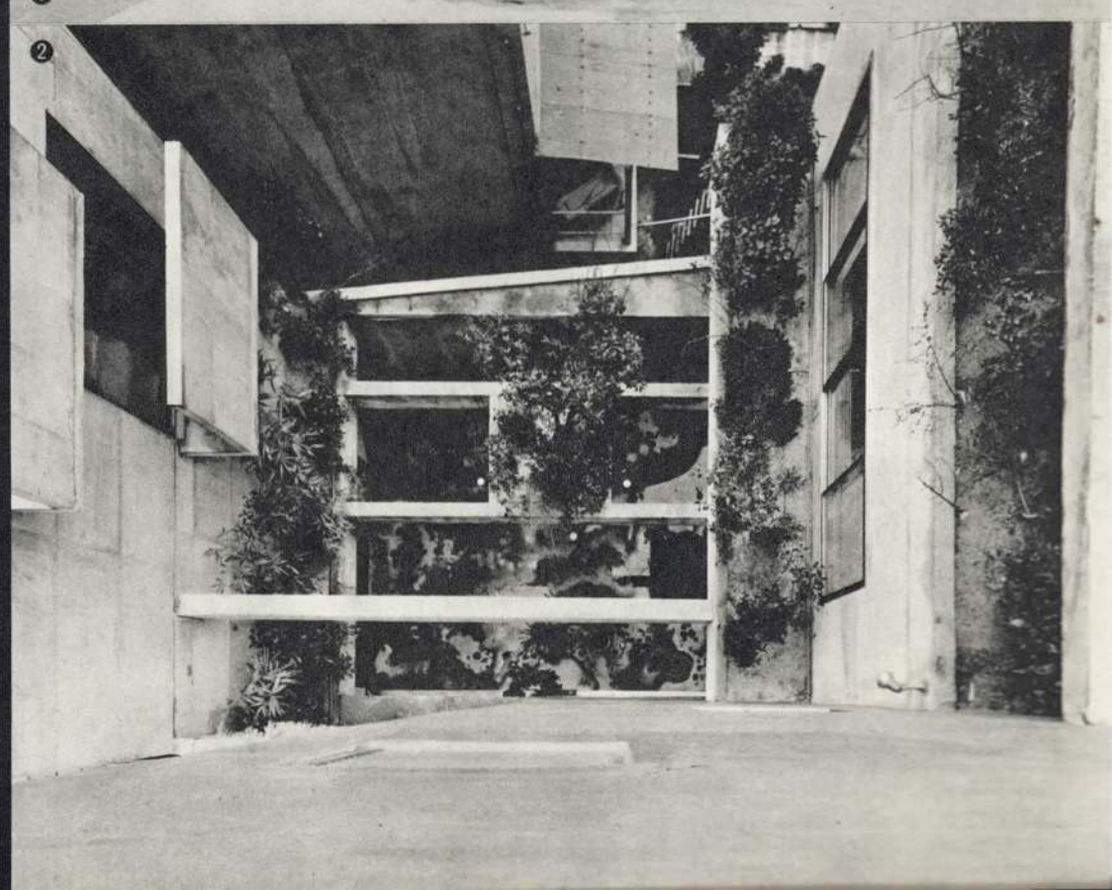
設計とみどり

建物ができてから、緑をとり入れるのではなく、設計の段階から、意図して緑をとり入れるよう、デザイン的にも工夫のあとのみられるもの——そうした建物をみると、建築技術者としてうれしくなる——今回は、「みどり特集号」にかんがみ、とくに市街地にあって、上記の意図で積極的に緑を生かした建物をいくつか選んでみた。

（作品作風小委員会）



❶



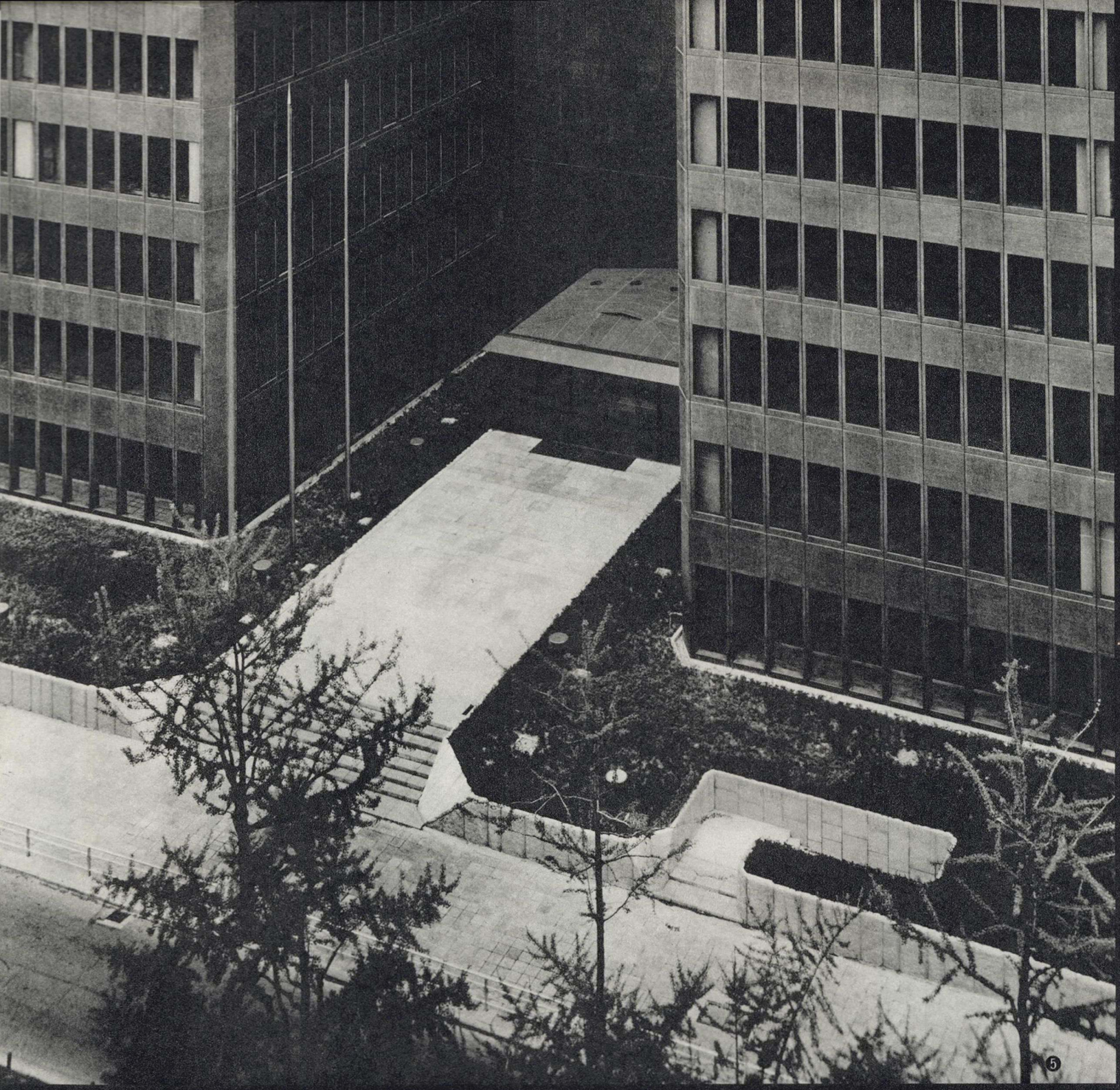
❷

①Uビル正面
②Uビル中庭
③花隅公園駐車場
④静岡県庁東館
⑤伊藤忠ビル大阪センター
⑥大阪銀行協会ビル
⑦日建ビル
⑧ニュージャパン
⑨東洋紡績敦賀ナイロン工場
⑩大阪マーチャンダイズマート屋上庭園
⑪大阪マーチャンダイズマート屋上
⑫新大ビル屋上庭園
⑬ホテルプラザ低層部屋上庭園
⑭ホテルプラザ1階中庭
⑮K氏邸
⑯K氏邸トップライト
⑰井植記念館

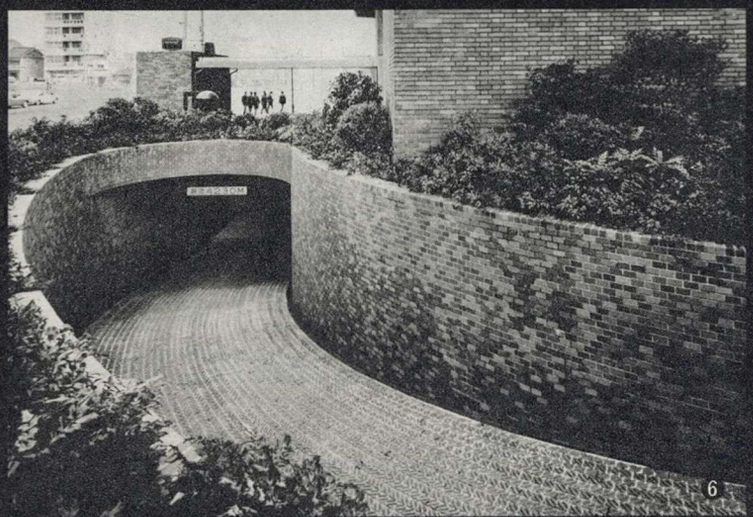


❸

❹



⑤



6



7



8



9



⑩



⑪



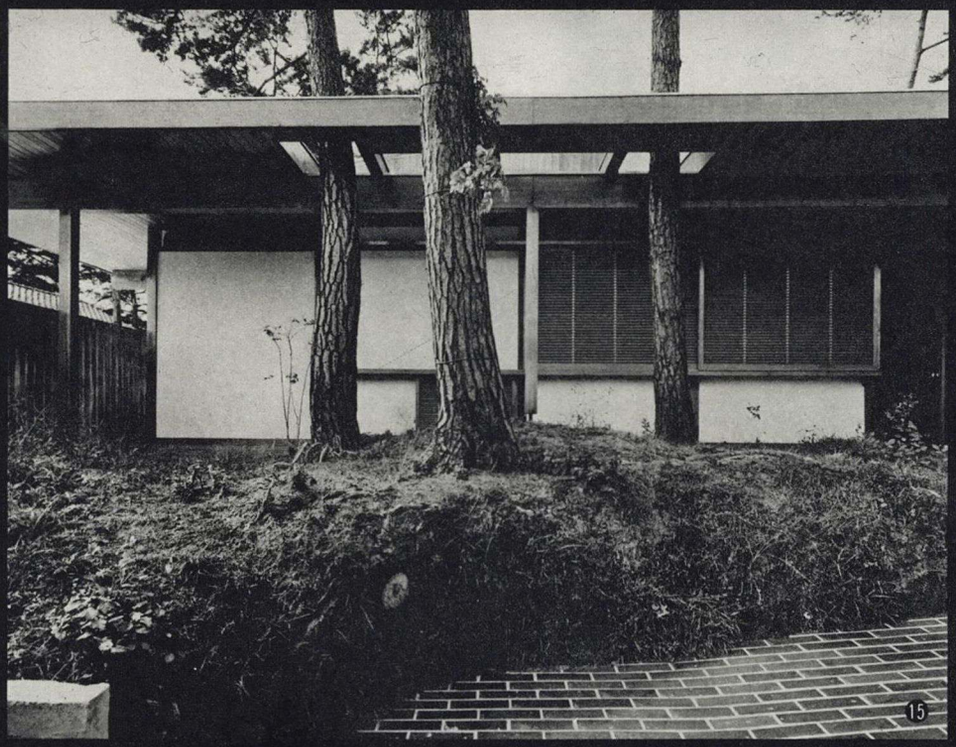
12



13



14



15



16

17

特集：都市生活とみどり

●都市生活における快適性とは何か……。これは早くから指摘され，いくつかのすぐれた分析もあるけれど，あらためて，もう一度探ってみようという気運になったのは，最近の「環境」というものの価値尺度が問いただされているからである。

●経済成長政策と都市化にともなう 自然環境と生活環境の破壊という 事態のなかで，「植物の被い」が地表から消えたらどのようになるか……。ある植物生態学者のいうところによると，地球上をコンクリートで全部被ってしまうならば，２千年～３千年で，この地球上から酸素がなくなるとのことである。

●ここにあらためて，植物の被いの「自然の自然」たる姿を思い起すのである。「都市に緑を！」は，またわれわれ建築関係者にとっては，「計画に緑を！」「設計に緑を！」「住いに緑を！」のキャンペンを意味する。（M）

●都市生活の快適さと空間のしくみ／**多胡進**

●都市と緑化運動／**加藤一男**

●ビル緑化のすすめ／**中川秀夫**

●住いの緑／**近藤公夫・島村昇・鈴鹿幸雄・中田雅資・村田光平・城戸健一郎**

●生活環境トピックス／生活道路さまざま・都市の老人・子供と水・主婦と土・共同住宅と貸花壇

●技術の頁／自動灌水装置／**塚本正司**

都市生活の快適さと空間のしくみ

多胡　進

1.　都市生活の快適さ，あるいは都市生活の楽しさを容れるためのしくみについて，安易に語るわけにいかない昨今である。都市生活の快適さに対する環境をとくに今回は社会的側面から書ければというのがここでのテーマである。このような大テーマについては，なおさら困難な事情を伴う。社会集団の形成のされ方が大きく転換しつつあると思えるからである。そこでは，都市生活の快適さに対する空間しくみは，現社会のしくみから単純にリニアな発想をしただけではつくりえまい。一方素朴な空間のアイデアも無力なことが多い。都市における快適な社会生活のための空間のしくみの問題を解決するにあたっては，その底によこたわる公害問題を生じさす基盤や土地問題，そしてそれらに対する社会のしくみ，さらにそれらに有効な計画の理論が解明されてこそ新しい段階に入ることができることは間違いなかろう。しかしながらここでは社会環境の問題を別な面から社会生活ないしは行動をめぐって考えてみたい。一方都市における社会生活の環境の問題は，社会生活そのものあるいは人間集団そのものに起因することであろうけれども，物的環境にそれらの問題をおきかえて考えることもできよう。さらに，物的環境を通じて考察した方が現在の社会生活の環境の問題により直接的にアプローチしたことになるとも思える。社会環境の中にある多次元の価値論がひとつの物的環境の中に集約している，あるいは，それらを通じて多くの人が考え方を展開させうると思われるからである。

2.　さて，日常の社会生活についての環境づくりは，いうまでもなく住区計画論，公共施設地域計画論，コミュニケーションシステム論，緑地系統の計画論，そして上位の視点からの都市構造論，都市構成論などがひとつの都市空間の中で折重なって行なわれていく。住区計画論に関連して，若干のものをあげてみれば，■19C末に組立てられ，20C初頭に実際展開された田園都市論とその系類，Feder の生活段階構成論，20C初頭の New York における混乱に対処しようとして最初に公的な立場で論として書き表わされたという C. A. Perry ほかの近隣住区論，C. Stein ほかによるラドバーンシステムの実験による計画論，一方，20C初頭の工業都市の混乱に対しての合理性を貫ぬいた理想計画論，■第2次大戦終了とともに出されたこれらの集大成ともみられる一連のロンドンプランのなかのコミュニティー単位や近隣住区をつかった環境づくり，これらに引続く New Town の計画のなかにみられる近隣住区やクラスター論，グルーピング論による環境のしくみ，■1950年後期から1960年代の Cumbernauld，そして Hook の計画から初まる素朴近隣住区論に対する批判を通じてつくられた後期 New Town から出てくる計画論，別の系から考えられたけれども，後期 N. T. における考え方と共通点が多いのは興味をひく C. I. A. M. 以来の理想都市論に対する批判を通じて生まれた Team X を中心とする考え方 —Candelis 他による新都市 Toulouse Le Mirail や P. A. Smithon などの計画，■現在にぎやかに出される市街地整備のなかにみられるコミュニティー計画論，再開発計画や生活環境整備計画にみられる中心施設街区内歩行者路，個別公共施設整備による計画論がある。ここにはこれらによって新しい環境をつくろう，そしてなんとかして新しい環境の段階を確保したいという期待がある。しかしながら環境のしくみについてのこれらの計画論が，今世紀前半につくられた理論に対して全く新しい方法が出せたかという問題を残している。

3.　卑近な例をあげれば，1950年代後期には，既成市街地をまとまった規模で再開発することはできなかった。ようやく大規模団地の実現の時期であり，当時香里団地は実現したものとしては世界でも稀にみる大規模団地であった。ここでは計画者の夢であった素朴近隣住区論の実施が多くの努力のなかで

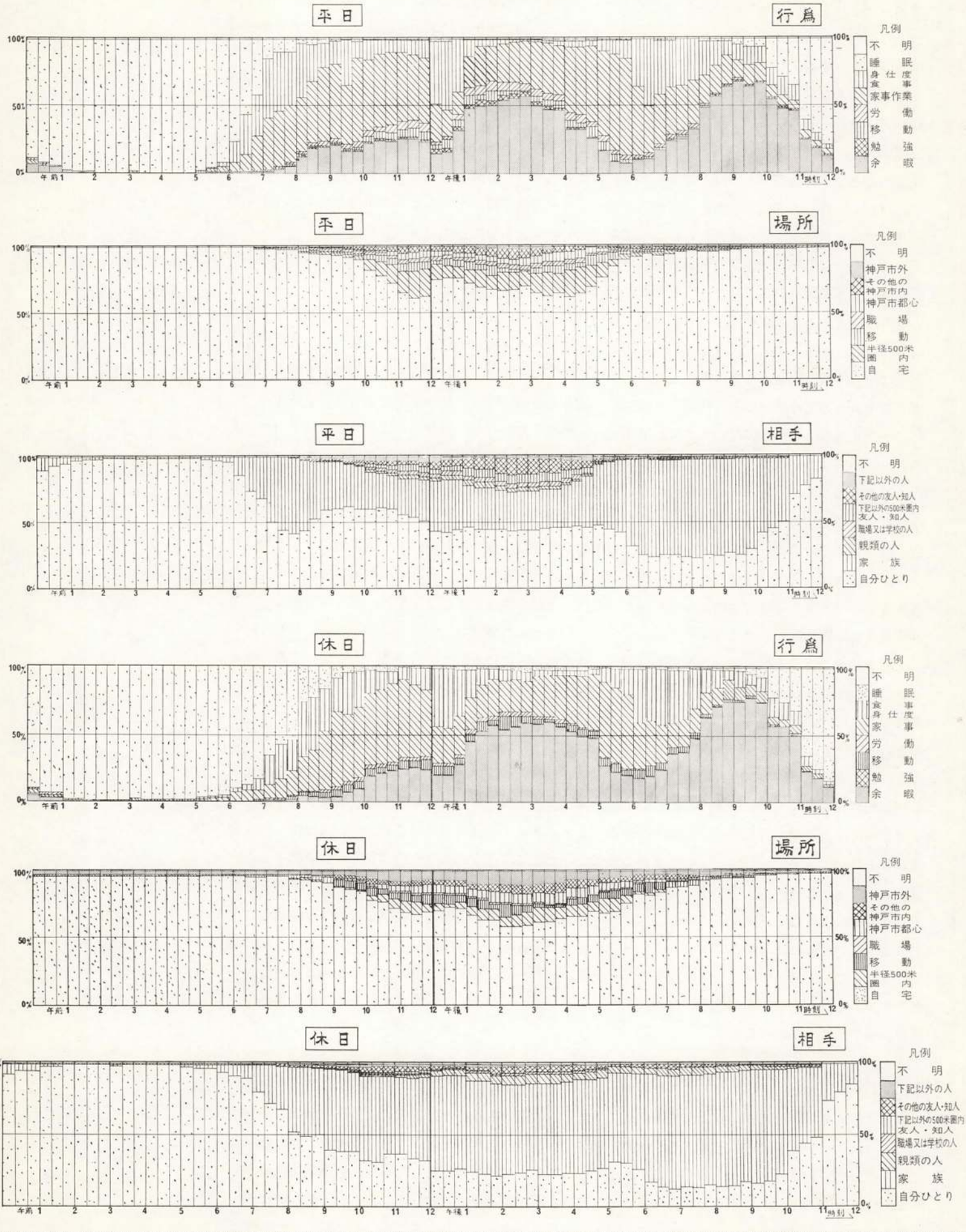
ある程度達成されたのである。社会生活のための環境づくりのしくみは今から思えば条件としても単純であったといえるが，当初の居住者の状況は主人は職場と任意社会圏に依存し，主婦の社会生活はひまつぶしないしは手ならいであった。社会集団の構成が若夫婦とその子供中心としていたのであるから，環境のしくみを要求していたのは，唯子供たちであった。しかしながら単純な素朴近隣住区の図式によるしくみはまもなく問題を提出したのである。古い意識の自治会と進歩派文化人による香里文化新聞発行のグループの間には多くのあつれきがあったけれども，先の文化人を中心とした保育所や電話局の獲得運動であり，公団管理規程と居住者の要求との間の矛盾であった団地内商店街の前の広場での周辺農民を中心とした青空市場の開催と中止であり，自治会主催による夏季の仮設ビニールプールの設置等々であった。これらは団地建設当初，学校教育施設，日常生活必需品を中心とした団地センター，小診療所（後に有床病院がつくられた），公団住宅を中心とする小集会所，そして別の系としての近隣公園までの遊園の分布のみといっても過言でない環境のしくみであって，当初から予測されていたとはいえ，居住者の生活を環境のしくみとして容れきれていなかったといえよう。

近隣住区方式をさらに整理した当初計画人口15万人の千里ニュータウンにおいても，行商や生協活動が容れられる場所，住区方式を超えて行なわれる生活行動や単調な生活行動になっている住区に押し込められた居住者の問題，社会環境としての社会集団をいかにするかということ，住宅型配分計画，建設プログラムとの間の検討の未消化のために生じた社会集団の片寄りと集中化による生活の単調化，一様化，―公共施設は種類が少ないままで利用ラッシュが起った―，等の問題があげられる。ラドバーンシステムの形式はとったけれども人々は大部分自動車路によって生活を行なう，等々がみられる。

このようにみてくると，新しい環境のしくみ論は新しい段階にうつっているとともに計画技術にうらうちされる必要がある。以上にみてきた香里団地や千里ニュータウンにみられる環境のしくみがもつ社会生活に対する矛盾は，地区環境全体としての景観やその後につづく問題については別にして一応，「物とり」が終れば，問題は片付いたといってもよかろう。しかしながら，最近の市街地整備と並行してみられる環境のネガティブな面に対して行なわれる住民運動は環境計画にとっては，新たな問題を多くもっている。つまり，どのような環境のしくみをつくろうと未だ整理して提示しているわけでない。何々の工場を誘致しようとか，何ベッドの病院をつくれとかいっているわけでないことも多い。また，あるときは，頑強に既成の環境を守ろうとするし，新しい施設の計画に反対の意志表示を行なうことが多い。またこれらには，社会環境としてのこれまでの隣組町内会や，利益集団などで簡単に説明しきれないものをもっている。千里ニュータウンにおける生協活動もそのような意味であらたな問題をもたらすであろう。このような事態は，計画における歴史では常に多かれ少なかれ生じていたけれども，高度成長下の昭和30年代に描かれていたような計画論では，容れきれないものをもっているとみてよかろう。しかしながら，社会環境の新しいしくみは，今みられるネガティブな面での活動に対して，自分たちの社会生活を主体的に主張し，行ないだしたときに実現することになろう。またそのような社会環境のしくみは，ネガティブな面に対する要求と表裏一体となっているところにある社会生活のトータルイメージであろう。そのようなトータルイメージに対して緑地のシステムや，公共施設の設置は大きな役割をはたすに違いない。また計画がそのようなイメージをえがいてこそ社会環境のしくみもつくられよう。このような意味で，住区といったひろがりをめぐる空間のしくみについても，種々の試みとすこしの時間を要するであろう。そして都市生活のための環境のしくみはいつも住宅の水準とそれらの住宅の集合化の問題に帰することであった。

4. 社会環境にとって「似たもの同志の集まり」で表わされるもうひとつの問題がある。わが国のいわゆる住宅需要階層論は京大西山先生の研究に始まる。住宅の供給型と取得者の経済社会階層の強い相関のメカニズムを解明することにより，住宅問題がもつ矛盾を追求したものである。そのような研究の目的とは，はずれるけれども，ある住宅地の住宅供給型が似ていると，収入，職種，従事産業規模，学歴等の似たもの同志が集まることになりやすいことがもたらす問題である。この結果は，ある街なみに，独特の社会的雰囲気をかもしだす。それは，ひとつの社会環境として表わされる。阪神間を例にとれば，

図—1　生活時間構造：主婦の社会生活の場合（住宅地区の1例）（本山）



古くは芦屋の独立住宅群は芦屋族を，２DK型による公団住宅団地は団地族，文化アパート地区では若い単身者や共かせぎの若夫婦の集団，の想定等々が都市居住者にとってある程度描くことができよう。人々は，独自のつき合い関係をそこにもっている。この社会環境はそこに住まない人にとって，内の生活は決してくわしくわかるわけではない。外の人からみれば界限としてのプライバシイが厳としてそこに感じられるからであろう。居住者は転勤という強い外的強制を除けば，常に庭付独立住宅，あるいは広い住宅を得る方向で移住するとみてよい。今のところ，郊外の分譲住宅，土地柄のよい市街地のマンションで定着性が高いとみられるようにである。

ところが，社会集団の基本的性格は，そうたやすく消えるわけでない。また1950年代に英国の社会学者で日本研究家のR．P．ドーア著「都市の日本人」の中で分析された東京のホワイトカラー層が住む下山町の近所づきあいにみられる隣組，町内会的関係と向う三軒両隣りのインフォーマルな関係の重なり合いはこわれつつあるけれども，別の形態の集団としての共通の規範や，一定の思考，行動様式が生れ，それらは居住者が変ったからといってたやすく変るわけではない。おそらくこれまでに郊外住宅地，公的団地をはじめとする各種住宅形式の調査結果（人口構成の経年変化に関する研究）から推論すれば，15年～20年前後の間，ひとつの特徴をもつことになろう。よく似た経済の階層があつまるだけでなく新参者は，古参者の集団に順応するからである。

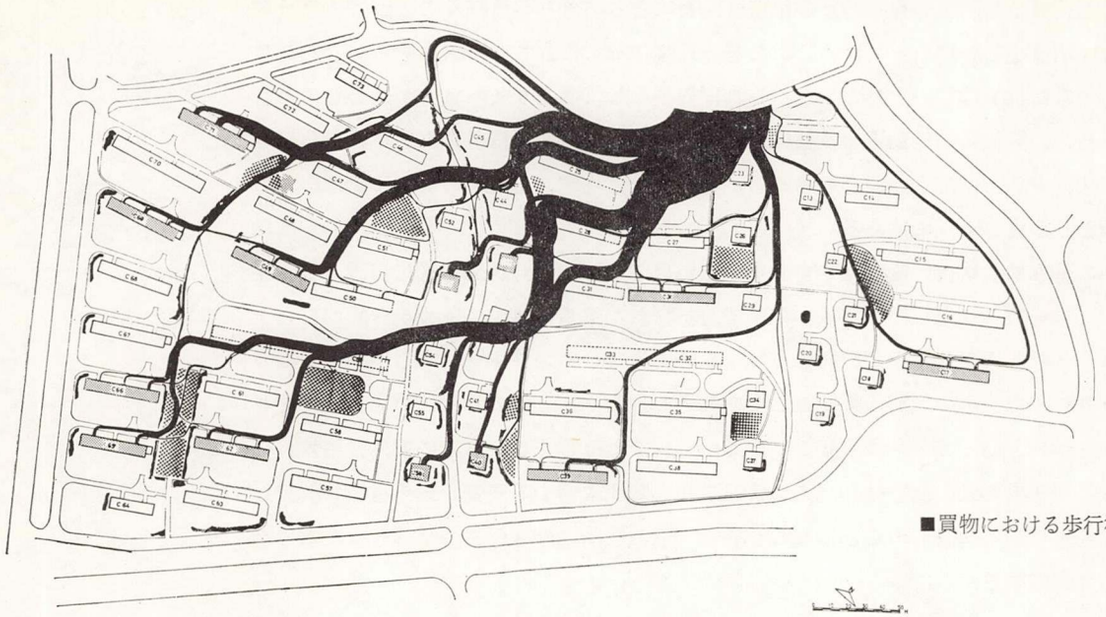
5. ところがこの社会集団は，見事に物的環境条件によって左右されるのである。古き個人主義のエゴイズムの危険とともに，差迫った危険として組織への信仰に痛烈な批判を加えたフォーチュン誌の編集者であった W．H．ホワイトは「組織の中の人間」において，米国郊外住宅地のパークフォレストでの交友関係の網の目の形成のされ方を解析したけれども，主要な要因が設計であることを認めざるをえなかった。そして近距離やコートを中心として結ばれた交友関係を中心にしてパーティーや趣味や助け合いといった社会生活が営まれていることを。また，建築のプランナーで社会学者である P.Ritter によって住宅地の社会レクリエーション計画の空間のしくみとしてのラドバーンシステムの再評価のために行なわれた英国の新都市や古い市街地のテラスハウス地区での Sociometry 手法による社会調査は，Street 型とCul-de-sac 型ないしは foot-path 型をくらべるとき，hot な近隣関係は後者において多く深くみとめられ，Path や Cul-de-Sac が形成の単位になっていることを明らかにしている。わが国の社会調査においても（コミュニティーの形成，多胡，住宅建設№，16，1967 参照），中層フラットの団地では，つき合いは階段室や棟を節として，形成されていることが検証されている。以上のように人々によってつくられた社会環境は，実は物的環境によって規定され，助長されていた。このような意味で，社会環境のしくみに対して住宅地の空間構成，公共施設の充実と配置のされ方，ペデストリアンルートの設置などの空間のしくみで問いかけることの意義は大きい。具体的な事物を通して人格を形成する子供たちにとっては，それは教育環境であり，何十年間なりの老令期をすごす老人にとっては福祉環境なのである。

6. さて，社会環境のしくみを考えていくにあたって，種々の空間のしくみについての試みが人々の生活にどのように関係していくかを考えてもらうために，２，３の実態を通して推してみたい。最近行なった生活行動調査*1のうちの２，３のデーターと歩行行動調査*2から推論してみたい。

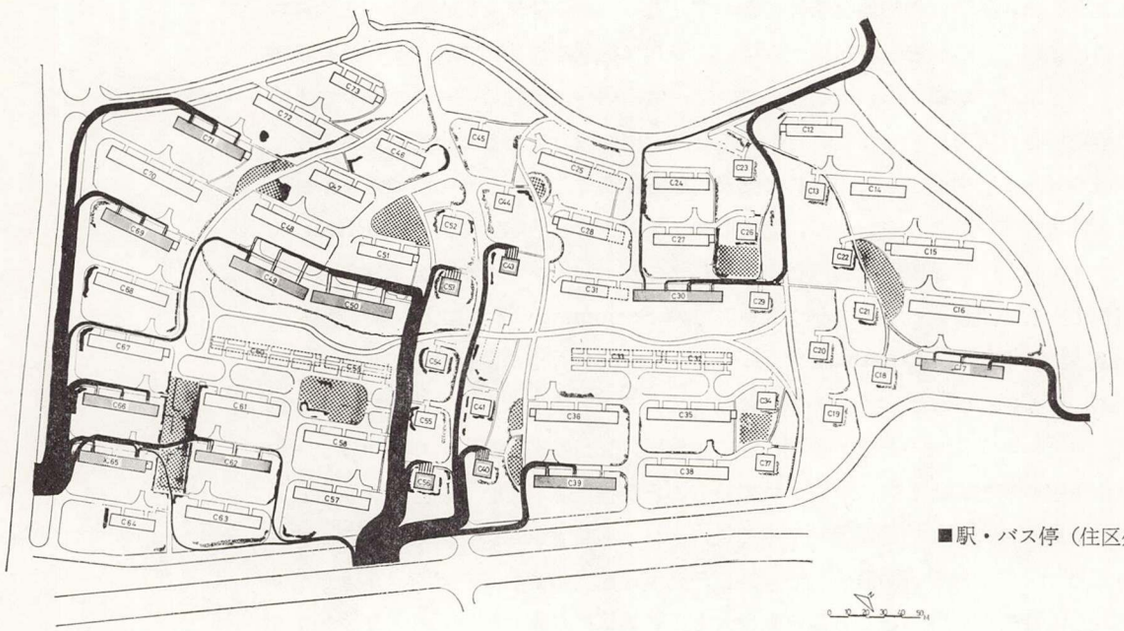
さて，生活時間構造は，都市における生活行動をとらえるために行なった調査のごく一部である。くわしくは改めて紹介することにする。対象地は，神戸市の大中規模独立住宅の地区（東灘区本山），文化住宅などによる過密混合小規模住宅地区（灘区宮本），住宅をもつ対個人消費商店街地区（灘区稗田），小規模住宅で住工混合の（長田区真野）地区といった市街地の典型地区であり対象者は小学生，中学生，高校生，勤労青少年，主婦にわたっている。いずれにおいてもインフォーマルな社会生活になりうる余暇生活は日常的にもっているわけでその量は多い（**図—1**）。

今のところ住宅内での T．V．などが圧倒的に多く余暇は家族を中心にしているが，余暇時間の増大は明らかである。またこれは外での社会施設や，プログラムにおいて気軽に利用できるものがないからである。

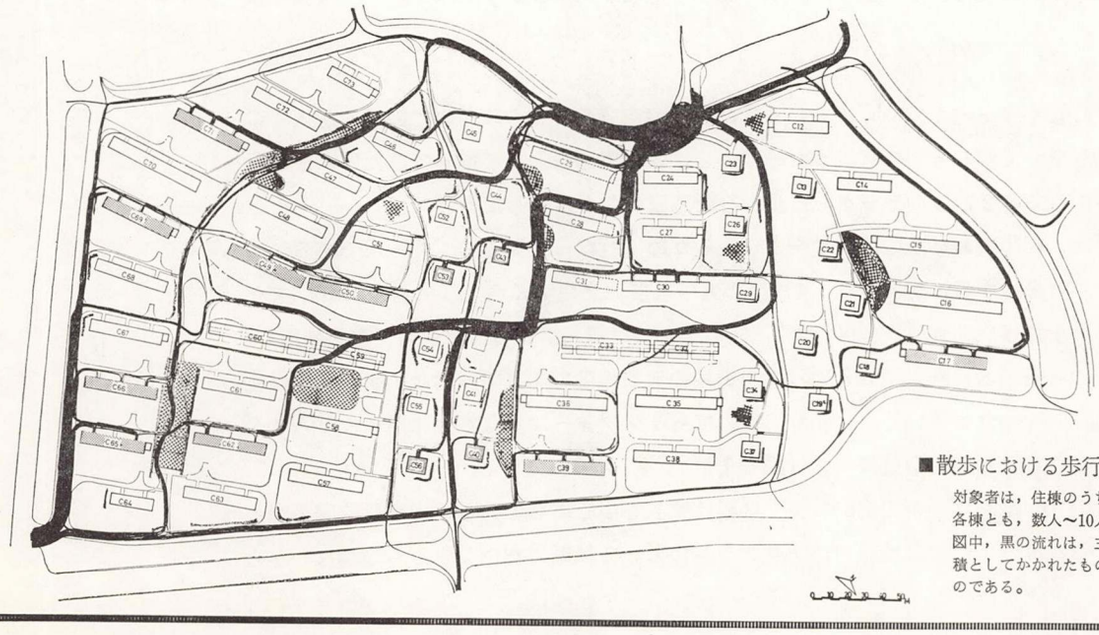
図－2　都市生活における主婦の歩行行動（調査日から最も近いある１日の行動線の集積）



■買物における歩行行動



■駅・バス停（住区外外出）への歩行行動



■散歩における歩行行動

対象者は，住棟のうち網目のところに居住している。
各棟とも，数人～10人を選定している。
図中，黒の流れは，主婦の１人１人の歩行行動線の集積としてかかれたものが縮少の関係で，一体化したものである。

小学生，中学生，高校生は，それぞれの要求に応じ量の多少はあるけれども，平日でも放課後にまとまって時間をもっている。休日は余暇のみといってよい。この余暇の展開される場は校区といったひろがりの範囲内である。今のところ公共施設やオープンスペースがないから学校と自宅の往復になりやすい。いずれにしても，校区内は彼らの生活空間のすべてなのである。

勤労青少年においては，生活はひろがるけれども，地域地区に対する需要と要求は強い。とくに先の4地区のうち大阪通勤の多い灘区本山以外は顕著であり，地区環境における社会施設への要求は確かである。しかしながら現状は公共施設とプログラムの古さは，青少年の余暇を平日は職場，休日は自宅と都心で過ごさせている。

主婦は，年間を通じて余暇中心，住宅中心といっても言いすぎではない。しかし，地区によって差異がある。第3次職業の多い本山では，主婦はひまであり，遠くへ出かけているものもいるけれども昼間の T.V. や育児，子供の教育は多く，商業地区や住工混合地区に居住する主婦は家業手伝いのような時間がかなりみとめられる。いずれにしても可能性は居住地での社会生活にならざるをえない。むしろひまをもてあまし気味で子供の保護養育に熱中しやすい。

以上の傾向を計画ないしは今後の都市環境といった面でみれば，各種の社会施設やオープンスペースをできるだけ分散させ地域地区で享受できることが社会環境の新しいしくみになるわけである。それはレクリエーションスペースのしくみであり，もともと創造性に対する用意である。従来みられたような縦割が形式化し，中身がうすくなりがちな公民館や学校開放ではなく，例えばクラブ施設や，図書館とプールの組合せといった複合化による計画であろう。そしてユースサービス施設も，土，日の青少年と平日の老人といったふうに異った主体の利用を可能にするあらたな公共空間づくりであろう。

一方都心や自然利用はそこでしかえられない空間として，つまり，自然の保全などを徹底させることである。

7. 人々は，都市環境のなかでどのように動くのであろうか。社会生活のより直接的行動に関する取扱いの参考となろう。**図—2** は，住宅地における主婦の3つの歩行行動——買物，駅（外出），散歩——の実態である。ここでみられる住宅地は千里ニュータウンの1住区のなかの公団中層フラット団地で，団地の北東は近隣センターとつながり，東西に中心となるペデストリアンルート，南北にボックス型住棟の間をぬって4本のペデストリアンルートが通っている。いわゆる歩行者路の確保である。図中の棟で網目のかかっているのは，対象者の居住棟である。なお対象者は施設との配置関係や団地内の居住位置によって選定してある。調査は3つの生活行為について最も近い晴天の一日における実際のルートを追跡記入してもらったものである。結果をみると設計者のしくんだ住宅地空間は居住者にとっていろんな意味をもっていることがわかろう。また，ひとつの傾向をしめしていることがわかる。わずか3つの生活行為の動きであるが，3つは全く違った傾向をしめしている。

買物は自住区の近隣センターを利用しており，サービス街路や他棟のアプローチであろうが，できるだけ心理的に物理的に最短距離を通ろうとする。計画によってまとまったひとつのルートにのせることができよう。しかし，散歩のルートは，団地全体に遊園などをつないでひろがっている。明らかに，色んなところ，普段通らぬところを見たり楽しんでいるわけである。緑の網の目や広場などが計画されるならその意義は大きい。住区外へのルートはばらばらの方向をもっている。バス停からみて，団地居住者がいくつかにグルーピングされていることがわかる。

以上はルートの設定や施設の配置や住区間のつながりなどで，住区空間を社会生活からみたひとつの統一体としてしくむ設計技法の有用性を示しているとみられる。とくにインフォーマルなルートシステムを他の目的ルートと重ね合せてもくろむことは重要な課題である。住宅地環境のアメニテイーの密度が高まるからである。

*1. 神戸市におけるコミュニティー総合実態調査，生活行動，集計資料篇，1～5巻，神戸市コミュニティー研究会（担当，大阪市大多胡，上堂，中田，荒木，坂田）。

*2. 集合住宅地の歩行行動調査（多胡，上堂，吉村，金次，1966～1968年）。報告としては建築学会，1967年10月，大会号，集団住宅地における配置技法と近隣センターへの主婦の歩行動線，集団住宅地における配置技法と主婦の散歩における主婦の歩行動線。

（たご　すすむ　大阪市立大学講師・工博）

都市と緑化運動

加藤一男



記念樹の森の第1回植樹式にのぞむ大阪市長

1. 緑の文化革命

南北に細長く横たわる日本列島は，寒帯，温帯，暖帯にわたって緑に変化があり，モンスーン，シベリアスーンという季節風によって年中豊かな雨量に恵まれ，植物の生長に最適の条件下にあり，しかも，種々な面で変化に富んでいるのが特色で，ヨーロッパ，アメリカにも見られない特徴であるといってもよい。

われわれ日本人は，この美しい大自然の中で長い間その生を楽しんできた。しかし人間の智能と限りない慾望はよりよい生活を目ざして，森林を伐採して木材とし，林を焼いて農耕地として，衣，食，住を充足してきたが，人口の増加につれて，自然のあらゆるものを征服し，住むに快適で，働くに便利な都市をつくり，今日のような燦然とした都市文化を築きあげた。しかし，そこには昔の日本の姿はなく，緑の面影すら失った。美しい詩情として映った民のかまどの賑いは，もはや風情どころか，光化学スモッグ，COおよび鉛公害などの大気汚染の原因となり，巨大化した過密都市は，老人，子供の交通事故の増大，遊び場不足による肥満児や脆弱な子供の増加，日照権の侵害、災害に対する無防備な状況などの弊害を招来した。

人間の幸福を追求して営々として建設したはずの都市は，今や一生を託するに足るようなところではないような気がし，このままでは都市は壮麗な人生の墓地となってしまうのではなかろうかと人々は不安を感じ始めてきた。

このことに気づいたことは，人智の万能を誇っていたわれわれにとって全く予期しないことであり，この対策は，日本ばかりでなく，全世界の大問題となってきた。この大問題に取り組んだ人間は，その長い間の都市経営の経験から，死にかかっている都市に活を入れ，人間性の回復をはかる有効にして且つ，適切な手段で，しかも，人々が容易に実行できる方法としては，人々の生活を自然に還すという単純なことであるということを発見した。厳然とした自然の法則を無視しては人間は生存できないことに思い至ったわけである。

アメリカ大統領の「生活環境の保全に関する教書」，1970年ルクセンブルグで開かれた自然保護年の開会式でのヨーロッパ24カ国による「人間の生活環保全決議」などにみられるように，緑で代表される自然と人間との因果関係が重大な課題となってきた。全世界は，科学的な調査，研究にもとづいて計画的に，20世紀の新しい緑の自然の回復，創造に懸命になっている。20世紀こそは，全人類に与えられた緑の文化大革命の世紀である。

2. 緑と人間

人間を含めてあらゆる動物の生存に欠くことのできない緑は，人間の心と肉体に絶妙不可思議な影響を与えている。

(1) 環境気候の調節

人間の活動を大きく左右する外的要因として温度がある。人間は18℃を中心として上下3℃の間が最も快適とされているが，樹木には夏の暑い時に温度を下げ，冬の寒いときには温度を上げる力がある。アメリカの実験例によれば，夏の晴天時のアスファルト面と樹陰地では実に16.6℃の差が認められる。芝生と裸地とくらべて見ると，夏晴天時に芝生地が3℃涼しく，反対に冬の晴天のときには芝生の方が4℃暖かい。このような狭い範囲の気候のことを微気候というが、この微気候学の立場から都市のあらゆる空間を緑一色につつむことが主張されている。

(2) 酸素の放出

ドイツのベルナツキー博士によれば，高さ25m，樹冠直径15m，80年生のブナを例にとると，この樹は160㎡の土地を覆っており，その葉面積の合計は1,600㎡である。この樹木は実験によれば，太陽熱6,075カロリーをつかって，1時間当り2,352grのCO_2を吸収し，1,712grの酸素を放出していることがわかった。この結果によれば，理論上人間は年間，葉面積150㎡から生産される酸素を必要とするわけで，これを緑地に換算すると，1人当り30～40㎡の緑地を必要とすることがわかる。

(3) 大気の浄化

樹木は大気の亜硫酸ガスをその濃度に比例して吸収し体内に蓄積する性質がある。亜硫酸ガスの発生源からある程度の距離にある樹林においては直接ガスにさらされる樹木と発生源の反対側にある樹木の硫黄の含有量にはっきりした差があるという実験結果より，樹木は発生源側の亜硫酸ガスの濃度の高い空気を浄化し，濃度の低い空気として反対側に送り出す作用がある。クロマツ林においては1日当り林間空間1㎡につき20mgの亜硫酸ガスを吸収することから，都市内の広幅員のグリーンベルトの有害ガスの濾過機能が再認識されてきた。

(4) 煤塵の捕捉

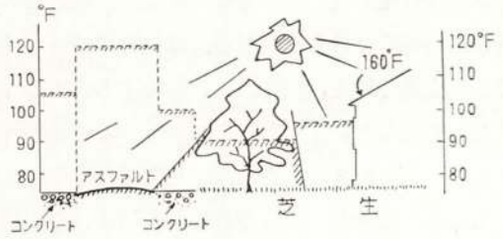
幅わずか50cmほどの樹林帯においてさえも，直接排気ガス，粉塵などにさらされている枝葉と反対側の枝葉の煤塵付着量には20～60%ほどの差がある。

(5) 騒音の減衰

音が樹林内を通過する場合，音のエネルギーの相当量が失われる。樹林の疎密度，下木の有無，音の周波数などによって異なるが，30mの密な樹林帯と，同じ幅の裸地とを比較した実験例によると，80ホーンの音源に対して10m離れた場所での音の減衰状態は，前者が35ホーンとなり，後者は70ホーンにすぎなかったという顕著な効果が認められている。

このように，数例あげただけでも人間に与える緑の効果は，どれも都市公害の根本問題につながっている。

街路樹と芝生の温度表



地表状態による騒音の伝播

単位：ホーン

音源よりの距離	5 m	10 m	15 m	20 m	25 m
コンクリート面	80.5	78.5	75.5	81.0	79.0
芝生地	80.0	75.5	74.0	69.5	68.0
樹林帯	80.0	71.5	68.0	65.5	63.0
生垣	76.0	72.5	69.5	67.0	66.0

(6) 心理的効果

樹木の人間に与える効果は前に述べたような物質的な効果だけではなく，人間と緑の関係のうち大切なことは，われわれの精神に与える影響である。緑のもつ美しさから生まれる効果である。とくに樹木の持つ美しさは，花や芝生の緑と全く異なった美しさがある。

これは樹木が人間と同じ生物であること，人間より，よりはるかに長生きすること，さらに人間より，よりたくましく，大きく生長することなどからくる親愛，憧憬，畏敬などの感情を人間が樹木に対して抱いているからである。

巨木を神木として敬ったり，人生の楽しい思い出を，木に託して記念樹として植えたり，われわれの世代の知らない過去を知っている樹に思いをはせたりするなどは，そのあらわれである。また，情操を豊かにし，心をやわらげストレスの解消に役立つなどの心理的効果も見のがせないことである。

3. 緑の喪失

われわれの祖先が集団生活を営み始めてから，生存のために，次第にまわりから樹木を無くしてきたが，それでも，永い生活の体験からすべてを失うようなことはしなかったし，それればかりではなく，合理的な生活を営む努力を重ねた結果，生活環境の合理化のために樹木を選択し，植栽にも工夫をこらしながら，植樹をし，独特の風景を生んだり，風土に即した産業として特殊な樹木風景をつくったのもある。これらの風景がいつの間にか，独特の今日の日本の自然を生み出した。関東平野のケヤキの林，代々木の森，日光の杉の森，三保の松原の防風林，月カ瀬の梅林，嵐山や吉野の桜等々日本の美しい自然風景は太古のものではないが，人間の叡智が生んだ祖先の遺産である。

ところが一方，近年の都市への人口集中はさらにその速度を増し，昭和60年には総人口の70%が市街地に集中するだろうといわれている。都市に集中する人口は，第2次，第3次の人口であり，大都市における事務所，事業所の見通しは昭和42年現在の2倍強の床面積を必要とし，また住宅についても大都市地域では約1,500万戸の建設が予定されている。

限られた国土内において，このような傾向は必然的に自然の破壊を伴うことはわかりきったことであり，森林および農地などの緑地は，昭和40年に比べて60年には約60万ヘクタールの減少が見込まれている。

都市の緑の拠点である公園緑地の現況はどうか。

昭和44年現在のわが国の都市公園の面積は20,350ヘクタール

都市公園の数と面積

	行政区域内				市街地内			
	総人口	公園数	公園面積	一人当り公園面積	人口	公園数	公園面積	一人当り公園面積
	千人	カ所	ha	㎡	千人	カ所	ha	㎡
昭和36年3月	68,200	4,511	14,388.2	2.11	—	—	—	—
昭和39年3月	78,137	6,311	18,219.6	2.34	46,029	—	10,140.8	2.20
昭和44年3月	84,914	10,347	20,349.4	2.40	46,049	7,993	10,245.7	2.23

(注) 40人/haの人口密度を3,000人以上のまとまりを有する地区を市街とする

4大都市の公園比較

都市名	市域面積	人口	人口密度	公園面積	人口1人当り公園面積	調査年次
	km²	万人	人/ha	km²		年
東京23区	578	876		8.9	1.02	1969
ニューヨーク	820	771	94	147.0	19.00	1961
モスクワ	335	490	146	47.3	9.7	1956
大阪市	203	304	150	4.5	1.50	1971

で，都市人口１人当たりの公園敷地面積は約2.4㎡で，都市公園法に規定されている標準面積６㎡の40％にすぎない。昭和36年現在のものと比較すると，面積は5,960ヘクタールの増，都市人口１人当たり面積でわずか0.03㎡の増加である。この日本の公園の現況をニューヨーク，モスクワ，東京23区，大阪市の４大都市について比較してみると，日本の大都市の１人当り公園面積は10分の１以下，貧弱な公園事情である。

これに対して，人間性の回復の都市づくりが大きな課題となっている今日，都市への自然導入にはかる公園緑地事業に対する国の公共投資の推移を見ると，公園事業の占める割合は昭和44年で公共事業に対する投資額の0.4％と小さく，人口の都市集中の激しい都市の公園緑地の充足は緊急を要するものの一つとなっている。

4. 緑 化 運 動

都市環境の整備の一環として，緑の問題が大きな社会問題として取りあげられるようになったのは，何も今に始まったことではない。戦後はもとより戦前から，自然保護，都市の緑化が強力に展開されてきた。

大阪でも，すでに昭和11年に「大阪緑化５カ年計画」を策定，とくに昭和14年10月13日から始まった第４期緑化運動には「各戸にはもちろん，空地には必ず植樹」「木を植えましょう。木を愛しましょう」のスローガンのもとに，53団体，7,400名の市民が参加して，公園，社寺境内，学校校庭，官公署の前庭など28カ所に2,825本の植樹をしたという記録がある。

もちろんこのほか，日本の各都市ではアメリカ各州法で制定されているアーバー・デイー（植樹の日）にならって，思い思いに植樹の日を定めて，都市緑化を推進してきたし，毎年４月１日から始まる「緑の羽根」，国土緑化推進運動も20年の歴史を持っている。

たしかに，運動としては定着しているが，もう一つ実効があがらなかった。

大阪市は昭和39年に「緑化は単なる都市美のアクセントではなく，過密都市の体質を改善する重大な政策である」との信念で強力な緑化運動を展開するにあたって，このことが最も懸念された。市長はその年に「大阪をうるおいのある健康な町にするために，ここに強力な緑化運動を開始する。この運動は，全市民の変ることのない願いとして，今後100年これを継続する」と宣言したが，これはたび重なる緑化運動の成果に危惧を抱いている市民に「とんでもない，御堂筋のいちょうの並木をごらんなさい。これは１人のある心ある市長が30数年前に植えられたものです。たとえ，われわれの時代に緑濃い大阪につくりあげることができなくとも，私たちは夢を持ち，緑の願いをこめて，力をあわせて緑を育てる限り，必ず緑につつまれた大阪ができるに違いない。これまでのように線香花火のような運動でなく，100年がかりでもぜひ達成しなければならない。」という固い決意を秘めた宣言であった。そうして強力な緑化実践活動が開始された。

(1) 緑化用地の確保

都市緑化の基盤となるものは公園緑地である。緑化100年宣言に即応するために，まず財政上の困難をおかしてこの拡充に手をつけた。その結果，昭和36年と比較すれば，公園の数で152カ所，面積で137ヘクタールが昭和45年までに整備，拡充され，さらに拡充計画が進行中である。

大阪市都市公園の推移

年　　度	公　園　数	公　園　面　積	人口１人当り面積
昭和36年	２５８ヶ所	３１２ha	１．００㎡
昭和45年	４１５	４４９	１．５０

(2) 公共樹木の植栽

市民の緑化の願いに応ずるため，市内のあらゆる公共空間を緑で植えつくす作戦をたて，実行に移した結果，緑化運動を始める前と比較すれば実に67万本もの公共樹木がふえ，町に緑が目につくようになった。

大阪市公共樹木の推移

年　　度	街　路　樹	公　園　樹	計
昭和39年	31,320本	364,746本	396,966本
昭和45年	52,808	1,026,367	1,079,175

(3) 市民の植樹

いわゆる市民の税金で，役所がいかに大量の樹木を植えたとしても，都市の緑化が成功したとはいえない。植えた木を育てることが緑化の要諦である。大阪市民は緑化の誓いで「私たちは一本でも多く木を植え，家の木も，町の木も，みんな大切に育てます」と約束した。まず自分で植えてみることが，木を大切に育てる心につながる。他人の植えた木には心が通っていないといっているのである。大阪市自慢のものに，郷土の森，市民の森，記念樹の森という三つの大規模な森がある。これは，いずれも市民自らの手で，自らの木を植えたもので，現在，自分の木として大事にその成長を楽しみにしながら見守っており，第二，第三の森づくりも計画されている。

いずれにしても，都市緑化運動を始めてから７年，市民の積極的な参加によって，今や，大阪市が全国の緑化運動をリードしているとまで自負できるようになったのは，市民に，大地に木を植える前に，心に植える「き」を植えてほしい。心に植えた緑の苗木は，必ず，地面に植えられ，大切に育てられるであろうということをマスコミを通じ，あるいは，あらゆる機会をとらえて，キャンペーンした結果の所産である。そうしてこの仕事は根気のいる仕事で100年がかりの大事業であるということも，市民はよく知っているので，その成功にいささかの懸念もない。

（かとう　かずお　大阪市公園部長）

ビル緑化のすすめ

中川秀夫

1. はじめに

われわれ人類の"すみか"については，今より6，7千年位前の石器時代の後半と思われる竪穴住居とか，遊牧民の幕屋などから，農耕を生活手段とすることによって定住生活に変っても，やはり"すみか"は大自然にとけこんだ点景であった。しかし，職業の分化が進み商工業活動がおこってくると，単に住居だけでなく，店屋や作業場などの仕事場としての建物が生まれてくる。人と人とのコンタクトがさかんになり，政治権力が強大になるにつれ，それとの結びつきもあって集落ができ，人間は建築物など生活の場を作るために自然をリフォームしなければならないようになった。やがて集落への人口の集中は都市という形をとるようになった。都市においては土地のスペースとシチュエーションだけが必要なのであって，天然自然そのものは不要であり，むしろ障害にさえなる。技術的に可能であり，経済的に成立つ極限まで自然を破壊しつくしてしまう。その結果，都市の姿はまさに"都市砂漠"となってしまった。

このように都市の形成発展は自然の緑地の浸食をもたらし，その環境は人間にとって生理的には居心地のよい場所でないのである。都市民衆の人間性回復の願いのコンクリートされたものとして何よりも市街地の緑化を強く進めてゆきたいものである。植物が空気を浄化し，外気熱を吸収，調節して，都市気候とよばれる厳しい気候をやわらげることはよく知られている。それにもまして市街地のコンクリートと鉄におおわれた時間的変化のない三次元世界にあって，植物は日々成長し変化し，春には若葉，夏には花，秋には紅葉に四季おりおりの四次元舞台のアクターとなる。さらに自然の緑は造化の神の作品として，その美しさが人工の及ぶべくもない味わい深いものであって，人々の心に深いやすらぎとうるおいを与える効用は何物にもかえ難いものである。

2. ビル緑化のテクニック

樹木は太陽と水がなければその生々とした姿に育つことはできない。大地に根をおろさせなければならない。市街地の地価の高い貴重な土地を空けることは大へんな抵抗がある。だが道路などの都市の公共施設のキャパシテイからみて，都市の建築物の容量にはアロアンスがなければならない。都市計画として地域ごとに敷地の面積に対する建築物の延面積の割合の最高限度を定める容積制限がなされている。今までは容積地区内だけになされているこの制限は，建築基準法の改正で今後は全域に広げられる。技術的に高層化が容易になった現今，これからの建築物は空地をゆったりととり，その代りに高層化することができる。そのようにして生まれた空地に公共性の効用を持たせる場合は，規定の容積制限を越えるボーナを与え，また道路や隣地からの斜線制限も解除しようという特例的な制度がある。その手法の一つは特定街区の指定であり，もう一つは建築基準法52条3項および56条3項による総合設計である。

このように，敷地内にできるだけ空地をとることを都市計画上も，法的にも積極的に誘導しようとするものである。こうして得られた空地はもちろん，パーキングやプロムナードとしても有用なものだが，樹木や芝生を植え，水面や噴水をとるなど建築物とよく調和して，しかも自然的環境のスペースとし一般公衆にとっての，アメニティの場としたいものである。これからの業務地区での事務所ビルなどは，このような形が最も望ましい。

場所がら，平面空地の利用価値がそれほど期待できないときは，建築物の高層部は思いきってセットバックさせ，低層部の屋上に広場をとり，人工土地のように公衆が外部から自由に出入できて憩えるスペースとするのがよい。交通のはげしいターミナルや商店街などは，人車の交

特定街区標準（原則的なもののみ抜粋）

要件	敷地の規模	1～3種容積地区4,000m²、4～8種容積地区2,000m²、9，10種容積地区3,000m²以上
	敷地の形	四周を広い道路で囲まれた街区（例えば9、10種容積地区では主要道路20mその他の道路8m以上）
	空地の規模	公共性のある有効な平面空地、屋上広場、ピロティ等の面積のトータルが、敷地面積の30%以上あること
特典	容積割増しの限度	空地の規模と敷地面積に応じて、1～3種容積地区4割増し、5～8種容積地区3割増し、9、10種容積地区2割増しまで
	斜線制限緩和の限度	各部分から敷地境界線までの水平距離が当該部分の高さの平方根の$\frac{7}{4}$以上まで、および各部分の高さが当該部分から前面道路の中心までの距離の5倍まで緩和
その他の条件		交通処理および駐車施設が配置されること

総合設計による特例許可取扱基準

要件	敷地の規模	1種住専では5,000平方米以上、商業と近隣商業では1,000平方米以上、その他の用途地域では2,000平方米以上
	空地の規模	法定建ぺい率が5割までのところは、法定空地比に1.5割を加えたもの以上の空地、その他のところでは2割を加えたもの以上の空地
	容積割増し限度	1～3種容積地区については3割まで4～10種容積地区については2割までで、しかも平面空地、ピロティ、屋上広場に夫々係数3、2、1を掛けたもののトータル面積以下とする
	斜線制限緩和の限度	まだ法令の効力発生していないので現在検討中
その他の条件		周辺の環境維持、向上のため、日照上の考慮、駐車場歩道など交通緩和の寄与など交通上、安全上、衛生上の配慮がなされていること

註）現在は改正前の法令適用に付き1～3種容積地区で1500平方米以上，4～10種容積地区で1,000平方米以上である。

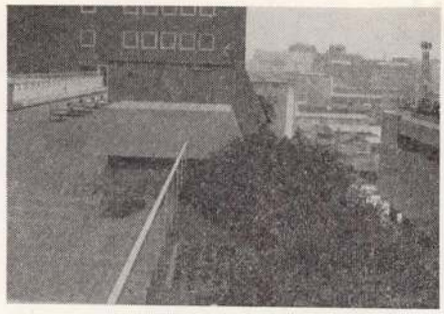
通動線の分離を立体的に処理するシステムが考えられるので，地区の交通計画に合わせて，うまくプランニングさせれば，自動車交通から隔離された都市のオアシスが得られるであろう。行政的にもこうした低層部の公共性の高い有効な利用を高く評価して，平面空地に準じて建築物に特典を与えられるように取扱っている。

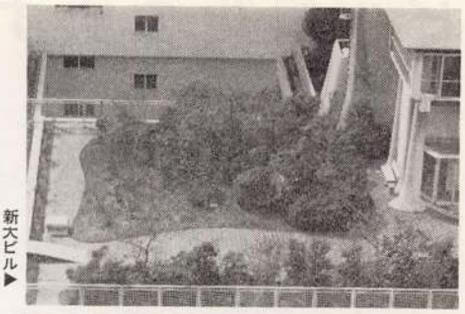
高密度化した都市では，細分化された敷地に，それぞれ勝手気儘に建築していたのでは，互いにディスターブして，街区や地区の環境が悪化し，街の発展のためにも大きなマイナスとなる。そこで都市再開発法など，共同建築化，立体利用化の一層の促進をはかり，まとまった空地空間を生み出すことが，街にグリーンをほんとうに呼び戻すための要件である。

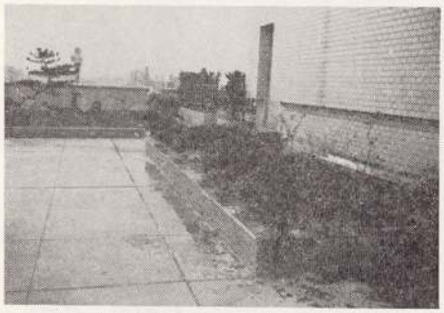
3. 大阪市のビル緑化

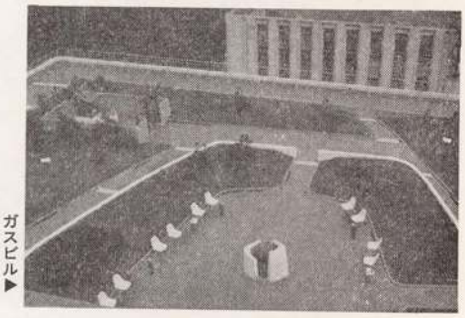
さて全国に先駆けて緑化100年宣言を打出し，都市緑化に力を入れている大阪市では，昨年から市内の優良なビル緑化施設を市長表彰する制度を作った。昨年は4月22日の緑化推進大会に2件に対して表彰状を贈り，12件に対して感謝状を贈った。表彰した2件には復刻，石碑を現場に建立して贈呈している。それらのうちのいくつかを紹介しよう。

道路，地下鉄の整備などで立派なビル街に変りつつある大淀町に朝日放送の社屋がある。この低層部である5階屋上に美しい庭園が造られている。ビルの窓からその景観が楽しめるとともに，屋上の散策や休憩の広場として使われているものである。ここから南へ向かい堂島河畔に出ると，白亜の容姿をみせている新大ビルの屋上樹園は，今や大阪名所ともいえるほどあまりにも有名である。川上のハイウェイから，対岸のビルから樹木の茂りが眺められる。3,000平方米もある広い園内に入れば，小鳥の囀りさえ聞かれるという別天地である。新大ビルの東側に高さ60mの威容を誇る三菱銀行は，2階屋上に1,000平方米もある広い植込みが造られている。御堂筋は大阪の代表的メインストリートとして，街路樹のいちょう並木が素晴しいが，両側に林立するビル群の緑化はいささか淋しい。その中にあって平野町のガスビルと今橋の日本生命ビルは，ともに屋上が庭園として緑化されている。それぞれ面積も1,000㎡位あり，ビルに働く人々に憩いの場として貴重なものとなっている。平面空地のとりにくい都心部ビルに少しでも緑の自然的環境をとり入れる一つの工夫であろう。さらに南へ行けば，大阪名所の一つとなった築港深江線と御堂筋との交叉点に伊藤忠ビルがある。高さ46米のシックな暗色の壁面と広く空けた前庭一面のさつきと車輪梅の植込みとがよく調和した風格ある景観をあらわしている。福島の堂島浜通に関電病院がある。ここの表玄関前に7,000平方米もある立派な庭園があり，一般公衆も自由に散策，休憩ができるようになっている。谷町3丁目の大阪銀行協会は建物周囲を形よく樹木で飾り建物を引立たせ，やわらかみを与えている。街行く人々の目にやすらぎを与えてくれるものである。法円坂の近畿電気通信局は建築物を高層化してコンパクトにまとめ，敷地内に大きな空地を残すことができたので，緑の植込みをとっているほか，石敷の広いペーブメントの上に季節の草花を盛ったフラワーベースをジオメトリックな模様に並べ，白亜のビル外壁と調和してまことにカラフルである。附近は官庁街であるが一きわ華やかさを示している。また面白いのは関西電力の我孫子現業所である。職員が仕事のあい間に所内の空地に，自らの手で植樹し造園したものだそうだが，市民の緑化に対する願いのこもったものといえるだろう。なお今後もますますこういった立派な緑化ができることを期待するのだが，昨年市内で3つの超高層ビルが着工した。堂島の電々公社データー通信局舎，本町のユニチカビル，天神橋の大林ビルである。これらは計画によるといずれもオープンスペースをゆったりとって緑化をするようになっている。また，大阪の容積地区内で容積割増し許可第1号となった関電曽根崎ビルも着工しており，これも立派な緑化の計画がある。さらにもっと雄大なプロジェクトとして，東区の弁天町を緑の森に囲まれた新しい形のビジネス街に開発する計画がある。その名も"ビジネスパーク"と称している。

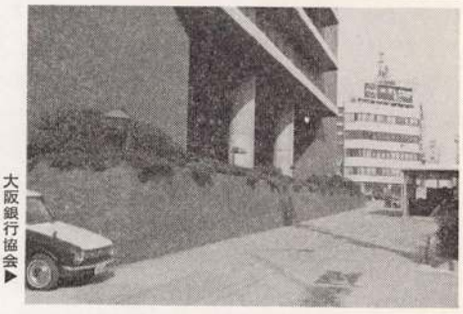

◀朝日放送


新大ビル▶


◀三菱銀行


ガスビル▶


◀関電病院


大阪銀行協会▶


◀関電我孫子現業所


日本生命▶

4. おわりに

現在強くクローズアップされている公害問題のうち，さまざまな都市公害の原因は，都市における建築物の無秩序な過密であるとされている。

一方，第二の産業革命といわれている脱工業化社会では，人間が人間本来の創造的業務を主体とするようになってこよう。

いずれにしても，緑豊かな都市がこれからの正しい都市像であり，自治体も企業も市民も相携えて市街地の緑化を図ってゆかなければならない。その中にあって都市の象徴ともいうべき建築物の緑化が推進されることがとくに大切なことである。

（なかがわ　ひでお　大阪市建築局）

住いの緑

奈良女子大学　近藤公夫
U D O　島村昇
鈴鹿幸雄
中田雅資
村田光平
城戸健一郎

現在，われわれの都市生活空間の中からは緑が次第に少なくなり，とくに日常生活サイクルの中で緑と接する機会が少なくなりつつある。都市生活空間の高密化は人工的環境を次第に発展させ，その中の空間の質を，たとえば地下街やデパートの売場のように Artificial なものとして人々に印象づけ，高層化の傾向はますますわれわれ人間を大地から切り離し，空中スラブの上での生活に追い込んでいる。

生活空間の中でも，とくに生活時間のながい住空間や居住空間における緑の問題は，その空間がいかに人間的であるかの一つの指標としての意味をもっている。それゆえに，住いとそのまわりの緑の状況は，生活空間創出の場合の大きなテーマである。われわれはこのテーマについて考える場合に，とりあえず現存するいくつかの「住い」のタイプについて，緑の顕在化状況をサーベイし，「緑」のもつ意味を確認する作業をおこなった。緑の顕在化状況は「住い」のタイプによって著しい相違をみせると同時に，都市高密空間へのアプローチを是否の両面においてあらわしていると考えられた。

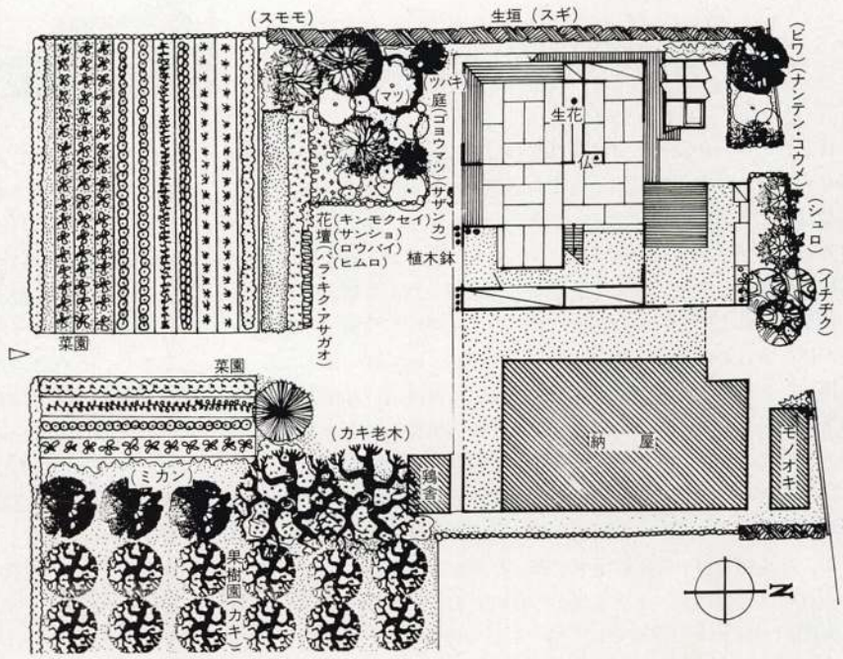
Artificial な都市空間に対照的な第二の自然としてわれわれに新鮮な印象を与える農村，もっとも緑の環境に恵まれた存在として，農家がある。農家はその地方性によって種々のヴァリエーションをもつが，都市およびその近郊に開発されつつある団地や新興住宅地などと比較するとやはりそこに一つの共通性をもっている。「住い」内部の床や神棚，仏壇におかれる緑，軒下の鉢植――まわりに豊かな緑をもっているのになぜ鉢植がおかれなければならないか，縁側のすぐ近くにマツ，サザンカなどを植えた庭，その南側に花壇，菜園，また果樹園がしつらえられ，これらの緑は観賞的なものから食用までを網羅し，生活のあらゆる側面で住人と Communicate する。現在の都市空間では考えられない緑との Communication の多面性が存在している。しかもなお，このような農家のまわりにはさらに大きな緑の空間，山，森，川，池が存在し，それらは Daily の接触を可能にしていよう。このような豊かな緑の空間にとりまかれた「住い」から，われわれは都市住宅の原型とされる町家に視点を移す。

農業人口が大半を占めていた近世初期に完成された町家は，その稠密性のゆえに「住い」における緑の空間が Minimum の状況で実現されている。それはいまもなお生きつづけて現存する京の町家群をもって典型とする。間口が狭く奥行の深い短冊形宅地の中に，スペクトル光線のように何カ所か打ち抜かれた Open space（センザイ，ナカツボ，ナカニワ，ウラニワ，ニワサキ）は，農家の大きい豊かな緑の空間に較べて，何と僅少な空間であることか。それゆえにこの空間のもつ質はいかに密度高く対象化されていることか。それゆえこの空間はヘヤ・住スペースと強度の相互浸透性をもち，たんなる観賞的対象化にとどまらず行為的対象化にまで積極化するのである。従来町家の庭がすぐれた質をもつ観賞的緑の小空間・小宇宙として評価されているが，この小空間はたんに植え込まれた庭木やオブジエの観賞にとどまらず，ヘヤからの行為の流出があり，観賞性と行為性の錯綜する空間である。そして町家における緑はニワからさらに日照条件のよい物干やオモテ

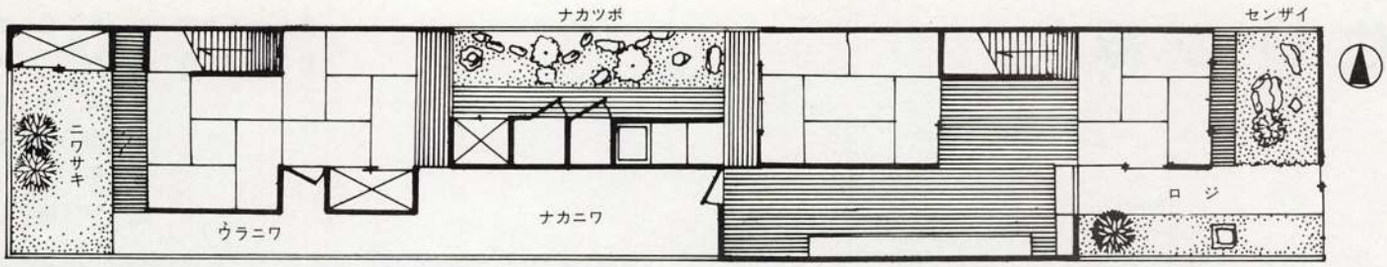


通りの軒下へと延長し，育くまれる。農家を緑の空間の中の住いとするならば，町家は住いの中の緑ということができる。これは緑の住空間への内部化の典型である。日常生活空間，日常生活時間の中でのこのような緑の存在は，緑の Interiorization（空間的に）と同時に Familiarization（意識的に）の歴史的典型である。

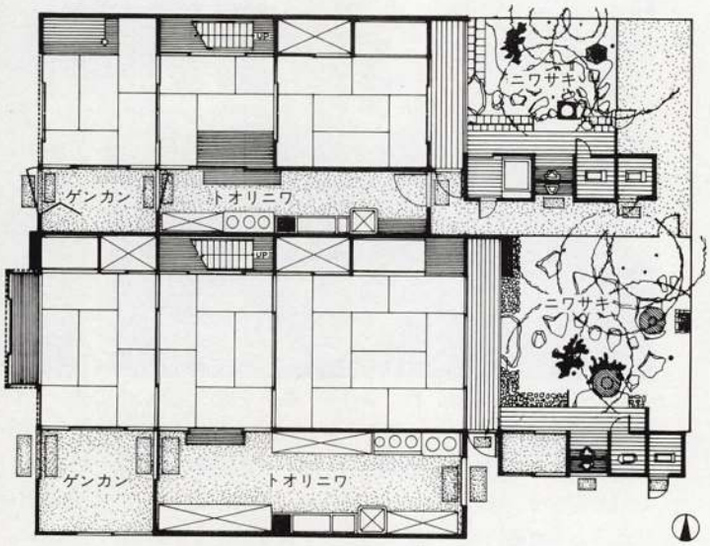
京の町家群の中には，さらにローヂ（路地）タイプの住いがあり，これは一軒ローヂと数戸の小住宅がはりつくローヂ裏長屋の二タイプがある。前者はそのアプローチのローヂ――細長いダクト状 Open space のリニアーな緑の空間が特徴であり，後者は共同のコートヤードをもつことによって緑の空間を確保している。共同のコートヤードは数戸の共同スペースとして，共同の緑をもつと同時に，各住戸からもち出された鉢植類によって，いっそうにぎやかな緑の空間を実現している。およそ数10㎡の小空間にあらわれるこれらの緑は向こう三軒両隣りの近隣の絆として，またいかに住生活の中で緑が要求され Familiarize されねばならないかを物語っている。それはおそらく居住空間の高密化における緑の空間のあり方の貴重な Sample である。農家や町家はわれわれが生活空間や住空間を考える場合の貴重な歴史的遺産であり，緑の問題も



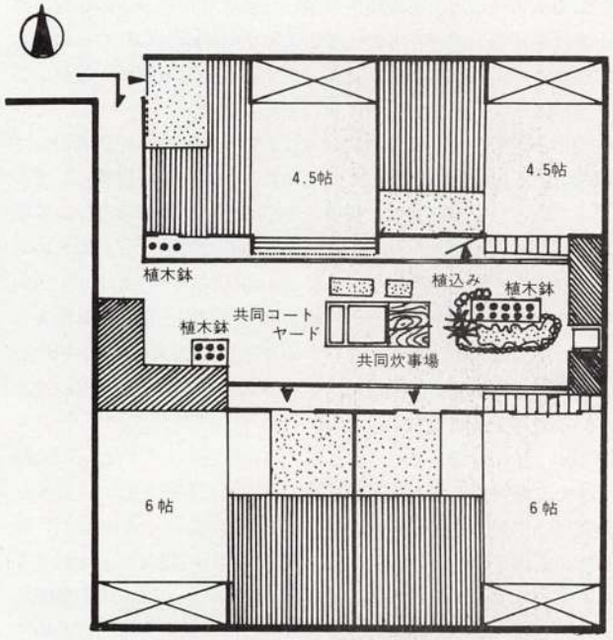
▲農家と緑



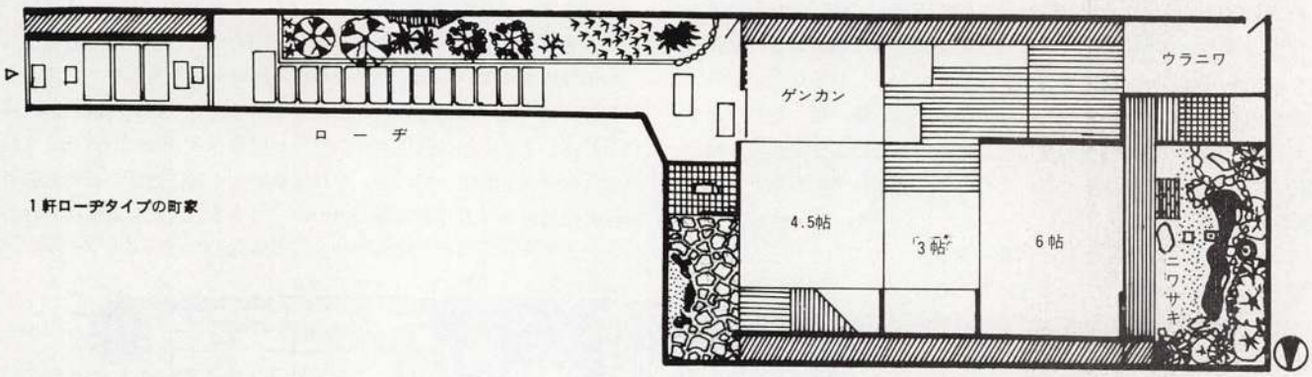
▲奥行きのながい町家



▲標準的な町家



▲ローヂウラ長屋



1軒ローヂタイプの町家

これらの住スペースとの関連で考えねばならないが，とくに戦後の住様式の急速な変化は，住いと緑の関係をさらに複雑にし，そして，相互の関係を尖鋭なかたちで問題化した。

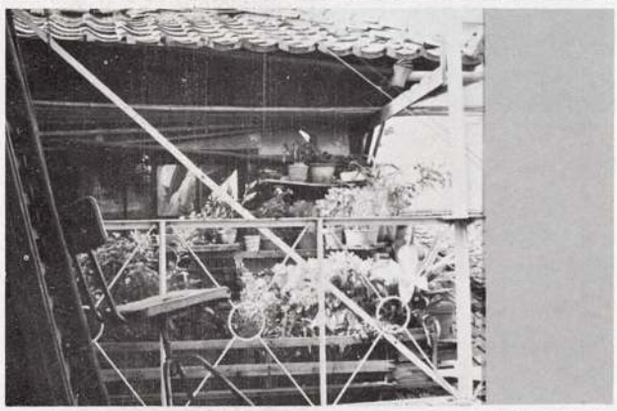
いわゆるモダン・リビングやテラスハウス，コートハウス，文化アパート，団地，単身寮，マンション，高層住宅などがそれぞれ新しいタイプとして住宅開発途上にあらわれ，それぞれのタイプにしたがって緑の状況も種々相を呈している。しかし庭つき住宅のイメージはいまもなお根づよく残り，一つの住いに専属する庭面積は広ければ広いほどよいという持家指向の一つのモメントがある一方，社会的状況からテラスハウスやコートハウスのようにコンパクトな緑の空間を附帯する住形態からさらに非接地住宅——中，高層住宅のように住いと緑の隔絶せる住形態が生じた。文化アパート（2，3階建）では，過密地域にしばしばみられるように，共同物干場や共同洗濯場で箱，鉢類にささやかな緑を育てている。それらは町家のローヂ裏長屋にみられたのと同様に住人による緑の Familiarization の容態として見すごしてはならない。しかし，現在もっとも住いと緑の関係について尖鋭な問題をはらんでいるのは非接地住宅の場合であろう。

中層住宅における緑の問題は，集合住宅団地にみられるように，住いの集合，集約化によって外部に大きい緑の空間，共同スペースを獲得することによって解決されるということになっている。そしてこの考え方は高層住宅団地（とくに面開発）の場合にはさらにおしすすめられる。しかし，われわれはすでにみたように住いと緑の関係はその近接性をも必要とし，また共同と専用による Familiarization の度合，したがって緑との Communication の度合の差異を考えないわけにはいかない。住いから都市レベル，さらに広域な国土的空間に拡がる生活空間の Hierarchy に相応して，緑もまた一つの系（Green system）として Hierarchy をなしている。このような System の考え方は生活空間の各階層に充分な緑をとり入れ，これらとの日常的な接触によって，意識的，無意識的に人間の情操を涵養する。中層住宅団地の屋外空間の扱い方にみられる，平行配置手法から囲み型配置手法への移行はこの System











町家ブロック内部にうち抜かれたグリーン・スペース

町家2階からみた身近かなインドアー・グリーン

町家ニワサキのグリーンと行為

町家内部の日当りに育てられるタナの緑

ロージに手入れされるリニアーなインドアー・グリーン

町家内部に繁茂する緑

1軒ロージのリニアーなグリーン，夏には緑のトンネルになる

町家ナカニワのインドアー・グリーンと子供の遊び

ロージうら・共同コート・ヤードに育てられるコミュナル・グリーン

町家ニワサキのシエルター・グリーン

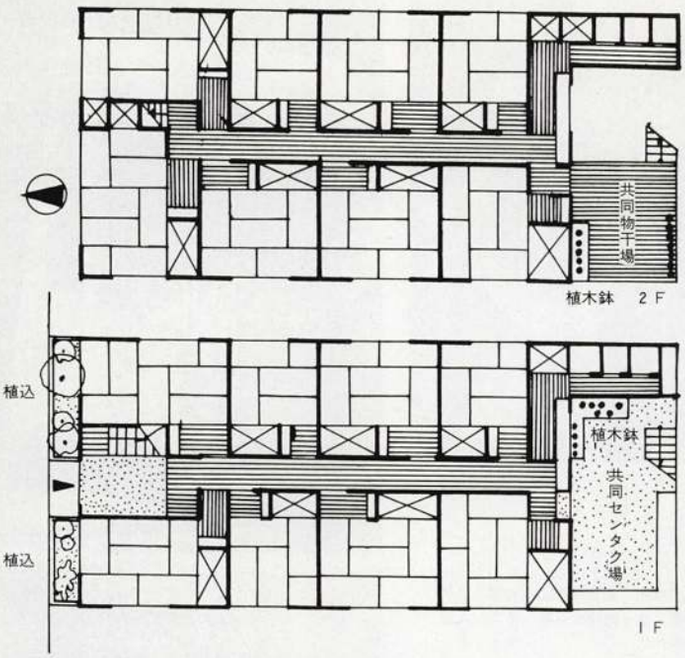


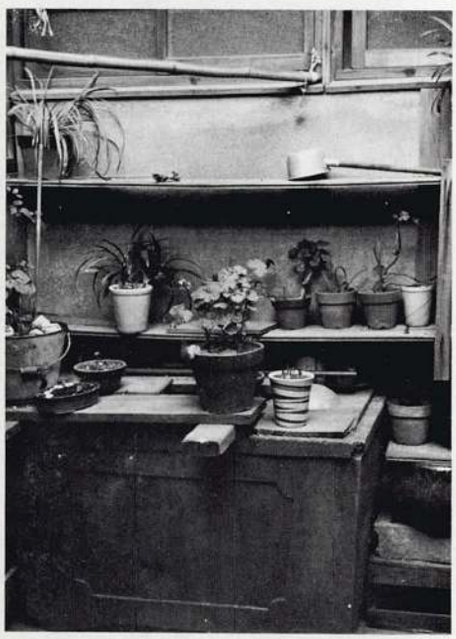












木造アパート

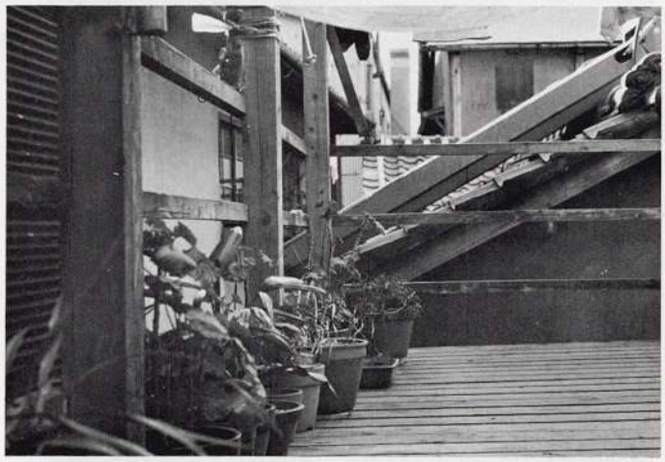
共同洗タク場にもち出された緑

アパートのアウト・ドアー・グリーン

共同物干場の緑

壁面のタナに育てる共同物干場の緑

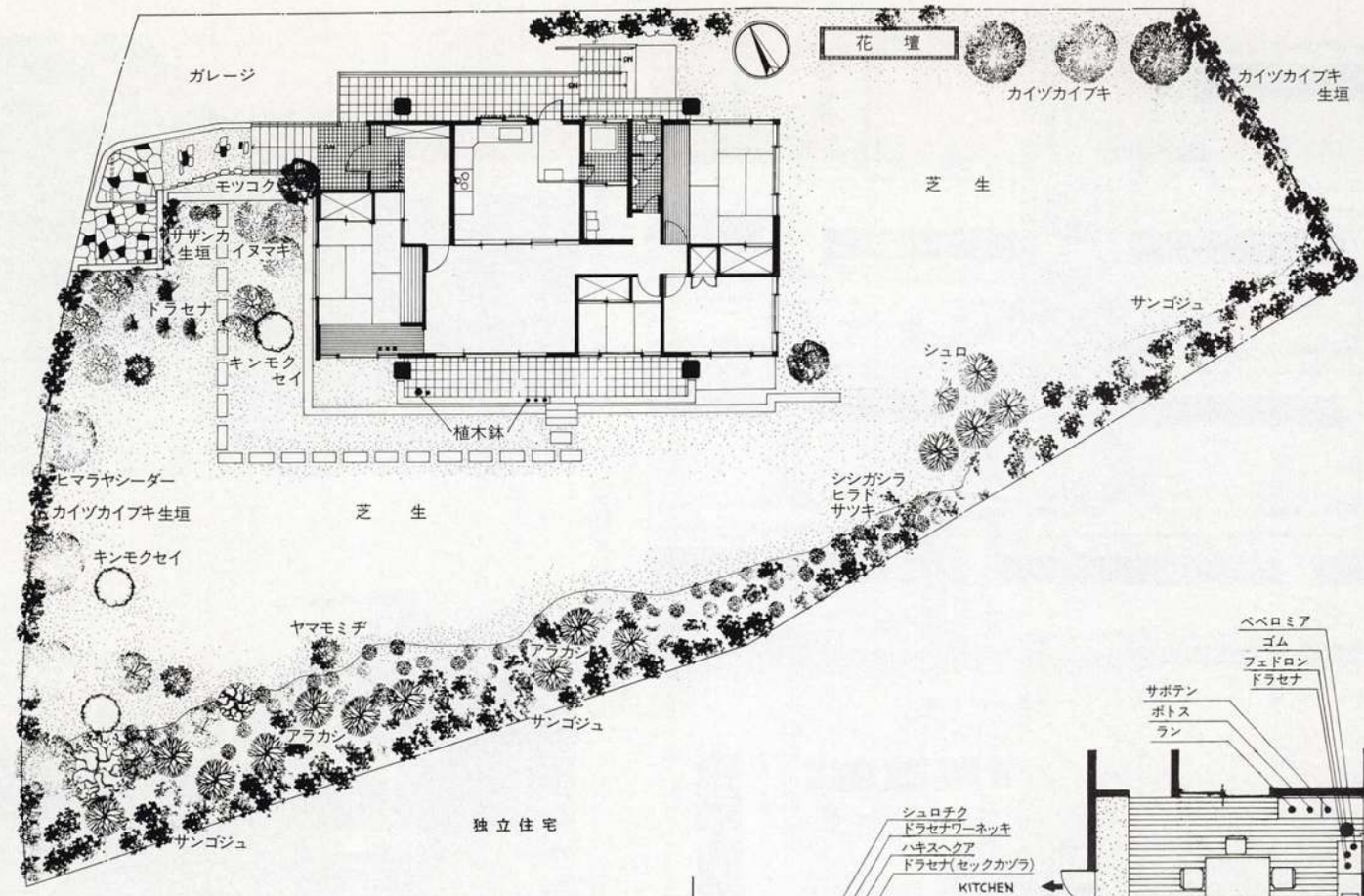


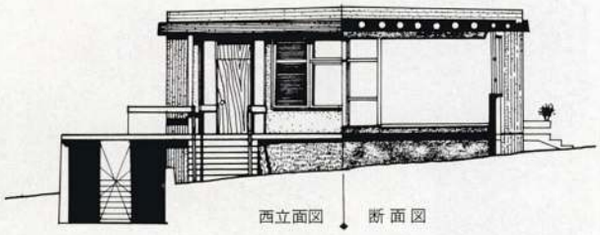


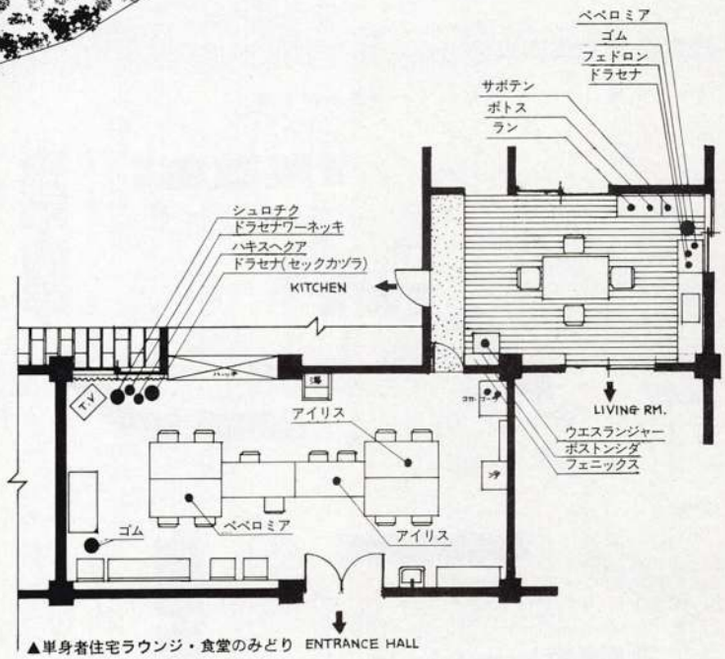


化の一例である。平行配置の場合の均質的，発散的な外部空間，また管理上の問題から「立入り禁止」の芝生など，広い共同スペースも実質的には共同化，生活化がおこなわれにくかった。このような外部空間グリーン・スペースをさらに住人のためのものとして，空間化し，生活化するためにあらわれた囲み型配置は，原則的には住棟によって囲まれた中庭空間が，近隣単位の生活空間としての機能を獲得し，Intimacy ある空間となる。そして，この中庭空間に周辺の住戸から流出する種々の生活行為が顕在化し，したがってその中の緑との接触も活発化，多頻度となり Familiarization がおこなわれる。このような意図をさらに活発化するために，共同花壇，立入り可能の芝生，柔かい裸地などの装置が工夫され実現されているが，住戸にさらに近接した緑が不足している。これは住棟内部の共用スペースの僅少性がさらに身近かな緑を疎外しているものといえよう。つまりここでは，Green System の連続性が破綻しているといえる。このことは面開発高層住宅団地の場合にはいっそう明確なかたちであらわれる。高層住宅の自動灌水装置による窓辺の緑（これは都市景観にも寄与する）や，屋上の緑化が初歩的な段階で試みられ，緑の住いへの接近化が努力されているが，一般にはまだまだ充分なものとはいえず，とくに点開発市街地高層住宅はコンクリートの空間である。それゆえバルコニー園芸や室内の窓辺に鉢植えがおかれ，空間にいろどりを与える行為があらわれている。これらは住人の生活意識を如実に物語るものであり，先にふれた農家や町家，文化アパートなどの緑の顕在化状態と本質的には何ら異なるところのない人間的行為のあらわれであり，逆にこのような行為を疎外する空間構成は人間疎外の一つの要因として作用し，アパート居住者をコンクリート化する。これはよくいわれるコンクリート・スラムの一つの現象形態なのである。しかしある種の多忙な都市生活者には緑のない住いも適合すると考えられるかも知れない。だがこのような状況の累積が疎外状況をおしすすめ，そのような状況の中での思考（意識）がこの状況を是とし，疎外状況をさらに加速する。まさに「人間は環境の産物」である。

生活空間が次第に発展する過程で（歴史的に），緑は次第にその空間内部にとり入れられ，Domesticate され，さらに Familiarize され身近かなものとなった。Urbanization は人工的空間の拡大，発展であったが，それは同時に Wild な自然を Domestic なものとして生活に組み込む過程でもあった（Domestication）。たとえば，Wild animal が Domestic animal に馴化される過程がそれである。そして，緑の場合にもこのことは真実である。Domestication はさらに深化，発展

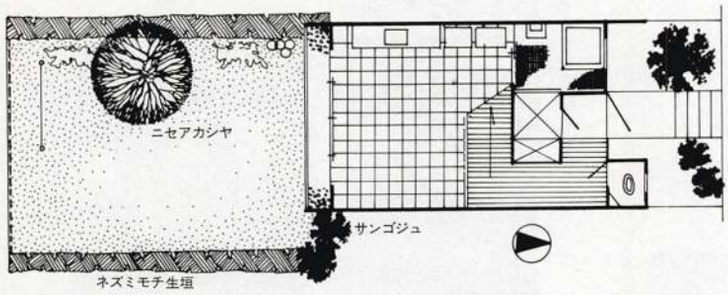






▲単身者住宅ラウンジ・食堂のみどり

▼テラスハウス

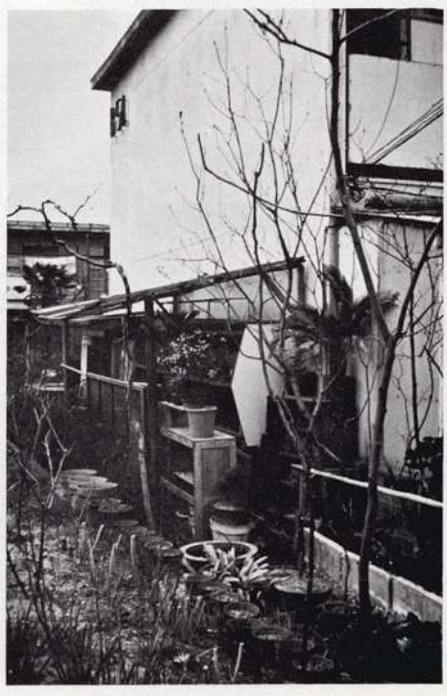


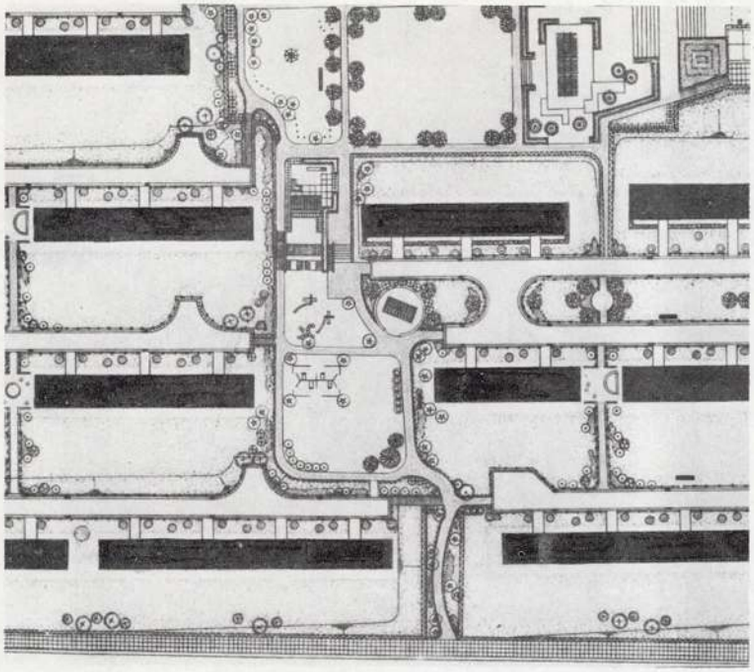
▼テラスハウスの緑





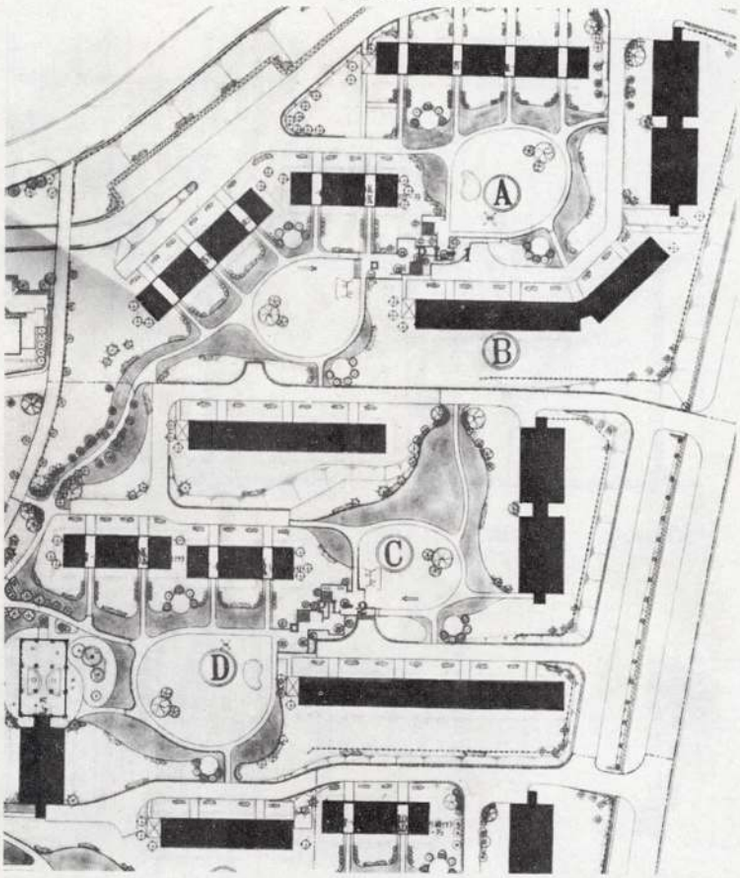
▶テラスハウス妻側クリアランスに育てるみどり





▲平行配置

▼囲み型配置





◀バルコニーぎわの手づくりの緑



▶中層団地の広い隣棟間スペース



▶緑の多い中層団地



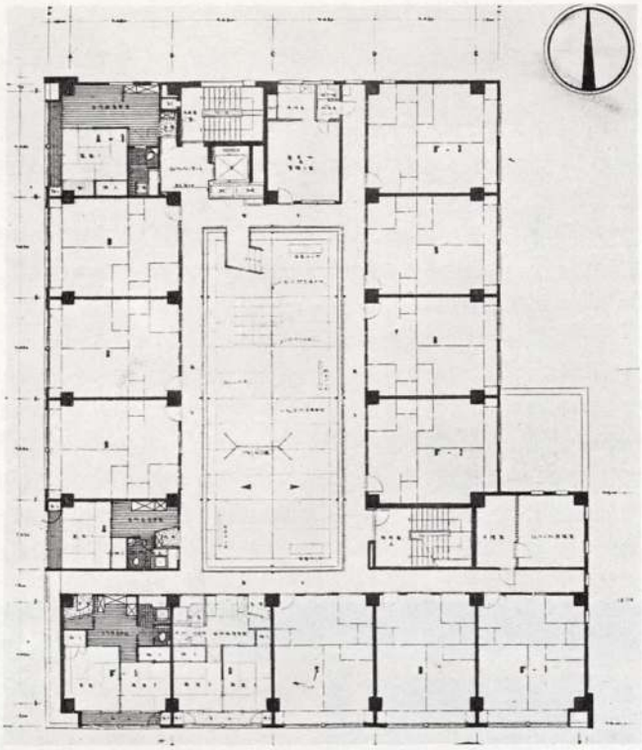
▶住棟階段室のエプロン・グリーン

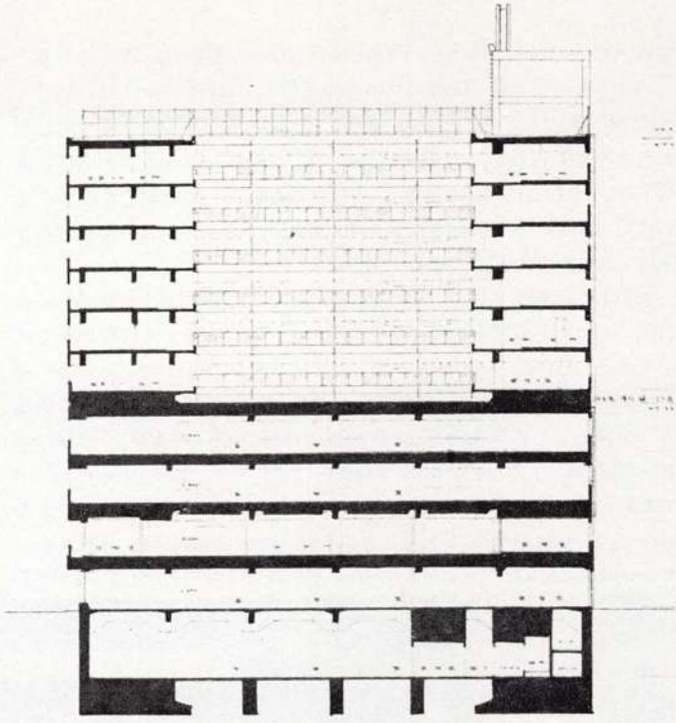


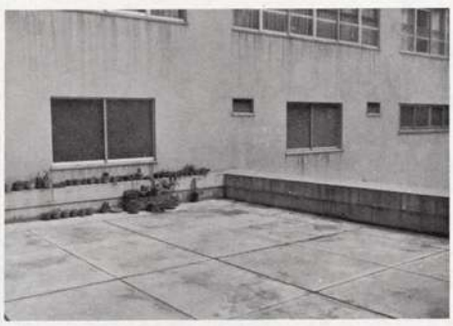
▶ピロティによる連続したグリーン



▶手づくりの共同貸花壇





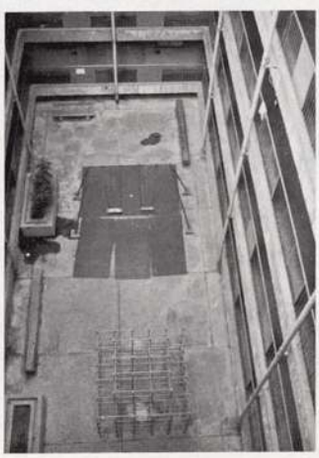


公団市街地高層住宅

コンクリート内部空間のわずかな緑	殺風景なコンクリートの内部空間

冷たいコンクリートの遊び場	自動灌水装置をもつフラワー・ボックス	高層住宅のインテリア・グリーン











◀面開発高層住宅団地



▶団地高層住宅

する（Familiarization）。Familiarization の極点は Pet である。このような発展過程（Domestication→Familiarization）は，同時にまた Wild なものをいっそう Wild なものとして対象化する。われわれをとりまく自然が Domesticate され，Familiarize される度合に応じて，相対的に残余の自然は Wild なものとして対象化される，そのような関係にある。両者は本来的には相反するものではなく，共存することが生活空間成立の条件である。

われわれは緑を住い，さらには生活空間との関連で考える場合，それは実にわれわれの歴史的経過がその中に含まれていることに想到するべきである。Green System は過去における自然の Domestication や Familiarization の諸様態が貴重な遺産として現代の生活に受け継がれた結果としての形式である。Table green（EX. パセリ），Interior green（EX. 生花），Indoor green（EX. 鉢植），Outdoor green（EX. アサガオ），Street green（EX. 並木）…… といった一連の Green Hierarchy が考えられるのも，歴史的な緑のInteriorization, Domestication, Familiarization がそのまま現代に流れこんでいるからである。とくに住いの緑は多面的で，持続的で，近接した緑との Communication を実現する日常生活空間成立のための重要な要素であり，これの欠落はたとえていえば，下着なしに外套だけをまとった状態に似ているのである（住いに緑を与えずに公園をとればよいという考え）。このような状況を克服するためのプランナーの認識とその実現への努力が必要であると同時に，いまやグリーン疎外（人間疎外）の状況にさらされている居住者の意識喚起，技術的アドバイス，情報提供などのシステムの確立を急務としている。

「都市に緑を」は単に為政者の手によっておこなわれるのではない。それは「住い」からはじまる。われわれの創りだすものである。ここでわれわれは豪華なホテルを想起しよう。厚いジュウタンの敷きつめられたホール，美しい緑や花や水が身近かにあるロビー，暖冷房の完備した空間，美味しい料理の用意された食堂等々，このような空間をさらに拡大，発展させ，さらに豊かな装置や施設を内包する住空間が出現しなければ，そしてそれに向かってわが国の住居水準が上昇するのでなければ，G.N.Pはごまかしである。



Systematic Diagram of Green and Living by UDO membre and K.Kondoh

→Living Class	Room	House	Block	Neighbour	Community	Sector	Polis	Metropolis	Megalopolis	Ecumenopolis
Interior Green	生花※									
Indoor Green	テラス園芸※									
Outdoor Green		庭園※	屋上庭園※		住区庭園					
Street Green		生垣※	街園※	街路樹	生活緑道	地区緑道	都市遊歩緑道		広域緑道	
Urbon Green			幼児遊園※	近隣公園運動場		地区公園	都市公園緑地		広域公園	
Rural Green				集落広場※	社寺境内	生産緑地(花弁園芸・農業生産・林業生産 等)				
Natural Green								自然緑地	国立定公園	国際自然景勝
↑Green System	Population		10^1	10^2	10^3	10^4	10^5	10^6	10^7 10^8	10^9

注意　1）Street Green が private green と public green の境界と考えられる。
　　2）※印の項目が「住いの緑」に関連して考えられる。

おわりに

緑を生活空間の中でいかに意味付けるか。

その観点は歴史的にいろいろの変遷を経てきたが，現在に至ってもきわめて多様なものが見出される。

その観点の中から比較的に普遍なものを求めると，そのひとつに，「緑はかって自然人であった人類の郷愁に連なる」という発想がある。

郷愁という感覚は多く感傷と同視される。

しかしこの感覚は人類が多くの動物の中でひとり持つ本性でもある。

だからその終焉は，人類に本性を変化させる契機になり得るとすると，「緑と人間との関係はその変化が Humanity 自体の変化に連なり得る危機である」といえよう。

さらに，この発想でさえ人類の生存にかかわる問題を示唆する事実は，緑が生活に対して持つ，より積極的な影響に注目するとき，より深刻な観点を発想させる。

たとえば，人間の生活の場が都市に集中して，その思考が人為的な環境に強く影響される現在，既成の人為を超えた思考のためには自然環境の存在がその超人為的な多様性ないし非固定性などから高く評価されよう。

それは，人類の存在意義を各人のもつ人間性の向上が可能な社会の実現に求める思想から結論される，「多様な経験の可能な環境の創造的保全」が指摘する自然環境の保護という思想とも共通する。

多様な緑の存在の中で，自然環境の経験に連なる代表に原始林などの景観は誰しも考えやすいところであるが，この経験という人間的ないし生活的観点では「床の間の1枝の生花」にも「庭の1本の樫」にも自然は存在する。

否，新芽ひとつの息吹きにも，人間とは自然の存在を実感し，それから自然の偉大を想い，自省を深くする存在であるのが，その本性であり，それゆえにこそ人類が今日の大をなし得たのであろう。

このように緑のあり方を理解するとき，その小なるものから大なるものへ，あるいは日常的なものから稀少なものへ，自然の象徴としての緑にはある Hierarchy の存在を念頭に浮かべざるを得なくなる。

この Hierarchy という言葉を想起するとき，筆者は10年前Pakistan回教共和国の新首都 Islambad の Capital Development Authority で，同じ Planning Directorate にあった Doxiadis Office でのことを思い出す。

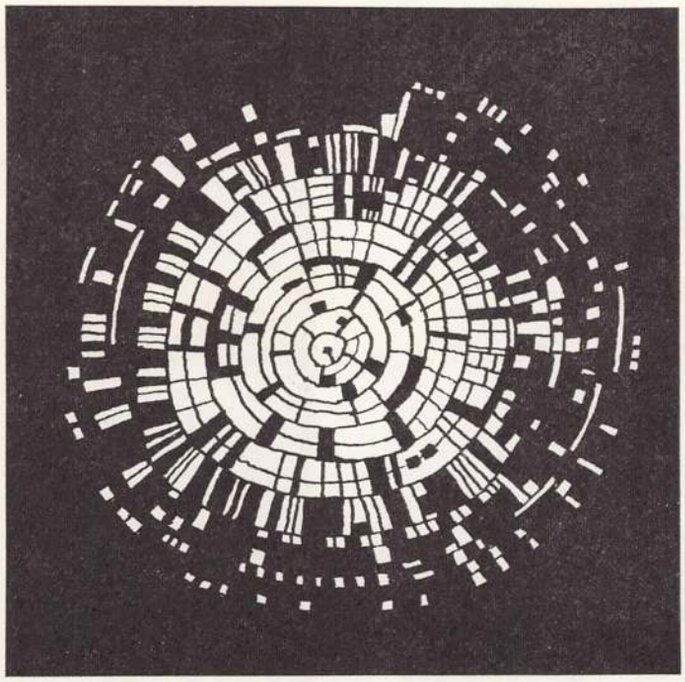
それは Dr. C. A. Doxiadis が Ekistics の理念をもって活躍するところであり，彼が主張する Human Happiness のための原理のひとつとして，Hierarchy of function という言葉はくり返し自身の口から説かれたのだった。

では，緑の Hierarchy とはいかに考え得るだろうか。

それは「住いの緑」とはそこでいかに位置付けられるものであるか，の示唆としても意味を持つ議論を形成するであろう。

ここに示す Diagram は，UDO 同人の提案する Environmental ecology ともいう観点からする Green system と，筆者が Ekistics の発想からする Human ecology 観点の Recreational living hierarchy の総合である。

この試案的な発言に対して，今後に諸方面からする検討のえられることを期待し，ここでの問題提起とする。



生活道路さまざま

嶋田勝次

昨昭和45年8月2日（日）の昼間，東京の銀座・新宿・池袋・浅草の四つの盛り場から車が締出され，「歩行者天国」が実現した。同じ日，関西では尼崎・神戸・姫路などの各市の中心地でも，人間が車から道路を取り戻した。狭い歩道に押し込まれていた人々が，生き生きと車道の真中にあふれ，不思議な興奮と楽しさを味わっていた。これは，その少し前，7月11日（土）ニューヨークの目抜き通りの五番街で朝10時から晩5時まで車がシャットアウトされて好評を得た実績を引きつぐものであったろう。このような道路を歩行者に開放するこころみはもっと前から提唱されていた。しかし東京でも京都でも道路交通行政管理当局の無理解によって，一年以上も「歩行者天国」は実現に到らなかった。わずかに昭和44年8月6日から17日まで北海道旭川市の駅前平和通りから長さ1kmにわたって「買物公園」という形で，道路が市民に開放されたのである。

道路はいうまでもなく交通空間である。高速道路や幹線道路は都市活動を支える多くの物や人の流通機能の役割を果しており，車の通過交通



◀銀　座



新　宿▶



（読売新聞昭和45年8月9日版より）

が多大である。補助幹線街路から区画街路その他の細街路に到るまで，人と車が往来し，沿道施設へのサービス・アクセス機能を果している。さらに道路は市民のための生活空間である。都会の表通りはともかくとして裏通りは，昔は住宅のひろがりとしての戸外の生活空間であり，カンけり，カクレンボ，夕涼み，井戸端会議，縁台将棋など，近所の人々や家族や子供たちとの楽しい一時の生活の場であり，遊び場でもあったのである。しかし表通りのみならず裏通りまで道路は車に占領され，たえず交通事故におびやかされるスペースになってしまった。その市街地道路の中の生活空間的場面を復活させようとして，最近いろいろなこころみが行なわれてきたのである。前述した「歩行者天国」——オアシス道路——は，その現われの一つである。しかし，このオアシス道路はなにも最近はじまったものではない。大阪の心斎橋筋，京都の新京極，神戸の元町通りなど，関西の有名な都心商店街は，昔からの立派な「歩行者天国」である。今さらという感なきにしもあらずであるが，より多くの歩行者の道路を確保する現われとまで理解すべきであろう。

歩行者のため，都市生活者のための道路確保のアイデアは，ショッピングストリートにとどまらず，さまざまの形で生まれてきた。

グリーンロード——幼稚園や小学校の子供たちを交通事故から守るため，通園，通学路を朝の登校時に限り，学校周辺一，二カ所を限って，車の全面通行禁止するもの。

買物道路——近隣商店街，市場周辺における買物客やドライバーと搬入搬出のサービスアクセスの混乱をさけるため，午後，車の出入禁止をするもの。

安眠道路——閑静な住居地域における夜間の通過交通をシャットアウトするもの。

遊戯道路・お年玉道路・休日道路広場——いろいろな名前がつけられているが，夏休みや冬休みの期間中，都心部の裏通りなどを子供の遊びに開放しようとするもの，および休日に道路の交差点を含めて広く道路を人の利用に提供しようとするもの。

青空市場——市街地または団地の路上で，生産地直送野菜果物類を露店的に利用するもの。

その他，好き勝手な名前をつけて，道路を生活空間化しようという努力が，各都市で爆発的に行なわれている。

しかしいずれもなんともわびしい生活空間であり，借りものの感をぬぐえない。オアシス道路の真中に机や椅子を持ち出し，植木鉢を置き，車道の真中で落書をしたり，竹馬でたわむれたりしていても，何か箱庭的である。一時的な開放区であり，兼用の場であり，のびのびとしたスペースでないからであろう。やはり豊かな生活環境の造成は一朝一夕では無理というものである。

都市市街地における緑地広場を積極的に導入する方法に，緑道・散策道の定着がある。大阪市のマイル作戦・神戸市のグリーン作戦など，都市の中に失なわれた緑を復活しようという意欲がみちてきている。

各種の道路の中で，厳密に「生活道路」と規定できるものはないが，今後，道路の性格を明確に区分し，それぞれの性格を一層盛り立てる方向を検討していかなければならないであろう。その中で，通勤・通学・買物・散策などの歩行者専用道路や自転車専用道路などを具体的に定着していくことが，都市の中で「生活道路」を実際につくり出していくことになろう。

昭和33年8月公布施行の旧道路構造令は，本昭和46年4月から施行される新道路構造令に改められるが，その新道路構造令の改正の中で，高速道路の各種基準とともに，道路の安全諸施設設備の配慮，および自転車専用道路や歩行者専用道路の規定を新たに設けている。都市空間の中で道路にも市民の生活環境を持ち込もうとしている意図をうかがうことができる。都市の中で早急にその生活道路を一本でも多く実現していってほしいものである。それらがつながり，安全で快適な歩行動線やグリーンのネットワークの中を喜々として歩き廻る人々の姿を今，思い描いている。

（しまだ　かつじ　神戸大学工学部建築学教室助教授）

都市の老人

安[redacted]田　　孝

現在，日本では65才以上の人口は総人口の7％で，欧州の国々の12～14％に比べると少ないように思われるが，実数は700万人で，世界中では米国についで二番目の大集団を持っていることになるだろう。60才以上人口は1,100万人，10.6％であるが昭和70年には2,250万人，国民全体の18％という高齢化社会に突入することになる。そうなると2,000万人のポリティカル・パワーとして動く可能性もあり（もっともその時点では老人問題の内容もいくらか変化していると考えられるが），老人問題の重要性は今後急速に増してくることは疑いない。だが，現在は，老人問題に対する意識も，対策も決して充分とはいえない。そこで，都市における老人の生活の一面を紹介しよう。

大阪市社会福祉協議会が，校下老人クラブ（校区ごとに老人福祉を目的として組織化されている）とは別に《青空老人クラブ》というものの存在を市内で7カ所つかんでいる。それぞれ適当な場所を見つけて焚火をかこんで世間話や将棋を楽しんでいる。そのうちの二グループをのぞいてみた。

—大阪市内青空老人クラブ—

名称	所在地	特徴
藤の棚老人クラブ	天王寺区元町 四天王寺境内	文字通りの青空クラブ。雨をしのぐ場所もない。四天王寺の重要文化財のため焚火は禁じられている。簡単な集り場がほしい。
／	旭区千林町3—16 千林公園内	公園内の藤の棚に集っている。 環境は好ましいとはいえない。 焚火は禁じられている。女子がすくない。
／	城東区北中浜町5－6 中浜公園内	老人会で譲りうけた地蔵さんを中心に集り，早朝のラジオ体操を日課にしている。公園の清掃につとめている。ここは女子が多い。何の設備もない。
／	此花区春日出町下通1丁目 此花公園内	児童公園の一部にある休息所をいこいの場にあてている。しかし周囲のかこいがないので寒い。 手洗い場がない。
聖天山老人クラブ	阿倍野区松虫通3－2 聖天山海円寺内	お堂の一部をいこいの家として提供されている。仏前のお花，境内の掃除をしている。社会参加をしたい希望が多い。
みゆき老人クラブ	住吉区浜口町 住吉公園内	土木の材料置場から発展。いこいの家をもち，踊り，将棋などで楽しんでいる。社団法人という法人格をもつ特異なクラブ。
／	福島区鷺州本通1－9 歓喜聖天内	聖天住職が境内に集る老人のため絵馬所を改造し，いこいの場に提供。 運営費がないので苦しい。

2月18日四天王寺境内で



2月16日千林公園で





―・―・―・―・―・―

京阪千林駅から西へ5分足らず，千林商店街の人混みを通り抜けたところに1,500平方米ばかりの小さな公園がある。中央に植込みと砂場があり，南側にすべり台とブランコ，北側には作りつけのベンチとトタン屋根の吹き抜け，西の端に藤棚がある。小さい公園ではあるが非常によく整備されている。2月中旬の比較的暖いある日の午後2時ごろ，砂場には15，6人の幼児が走り回っており，子守の奥さんも数人，北側のベンチや植込みのまわりには将棋盤を囲んでる3つのグループ，藤棚の横では4，5人の老人が焚火を囲んで話し合っている。そのなかの一人のおじいさんに声をかけてみた。

―・―・―・―・―・―

3年前に会を作り，その会長をしていたが，毎年減ってきて，今では解散状態である。暇があっても金のない人が多く，200円の会費がなかなか出せない。この公園にはこうして集まってきて，将棋の好きな人は道具を用意してきて楽しんでいるし，話相手の欲しい人はそれぞれ若いころの自慢話，失敗談や世間話をしている。おばあさんも少し集まってくるが，余り話をしない人もいる。春には60人ぐらい集まることもあり，夏には近くの商店からコーラを買ってきて飲んだりするが，今は会費もなく，自由にやって来て，好きなときに帰る。それでも焚火も禁止されていることだし，皆で集まる部屋が欲しいという声も多いので市役所へ4，5回頼みに行った。この間は必要金額（集会所を作るための）を見積ってくれ，64万円の半額を準備してくれれば建ててくれるという。なかなか集まらない。それに，集会所ができた場合は，会を作って維持費の負担と管理をしろという。維持には最低2，3万円は必要だろう。

―・―・―・―・―・―

ベンチでは買物の途中，ひと休みしているおばあさんなど3人が話し込んでいる。家庭内での不満，苦労話で，女には隠居がない，孫の世話，着物のつくろいなどをやらないわけにいかないという。守口の公園でも集会所ができたということを聞いたが，ここでもトタン屋根でよいから建てて欲しいということであった。

3時過ぎになると夕食の準備のため近所の奥さんが買物かごを持って通ったり，公園内は一段と活気をおびてきた。

四天王寺境内の東門，土塀の片隅に中央の焚火を囲んで木のベンチが4つ据えられて，それぞれ2，3枚の座ブトンが敷かれている。午前11時過ぎ，4，5人の老人がひっそりと坐っている。つい今しがた，昼ちかくなったので何人かの老人が帰ったばかりだという。時折，仲間のうわさ話をしたり，次の旅行の計画の話をしていた。そのうちのおじいさんの話。

―・―・―・―・―・―

会員は約90人で，天王寺区の11の老人クラブの1つであり，旅行も年6，7回計画している。前回は別府へ3，4日行ってきた。会長，会計などの役員も決まっており，会費100円，近々総会を開く予定だ。ここは自由に集まって話をし，弁当持参で1日中いる人もあれば午前中で帰る人もいる。四天王寺では重要文化財があるので焚火は禁止されているが冬は寒い。朝の5時ごろから来始めて午前中は9時，10時ごろが最も人数が多い。皆世間話をして帰ってゆく。

―・―・―・―・―・―

お茶の用具が準備されており，会で購入したものだという。通風で身体の不自由なおじいさん，リューマチで松葉杖をついているおばあさんなどが弁当を持ってきており，話の途中には仕事の道すがら立寄ったというおじいさんもいて，メンバーの出入りがかなり頻繁であった。

―・―・―・―・―・―

こういった老人のたまり場は他にも10数カ所，老人の総数も千人近いのではないかと思われる。

既成老人クラブは老人個々の経済的，身体的条件の差異に充分対応しえないところにその限界を示しているともいわれるが，四天王寺の老人クラブの例のごとく組織に開放性をもち，適当な溜り場の設定によって新しい可能性を開きつつあるものも見られる。一方，千林公園の例では金銭的な問題がネックになっていて，グループそのものがまとまらないと考えられる。

千林公園では周辺条件，公園内施設の整備状況によって老人，近所の幼児と奥さん，近くの商店のおじいさんなどそれぞれが楽しんでいる光景がうかがえた。コミュニティにおける老人問題解決の手掛りとなり得ないだろうか。

現代社会での変化の急速化，価値観の相違などによって失われつつある老人と若い人の接触，社会の第一線を退いた後の生きがいの問題などは一朝一夕では動きようもないだろうが，住宅内部においてと同時に，コミュニティとしての老人問題解決への具体的，恒久的手段も必要になっている。

（やすだ　たかし　大阪大学工学部環境工学教室）

子供と水
PLAY WATER の提案

近藤公夫

諺に，「水ハ方円ノ器ニ従ヒ，人ハ友ノ善悪ニヨル」というように，感受性の強い人格形成期の世代が融通自在な動的存在である水の百態と接して何を学び得るか，は彼らの生活環境を考える上で興味深く示唆する所の多い問題である。

水は彼らにその視覚のみならず，聴覚や触覚に加えて運動感覚や情感を通じても訴えるところをもつ。

したがって，水が語り得るものを子供の心身の糧として豊かにうけさせ，それを彼らの体験に美しく結晶させることは，造園人，建築家をはじめとする生活環境計画者達の責任ある課題にほかならない。

多分，子供が水辺に喜々とした振舞を見せることは，人類がもつ郷愁のひとつであって，それは歩きかけた幼児でさえ水と余念なく戯れて自分も衣服も水だらけ泥だらけにする日常の情景や夏の水辺の有様にうかがえるところである。

昨年末の新聞に報じられた淀川の３人の幼児の悲劇もそれと無縁ではあるまい。

「1970年の日本は幼児から安全な水遊びの場を奪い，あえてそれを欲する彼らには死を与えた。」のである。

では彼らに償なうべきものは何か。

彼らの欲するところに近い何らかの場を，その生活環境に与え得るのであれば，そしてそれが問題解決の緒たり得るのであれば，われわれは償ないの途をそこに求め得るであろう。

この小文は，そのために空間と資本と意志が投入される条件が整ったとき，その実現により彼らに償ないをする「水遊びの場」を提案しようとする。

それをかりに Play Water ないし Play Poolといおう。

それは彼らが容易に到達できるところに安全な水遊びを保証する場の計画であり，現実的には学校ごとにある水泳プールや幼稚園にある徒渉プールを発展させる方向をも示すものとなる。

たとえば，水深を徒渉池程度に保って，その水辺に近接のための変化あるテラスなどを設け，さらに水中にかけて遊戯施設類を設置するなどの技術的な開発はひとつであろう。

またその利用をそれぞれの児童，園児から解放し，その管理を施設維持から利用指導の分野まで拡大することもその発展方向を示唆しよう。

そこでは幼稚園以前の幼児でも，水に脚を浸して歩き戯れ，玩具を浮かべ操り，夏には水をあびたり水に浸ったり，の遊びを安全に楽しみ得る等がイメージされる。

そしてこのプールは1940年代にデンマークに起源をもつアドベンチュアプレイグラウンドのように，アドベンチュアプレイプールとして子供達が水遊びにつかう 遊具を自から 作り出す試みへも 発展し得るであろう。

ただそこには，寒冷季の利用をいかに開発するか，子供を行儀良くしつけるため衣服の汚れをいとう親への対処をいかにするか，などの問題が未だ残される。

具体的にプレイウォーターの考えを指向した遊び場について若干の例をあげると，「子供の国」の「ジャブジャブ池」や「万博エキスポランド」の「創造遊園」などということになる。

それらは多くの誌上に紹介されたところでもあるから，ここでこと新しくは説明しない。

そのかわり，それらをさらに発展させる提案として，神戸港に建設中のポートアイランドで計画されている公園の局部 "アドベンチュアプレイプール" を図示しておきたい。

それは 2ha 強の敷地に 0.2ha 前後の遊戯プールを多数もうけ，その間を流れのカナールで結んで，プールそれぞれを独自の遊戯の場ともすれば，そのカナールも動的な利用の対象となるキンダーランドである。

そこでは，バースハウスないしプレイセンターで更衣した子供達が，水を安全な遊びの友としたあらゆる遊戯の体験をつみ，それを囲むテラスやブリッジは子供の保護者達の休み場となる。

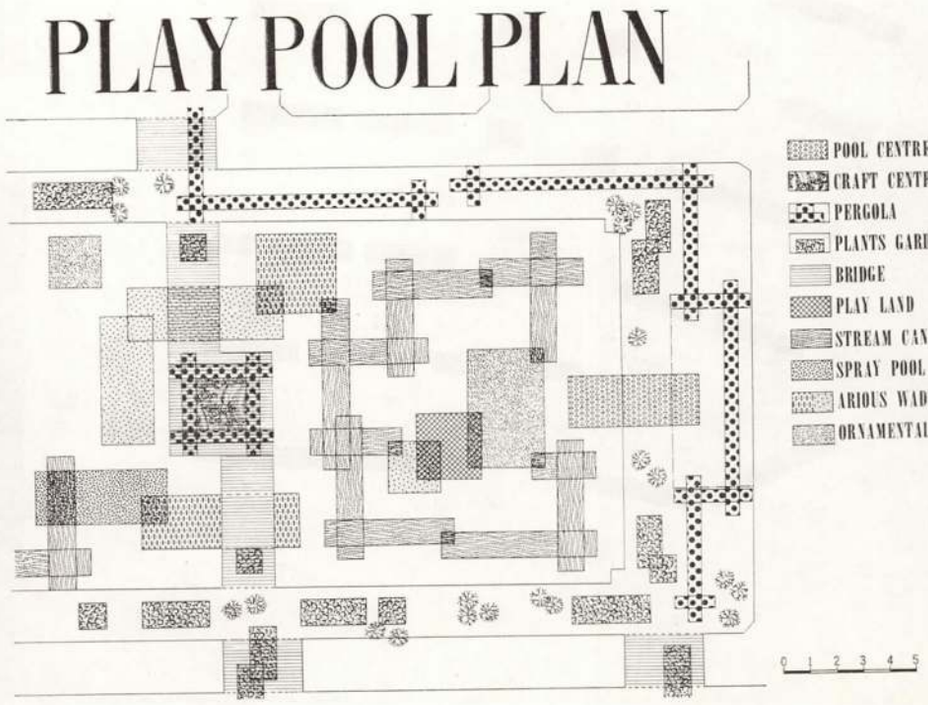
いうまでもなくその実現には多くの問題がある。

しかし子供と水との結びつきに数々の望ましい可能性があり，海や湖や川やそして水たまりにさえ瞳を輝やかす子供を思う時，われわれはその結びつきを高める努力を怠り得ないのではないだろうか。

（こんどう きみお 奈良女子大学住居学科助教授）

西宮市夙川公園寸景





主婦と土

団地共同花壇の草花づくり

鈴鹿幸雄

四季を彩る草花は数ある造園植物材料の中でもとくに親しみ深いものである。花の色の美しさもさることながら，短かい生育期間のなかで，日々生長変化する様が新鮮さをもって感じられるのは日常生活の中にとけ込んでいるからである。趣味としてあるいは子供の植物観察教育を兼ねて主婦の草花づくりが盛んである。団地居住者も入居後しばらくして団地生活に慣れてくると草花づくりをしてみたくなる。ところが団地の屋外空間はすべて共用空間のため，専用の花壇をつくることができない。共同住宅には独立住宅ではもてなかった大きな共用庭空間ができるはずである。この共用庭空間は居住者の要求，欲求から，計画的なプロセスを経て，時間とともに形成されてゆくべきであり，当然，共同花壇の欲求も出てくるであろう。そして，共用の場に参加して草花づくりを楽しみながら，人々と接触し，ともに観賞して相互のコミュニケーションをはかり，団地コミュニティーづくりの一途をたどるであろう思想のもとに計画設計された例として，千里ニュータウン内の新千里西町団地および千里竹見台団地がある。

新千里西町団地は中層534戸（3DK164戸，3K370戸）が4グループより構成され，各グルーピングの核としての中庭共同園地にはプレイコーナー，砂場コーナー，小広場，およびレストコーナーがあり，レストコーナーの装置として共同花壇が設計された。花壇は1グループに10マス計40マス（1マス1.5M×1.5M）あり，入居時には何も植えず，花壇の使用方法も決めず，入居者に花壇の説明もないままとした。その後バルコニーでの草花づくりや，1階バルコニー廻りでわずかの草花を植えたりしていた入居者から，遊び場の花壇を開放してもらえないかと相談をもちかけ，入居後約3年経過した昭和44年3月，申込者の責任において管理することを条件に無償で貸与し，契約期間を1カ年として申し出がない限り自動的に更新されていくものとした。使用申込受付期間中にほぼ予定数の申込者があり，現在34世帯が使用（3マス使用1世帯，2マス使用4世帯）しているが，その他にもかなりの申し込み者がいて順番を待ったり，使用者に植えさせてもらっている人もいるようである。また花壇開放と同時に使用者の中から会員を募り，園芸サークル会も誕生し，用具の管理当番を決めたりして花づくりを楽しんでいる。

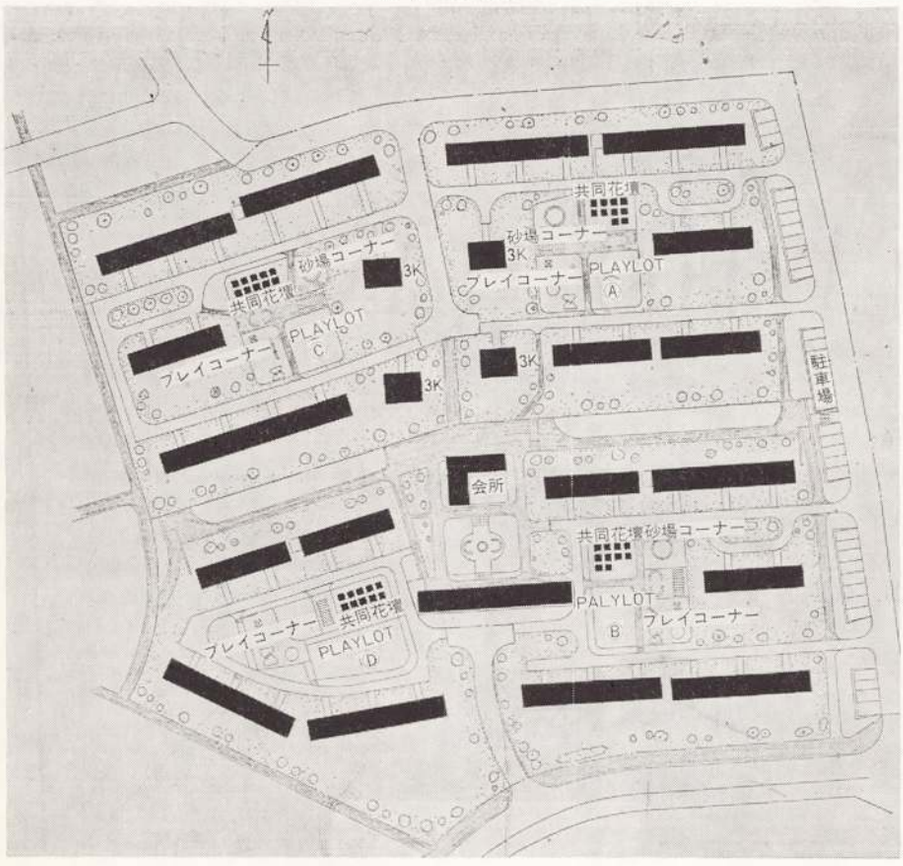
サークル会の会則は次のようである。

（名　称）　西町団地園芸サークル会と称す。
（組　織）　園芸同好者をもって組織する。
（目　的）　園芸を通じ会員の親睦と西町団地の環境を美化するを目的とする。
（活　動）　1. 西町団地内プレイロット花壇造り。
2. ブロック毎の花壇コンクールを行なう。
3. ベランダ園芸の普及と指導を行なう。
4. 花の展示会，交換会などを行なう。
5. 植物園，園芸展示場などの見学を行なう。
6. 緑化運動に協力する。
7. サークルに必要な活動を行なう。

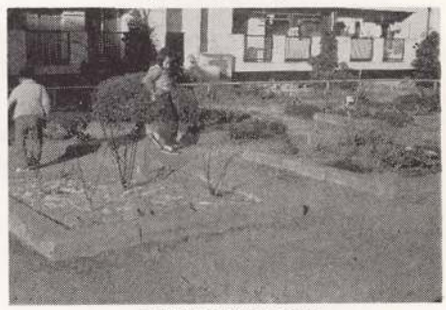
千里竹見台団地中層（540戸）部分の囲み型配置の中庭に西町同様の共同花壇が60マスあり，現在30世帯が使用している。当団地は入居後1カ年以内に西町団地と同時に開放し，募集したが，とくに熱心な人だけとなり，1世帯で数箇所も使用しているものが多い。その後申込み者は多くなったようであるが，現使用者が熱心にやっているため，順番が来ないようである。花壇使用開始の時期，使用者の決定方法，花壇の大きさ，区画数，給水設備設置場所など，今後設計上ならびに使用上にも問題はあるが，主婦や子供達にとって，生活の大部分を過ごす団地近隣居住空間の中にみどりを，花を育てたいものである。

（すずか　ゆきを　日本住宅公団大阪支所）

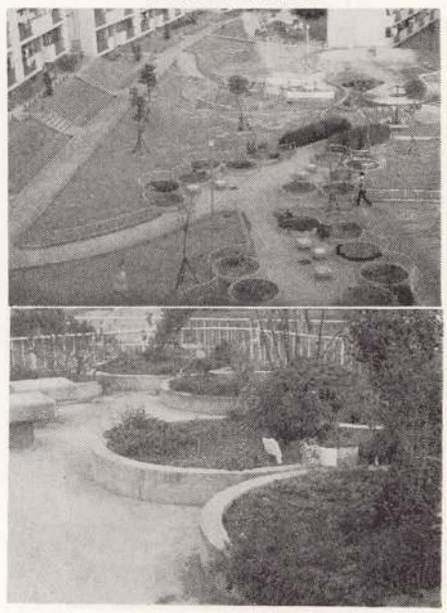
新千里西町団地



新千里西町団地共同花壇

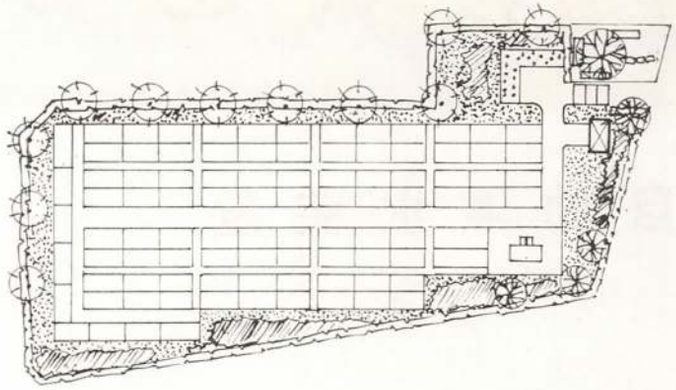


千里竹見台団地共同花壇



共同住宅と貸花壇

塚本正司



1. 住宅公団でこのたび“貸花壇のある団地”伝法面開発市街地住宅が完成した。

今日都市生活の中で“緑”に対する愛着と要求が高まっていることは，切実な実感である。住宅公団が行なうような集合共同住宅では屋外オープン・スペースをいかに計画し使うかが集合と共同のメリットの指標であるが，貸花壇はこの切実な要求に答える一つの試みである。

2. 伝法面開発市街地住宅は大阪市此花区伝法町の約一万坪の工場跡地を再開発して高層集合住宅（10階建２棟，11階建２棟）1,072戸を実現したものであるが，立地的に緑の少ない地区であったため，団地全体を緑豊かなものにすることが計画当初からの念願であった。

貸花壇用地にあてられたのは，この敷地の一部1,110㎡であり，その土地利用の内訳は表のとおりとなっている。

１区画4.5㎡に分けられた95ブロックが貸りれる部分で，草花のほかパセリ，セロリなどを菜園することも自由である。水槽は花壇給水用の水栓を備えるとともに，農具洗，足洗いなどの場となる。倉庫は種苗・堆肥・スコップ・バケツ・ホース・ホーキなどを収納し，貸花壇のための共同のものである。

貸花壇全体に常緑と花どりを供えるため，周囲はウバメ生垣・ヒラド・ハコネウツギ・サツキ・アジサイ・ヤマブキ・クチナシなどの草花木の混植で囲っており，一部はバラの花壇で，これらは公団が管理する。季節に応じて色どりを与える周囲の花が，貸花壇の手入れの意欲と喜びをかきたてることであろう。

貸花壇の入口にあたる部分はバラアーチとシンジュの木がつくる木陰にベンチがある。

3. 貸花壇を実現しこれを運営してゆくためには，次のようなことが問題となる。

イ）貸借方式：有料か無料か。対象者。
ロ）運営・管理：公団管理と自主運営。
ハ）ブロック割：一区画の規模と分区のパターン。
ニ）指導：種苗・肥料と園芸の指導。
ホ）設備と共益費：給水，用具など。

貸借方式については有料であるべきか無料であるべきか，管財の立場から

ブロック割貸園（4.5㎡×95ブロック）	427㎡
通路（幅1.5・1.0・0.5m）	163
水槽（廻りを含む）	23
花壇（バラ）	11
倉庫（鉄骨造スレート葺）	6
周囲植栽（公団管理地）	480
合計	1,110㎡

ら論議された。あるべきかというのは変な言い方であるが，無料とするとタダだという意識からついつい身が入らなくなって荒れたまま放置されることも考えられるからである。兵庫県西武庫公園の分区園では有料としているが，100円／月（造園雑誌昭41年№4報告）と非常に安い賃貸料しかとっていないのも，こような意味が強いのではないかと思われる。しかし，住宅公団の場合，有料とすると地代と家賃の関係も反映して難しくなり，原価償却的な根拠が成りたちにくい。

結局，対象者を入居者に限るということで，これらの人々の共用のものと考え無料となった。

対象者を入居者とすると，1072戸に対して95区画だから，１戸に１区画なら９%弱の人しか借りれない。このあたりから運営方式をグルーピングによって全住戸による共同自主運営とするか（１区画に対して11戸），年限によって持ちまわしてゆくのか（多年草を考えて最低２年限とすると22年目に再び借りれるということになってしまう），それより前に，本当にやる気で希望する人々を対象とすべきで，一体どの程度の人々が申込むだろうかといった論議がでてくる。

正式な運営管理要領は公団としてもまだ決っていないが，計画の理念としては全戸のグルーピングによる自主運営を期待し，その中でのやる気，嫌気を問うことにした。断絶が言われる昨今，貸花壇の運営が契機となって自治組織やコミュニケーションの場が拡がることになれば幸いである。

給水，用具，公団管理地の剪定・清掃などの共益費はこの前提のもとで調整されることになるだろう。また園芸の不慣れや種苗，堆肥などの指導は公団管理人のほか，大阪市公園協会のような団体の巡回指導などの体制が望まれる。

一区画の大きさや分区のパターンについては，使いやすさ，美しさの観点から，できるだけ土地利用の効率のよいこと，園芸作業に支障のない１区画の大きさと通路割，整然とした美観の保持などをチェックして，矩形整列状のパターンとなったが，このほかに六角形の蜂巣状パターンやコインモザイク状のパターン案があった。

一区画は1.5×3.0の4.5㎡であるが，これは通路からの手の届く範囲と手入がいきとどき飽きのこない規模ということから考えた。（西武庫公園分区では約10㎡）。ボーダーはコンクリート縁石とレンガブロック，通路は1.5m幅を裸地のまま，花園内の0.5m幅は平板敷である。

4. 鉄骨コンクリートの高層積層住宅では，草花園芸や小動物の飼育がどうしても制限される。伝法団地ではバルコニーを止めて広縁ルーム（幼児のサン・ルーム，児童の勉強部屋，主婦の家事室，主人の書斎となりうる）としたため，鉢植えや盆栽の代償を求める必要があった。このために，貸花壇のほかに，自動灌水装置つきの住棟プラント・ボックス，プラント・ベースも実現している。これらの計画技術がみごとな貸花壇の運営となって，共同住宅の住環境と生活の豊かさとして花開いてゆくものと思う。

（つかもと　まさし　日本住宅公団大阪支所）

自動灌水装置

塚本正司

1. 都市の緑化

今日の都市化と建設ラッシュは，われわれの都市生活から緑を奪ってしまって，いまや生活環境保全の認識と保全技術の必要性が叫ばれている。地表のコンクリート被覆と高層化がますます進む中では，公園，庭園，街路樹などとともに，立体的な植樹帯が都市計画上の技法となるべきであると思われる。

住環境の中の緑は重要な基準指標であるが，既成市街地に市街地住宅方式で高層の住宅供給を行なっている住宅公団では，その都市再開発上の任務を認識して都市の緑化拠点となるべく努力を重ねている。

ここでは，とくに植栽帯の維持管理と省力化のために農林省東海近畿農業試験場で開発された自動灌水装置の概要と採用の実例を紹介する。

2. 自動灌水装置の概要

植樹への灌水方法には，一般的に次のような方法がある。

イ）地中灌水法：ポーラス・パイプなどを地中に埋設して水分張力を常に適正な範囲内に維持するもの。

ロ）地表流水法：カナル，配管などによって給水するもの。培地の特性に左右される。

ハ）散水法：スプリンクラー，パーフォレインなどの装置をバルブ操作によって作動させるもの。

これらの灌水方法に対して，その自動化の主な方法には，

イ）土護水分張力計測法

ロ）定時灌水法

ハ）水面蒸発量計測法

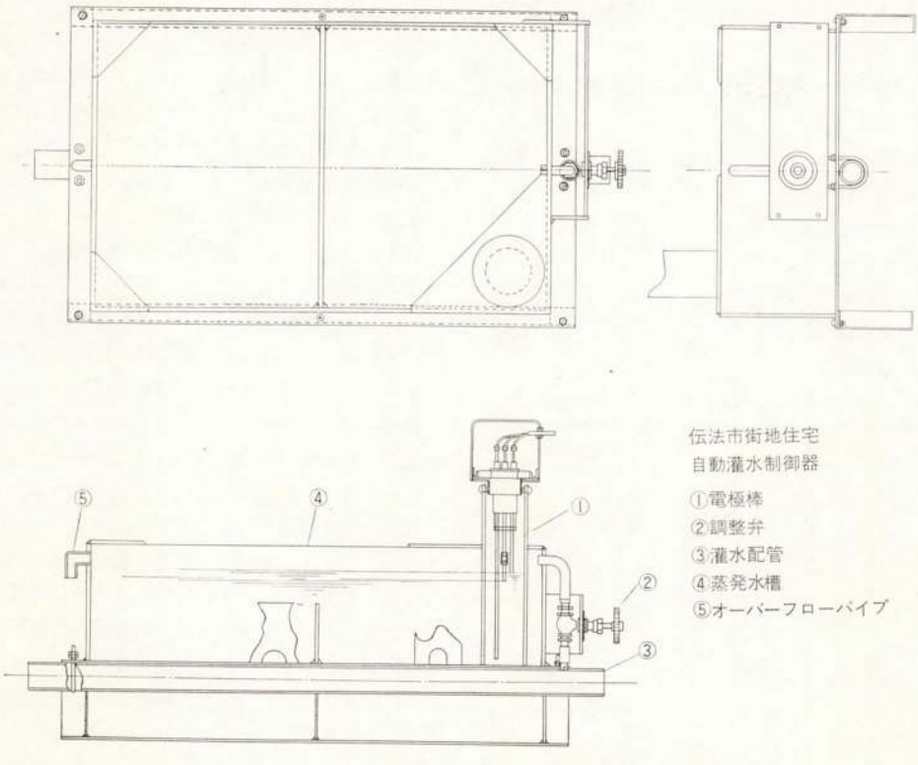
があるとされる。

住宅公団で採用した型式の自動灌水装置の原理はこのうち，水面からの蒸発量と植物の培地およびその枝葉からの蒸発量との間にある相関性に着眼した水面蒸発量計測法であり，灌水は配管ノズルによる散水方法である。

装置の概要は液面制御部分，弁制御部分，配管部分，散水部分によって構成されており，液面制御部分である蒸発水槽の水面が蒸発によって灌水を行なおうとする植物の枝葉蒸発散量測定値に応じた水面(灌水線)まで下ると，電極が感知し，リレーにより弁制御部分の電磁弁を開き，給水などの水道圧によって配管散水部分のノズルから散水する。同時に蒸発水槽にも給水され，植物への必要散水量に応じた水槽水面(止水線)まで上昇してもどると電磁弁も閉じるように設計されている。

装置は季節，樹種，土譲保水力（有効根域群深さ），生育段階などによって蒸発散量と水面蒸発量の関係を調整する必要があるが，各種の植物の測定によって，一般的に植物の蒸発散量の水位換算値（止水線と灌水線の間隔）は平均20㎜前後であり，現実の散水量はその７～８割にセットするのが適当であるとされる。

ノズルは各種ノズルの流量曲線などの解析によってピーノズルが採用されている。また雨水による蒸発水槽の増水に対してはオーバーフローパイプが処理する。



3. 特　長

この型式の自動灌水装置の特長は他の自動灌水法に比較して次のような点があげられる。

イ）水面蒸発量との関係で自動的に灌水を行なうため，気象条件によく追従し，土譲水分を植物の栽培に好適に維持する。しかし，冬季乾燥時には不向きである。

ロ）灌水労力の省力化ができる。

ハ）機構が比較的簡単で操作容易であり．設備費も比較的安く，水源と電源（100V）があればどこでも使用できる。

ニ）ベンチュリー管部分に取付けた注入器によって，液体肥料を灌水に混ぜて施すこともできる。

ホ）水源が地下水などのポンプ揚水の場合には，水道電磁弁のかわりにポンプモーター用のスイッチボックスによって，手持ちのポンプモーターを自動化し，作動させ使うことができる。

4. 管理上の要点

イ）プラント・ベッドへの灌水量は蒸発水槽水面蒸発量の７割～８割値に応ずる水量を基準とする。

ロ）冬季は蒸発水槽水面蒸発量（大気中湿度と対応）と植物散水必要量とはズレがあるので，植物の特性に応じて十分に注意し，根腐れなどをおこさないようにする。

灌水停止とする場合には，凍結防止のためパイプ末端の開放と蒸発水槽の排水を行ない，電源は切っておく。

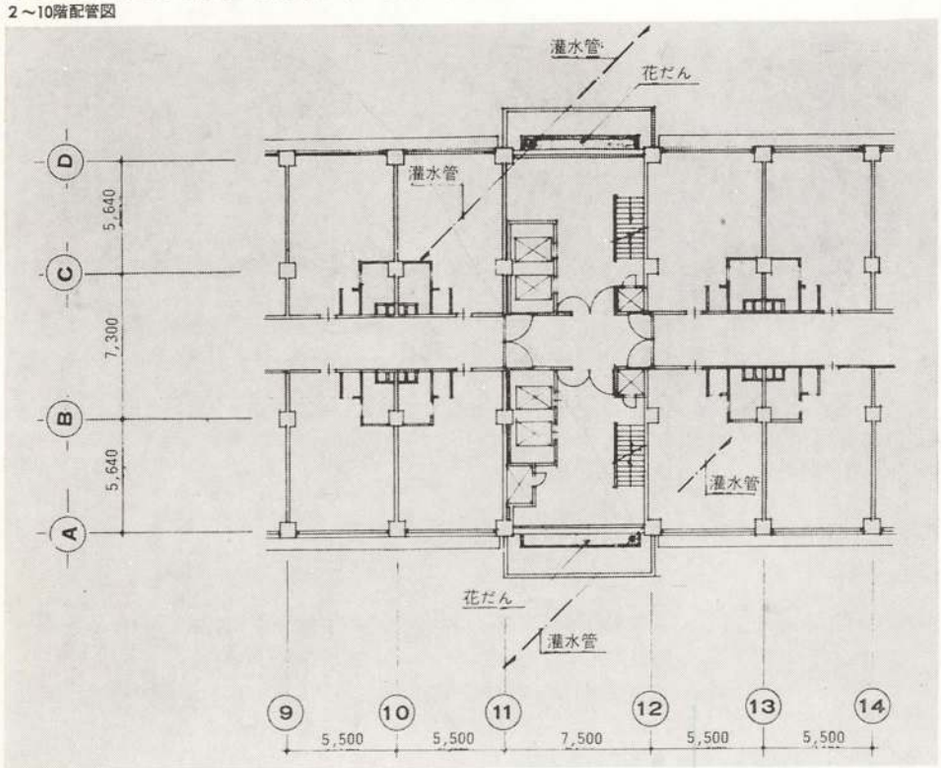
ハ）灌水開始時および定期的にフローシャフト，蒸発水槽，パイプ端，散水ノズル孔などを清掃し，ゴミ落葉，銹などを除去する。

ニ）花木の生育は灌水とともに土譲の物理性，日照条件，排水などが大きく作用するから，これらに応じた灌水量，灌水時間を考慮する。また配管は植樹などの葉に水泡を生ぜしめないよう注意する。

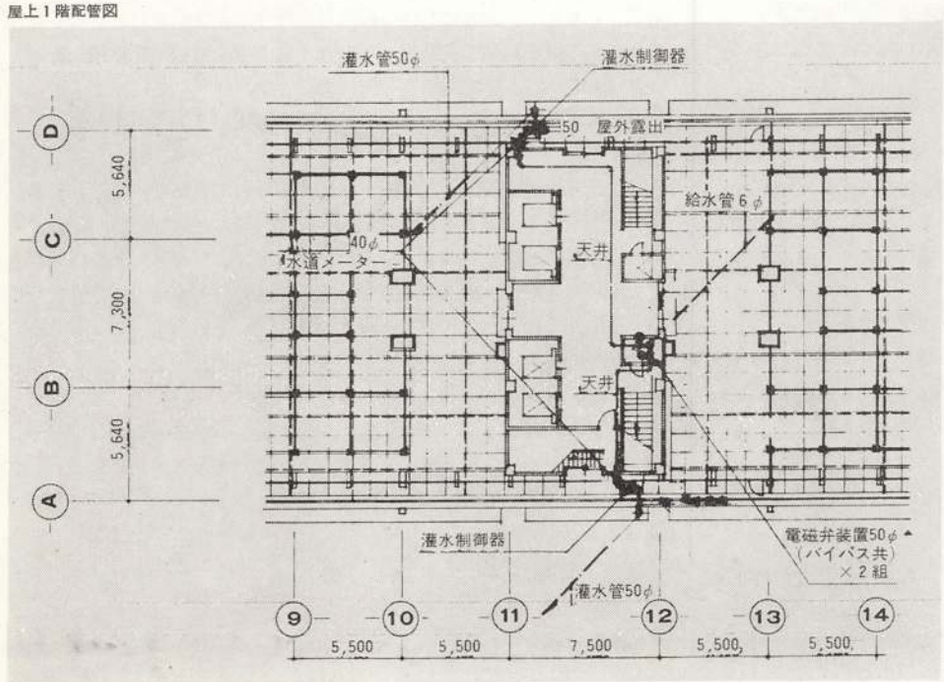
ホ）立体的な植樹帯（たとえば各階プラント・ボックス）への散水は各

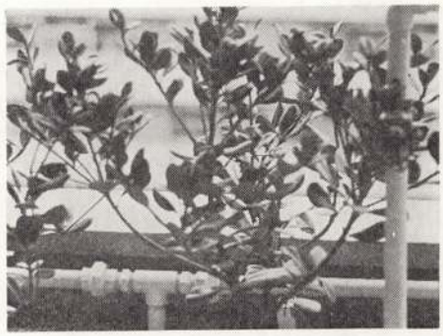
伝法市街地住宅衛生設備工事自動灌水の設備配管系統図

2～10階配管図

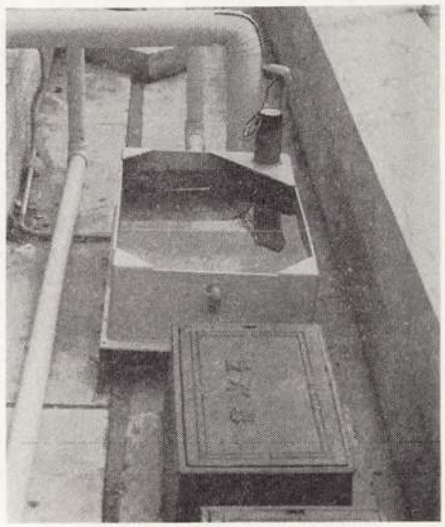


屋上１階配管図

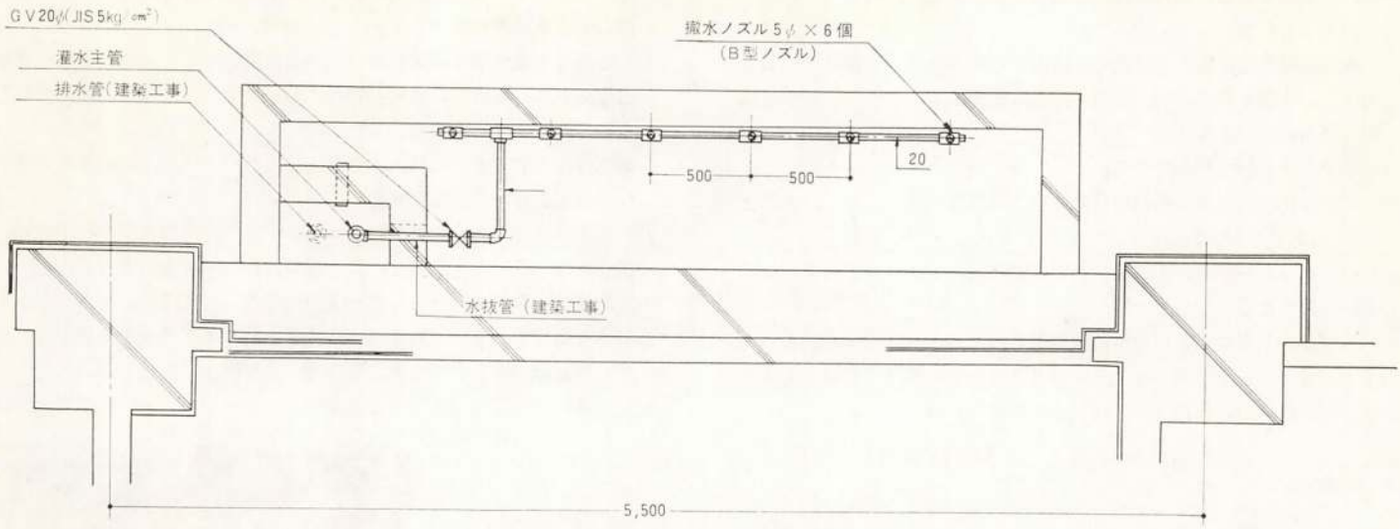


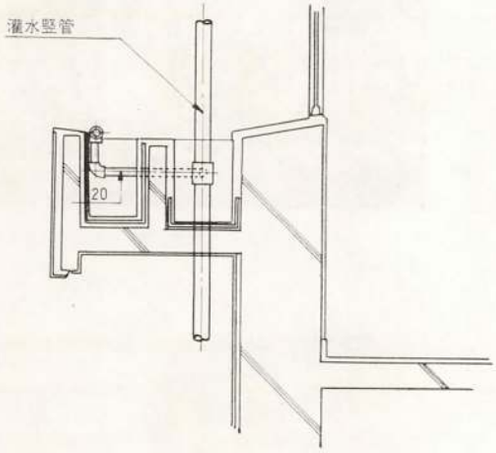




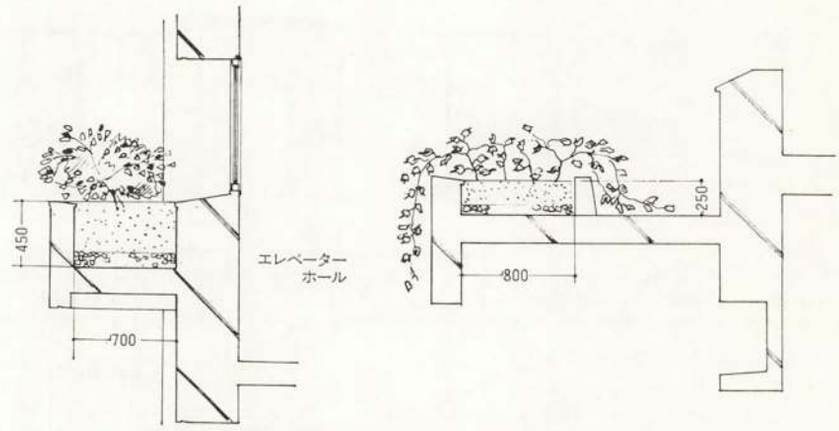


花だん配管詳細図





伝法団地プラント・ボックス断面図



伝法団地プラント・ベース断面図

階の水圧が違ってくるので，ノズル間隔や数および弁の調整によって散水量を均一にする必要がある。

5. 事　例

住宅公団ではこれまでこの自動灌水装置を，又穂市街地住宅，伝法面開発市街地住宅，北大路堀川市街地住宅，山科市街地住宅などのプラントボックス，ペラントベースで実現し，今後とも採用してゆく見通しである。

又穂市街地住宅は名古屋市北区又穂町の敷地約一万坪に昭42年，15階建を含む高層住棟3棟によって1,044戸の市街地住宅団地を開発したものであるが，この団地で初めて自動灌水装置を採用した。この地区は，当初，工業地域であったものを住居地域として整備されるべく指定変更を受けたもので，計画当初から"緑と太陽と空の団地"のキャッチフレーズがあった。

B・C各棟ではE・Vホール窓外側の各階縦方向にプラント・ボックス（深50cm巾35cm，長2.2mのボックス2～3基）を備え，15階建のA棟は1階施設部分をおおう庇の外延に沿って深さ60cm，巾120cm，延長さ192mのプラントボックスをはち巻きのようにめぐらせている。

このA棟の庇屋上は全面プラントベースにすることが検討されたが工費や管理上の問題から実現しなかった。

●工事仕様

配管：水道用亜鉛鍍鋼管

ノズル：ビーノズル普通型（19φ），ネジ込取付

流量調節弁：（B・C棟プラント・ボックス）ファンコイルユニット用バルブ2.5φ（8kg/cm²以上）

撒水制御器：電極作動水位20㎜（日機装電工K.K）

制御盤：電気工事，カバースイッチ61F—G付

電磁弁：100V—N—40W

液肥注入装置：注入用ベンチュリー40～50φ

●機器調整

プラント・ボックスにおいては流量調節弁の調整により最上階を全開とし，これを基準に各階ベッドの撒水量を単位面積あたり同一となるよう調整する。撒水制御器付属の弁調整は，プラントボックスの蒸発量と撒水制御器の蒸発計よりの蒸発量との比が0.7：1となるよう調整する。

伝法面開発は大阪市此花区伝法町の約一万坪の工場跡地を10階と11階の住棟によって，1,072戸を昭46年4月に再開発した。"緑に浮ぶ団地"，"貸花壇のある団地"がキャッチフレーズで，屋外スペースは少年ひろば，にわひろばなどが自由に遊べる団地であるとともに，芝貼植樹によってそのまま緑のじゅうたんと樹陰の場となっている。

自動灌水装置を装備したのは1，3，4号棟のE・Vホール窓外側各階のプラントボックスと3号棟1階庇のプラントベースである。プラントボックス（深40cm，巾70cm，長さ5m86cm・3m86cm）ではサツキ，ヒラド，アベリア，マルバ・シャリンバイを階ごとに配列して植え，プラントベース（深25cm・巾80cm延長165m）ではドイツヘデラを植えている。

いずれもパーライトを下地とした用土（山土：バーミキュライト4：1）を使い，プラントボックスは専用排水立管，ベースはルーフドレイレによって排水している。

（つかもと　まさし　日本住宅公団大阪支所）

都市生活とみどり

PR

株式会社 大阪建築事務所

取締役社長　高橋慶夫

本社並びに支所　大阪市西区京町堀2丁目75　電話　大阪(441)9351(代)
東京支所　東京都港区赤坂1丁目1番14号(溜池東急ビル)　電話　東京(583) 8169
名古屋支所　名古屋市中区丸の内2丁目2番15号(東照ビル)　電話名古屋　8566
九州支所　北九州市小倉区紺屋町1丁目20-1(丸源ビル)　電話　小倉(52)4285
分室　福岡・大分・水島・室蘭

株式会社 竹内建築事務所

代表取締役　内藤一真
専務取締役　林茂

大阪市南区長堀橋筋2丁目35の1(日亜ビル)　電話(211)2706～8番

株式会社 東畑建築事務所

代表取締役　東畑謙三

本社　大阪市東区伏見町5丁目19　電話　大阪(06)202-0391
東京事務所　東京都千代田区永田町2(永田町ビル)　電話　東京(03)581-1251
名古屋事務所　名古屋市中村区堀内町2(堀内ビル)　電話名古屋(052)571-8471
九州支所・広畑支所・大分支所

株式会社 日建設計

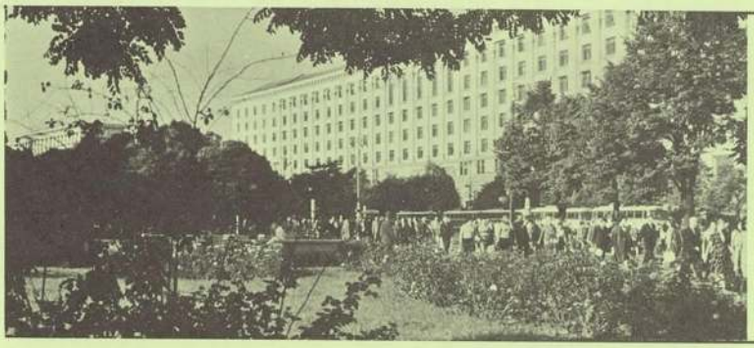
取締役社長　塚本猛次

大阪市東区横堀2丁目38番地　電話203－2361(大代表)

株式会社 安井建築設計事務所

代表取締役社長　佐野正一

本社　大阪市東区島町2丁目7番地　電話06(943)1371(大代)
大阪事務所　大阪市東区島町2丁目7番地　電話06(943)1371(大代)
東京事務所　東京都千代田区平河町1丁目1番地　電話03(261) 5101(代)
名古屋事務所　名古屋市中区錦3丁目24番(日本生命ビル)　電話052(961) 1861(代)
神戸事務所　神戸市生田区三宮町2丁目18番地(阪神相互ビル)　電話078(32) 1533(代)



都市生活とみどり

PR

秋吉緑地計画設計事務所

所長　秋吉由布

大阪事務所　大阪市浪速区桜川1－1039(宮部ビル)　TEL 562－2776
東京分室　東京都杉並区南荻窪1－37－10(LAC内)　TEL 332－4564

株式会社　荒木造園設計事務所

代表取締役　荒木芳邦

大阪府池田市鉢塚2丁目8番21号　電話 0727 (61) 8874 代表

井上造園設計事務所

井上卓之

京都市右京区宇多野福王子町54　電話 075 (463) 3377

EDA
ENVIRONMENT
DEVELOPMENT
ASSOCIATION

株式会社エダ造園・地域計画研究所

代表取締役　吉村元男

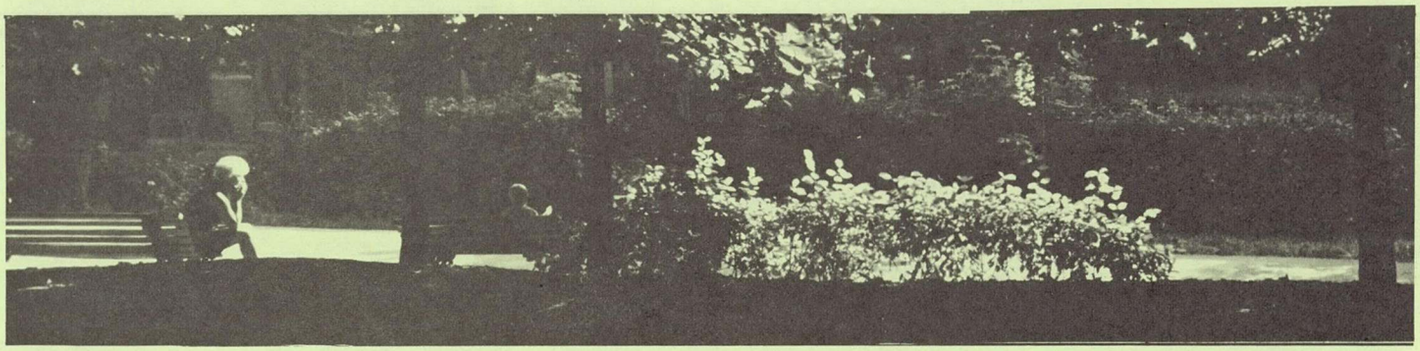
東集盛　矢野興　河合至　三田村和雄　糸谷正俊　山本郁子　王櫻芬

本　社　大阪市東区内淡路町2の16　恵口ビル　電話(942)4577
東京事務所　東京都渋谷区渋谷4丁目3-17常盤松葵マンション309　電話(409)2921
アトリエ　京都市左京区北白川下池田町67　電話(781)4418

株式会社大塚造園設計事務所

代表取締役　大塚守康

大阪市北区北同心町2－37(正善院ビル)　TEL 351－9332



環境設計株式会社

代表取締役　井上芳治

大阪市南区安堂寺橋通り２－２６(大阪写真会館内)　ＴＥＬ 261－2144・5
東京都渋谷区神宮前４－２８－１７(田沼ビル３階)　ＴＥＬ 402－８６５９

近鉄興業株式会社造園部

取締役社長　今里英三
常務取締役造園部長　今村宣彦

本　　社　大阪市天王寺区上本町６－１－１　電話（771）３３３１
奈良営業所　奈良市西大寺町１３５５番地の１２　電話0742－45－0971～3

駒井造園設計事務所

公共庭園・一般庭園の設計管理、また、庭園施工部・材料部も設けておりますので、お気軽に御相談下さい

代表者　駒井隆雄

京都市北区大宮薬師山東町１０番地　電話　京都（075）491－３７８６

中根庭園研究所

所長　中根金作

建設コンサルタント（造園部門）　（建設省認定　第445号）

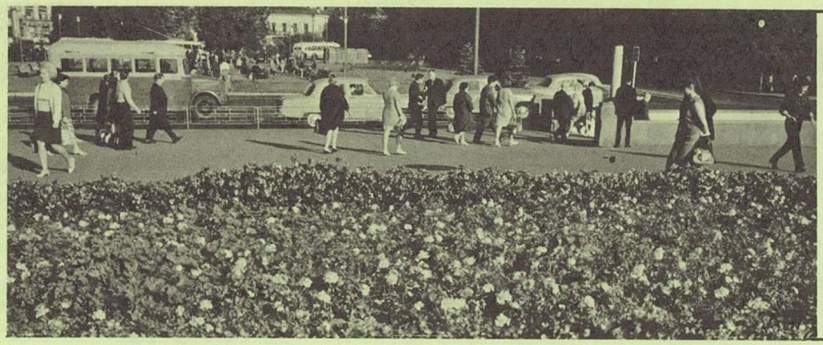
造園設計・施工・監理

京都市左京区下鴨糺の森電停前　生産開発科学研究所内　電話 075（781）1107
自宅　京都市右京区谷口唐田の内町１の６　電話 075（463）5548

株式会社　リオス設計事務所

代表取締役　横谷義一

大阪市南区東平野町１－１２－２(東平ビル内)　ＴＥＬ 761－８０１８



都市生活とみどり

PR

造園・緑化・遊園運動場器具

株式会社 三芳園

取締役社長 森 俊一

本社 箕面市新稲705番 電話 0727(21)3058番
新営業所 大阪市福島区鷺州本通2丁目38番地 電話 大阪(458)4812(代)

花豊造園株式会社

代表取締役 山田米治郎
代表取締役 山田昌次

京都市下京区大宮通五条下る TEL075−341−2246(代)
宇治市木幡南山畑14 TEL0774−31−8236

阪急園芸株式会社

取締役社長 茂原祥三

造園土木設計施工
フェニックス芝刈機製造販売
各種園芸用品の販売

大阪市北区芝田町35番地の4 (〒530)
電話 大阪(06)(372)4817・4824・4829・4926・4934

富士造園土木株式会社

取締役社長 金岡秀輔

宝塚市山本字蚕27−2
電話0797(88)0501(代)

阪神造園建設業協同組合

理事長 木原五市

組合員一同

事務所 大阪市北区高垣町86 福田ビル内 電話大阪(313)0975・4010

戦後の建築運動史

関西における25年の歩み

NAC建築運動史部会

8

Ⅵ 友宜団体との交流

Ⅵ—1 民主団体・科学者運動との交流

綱領をもち，社会性をもった建築運動として，社会とのつながりを重視する立場から，他分野の民主的な文化団体，科学者団体などと交流・連帯をつよめることは，当然であった。これは，さまざまの科学・芸術分野で，それぞれの立場からその民主的発展をめざして活動している組織と手を結んで，そのなかで，つくる側の立場から建築をみるだけでなく，使う人の立場，住む人の立場，国民の立場からも建築をただしくとらえていこうとすることを意味する。また建築家・技術者の社会的責任にもつながるものである。そうした交流・連帯活動は，運動の発展にとってすぐれたプラス面を与えてきたし，技術の分野に他分野のすぐれた経験が導入されてきた。一方，他の運動のなかに解消してしまって，建築領域における運動の独自性・創造性を失ってしまうというマイナス面もあった。

戦後25年間をふりかえってみると，そのプラス面があらわれたときは，運動が高揚し，生き生きとしているが，マイナス面があらわれたときは，運動は停滞するか消滅してしまったりしている。このような歴史的な教訓からみて，技術者運動の独自性・自主性・創造性を貫きながら，友宜団体との提携問題を強めていくことが必要であろう。

結論めいたことが先になったようだが，さて，民主団体，とくに科学者団体と連帯して活動してきた点について，以下ふれておきたい。

およそ，戦後の民主的科学者運動としては，5つの時期に分けられると思う。

第1の時期は，**「民主化」闘争時代**である。「民主々義革命のための科学運動」といわれた時期で，民科（民主々義科学者協会）などの活動がその代表であり，民文連（民主々義文化連盟）に文化諸団体が参加した時期であった。1950年頃までの活動時期。

第2の時期は，**「国民的科学」運動時代**である。アメリカ帝国主義によって朝鮮戦争が強行され，民主化コースを押しつぶす反動化政策と植民地化のなかで，科学者たちは「国民大衆との結合」をめざして活動した。民族解放の運動と不可分に結びついた科学運動で，これを強調するあまり「国民的科学」という表現は一面，科学の自主的創造活動をおろそかにする否定的側面を与え，全国組織としての民科が崩壊するひとつの因をなしたといわれる。しかし，「国民的科学」は，一方大きな成果も残した。卑俗な実用主義や近代主義に対して，国民のなかにはいり，「科学の創造と普及」を旗じるしにして，調査活動などを通じて国民とともに闘うという最初の試みであった。民科の京都支部は独自の専門部会として，全国組織の崩壊後も残って活動をつづけた。また民科とは別の形，たとえば，自治研，教研，社医研，新医協，国土研，ミチューリン運動，農業生物研などの活動に生かされていく時期である。1952年のメーデー事件をはさむ前後数年の時期。

第3の時期は，**科学者の層としての再結集運動の時代**である。これは，科学者たちが専門部会ごとの研究会を中心とする創造活動のわくのなかだけにとじこもりがちな点を反省し，世界科学者連盟の「科学者憲章」にいう「科学者の社会的責任」を果すために，創造活動と社会的実践との関係を結びつける運動であった。「科学者を層として結集し，これを国民の運動と結びつける」という立場である。とくに安保闘争の経験をふまえて，1960年を中心にしてその前後数カ年の時期。

第4の時期は，**「自国に根をおろした科学」の創造普及運動時代**である。後述する「北京科学シンポジウム」の精神にのっとって，ベトナム戦争や新旧植民地支配に反対して，戦争に科学は使わない，真に「自国の人民に役立つ科学」をという立場から，「科学者を層として結集する」組織方針をはるかにこえて，「科学の破壊・腐朽と闘い，われわれの科学をいかに創造するか」をはかった時期である。各科学者団体（研究会も含めて）が一堂に会して，「自国に根をおろした科学」を追求し，科学の内面から創造活動を追求し，各学問分野の総合的発展をはかろうとした。1964年の北京科学シンポジウム運動から数カ年の時期。

第5の時期は，それ以後の**住民運動と科学運動の結合の時代**である。国土問題・公害問題・都市問題に対しておきた住民運動に対する科学者の社会的責任の追求である。第4の時期に結成された全国組織としての日本科学者会議などの活動がその代表的あらわれである。

以上のように，5つの時期を経過しているが，建築家技術者運動も，ときにはこれらの科学者運動と手を結んでその交流のなかから学んできた。

第1の時期に対応するものとして，**民科大阪支部建設技術部会にNAUO**の会員がいたこともあって，民科とは，法隆寺問題をはじめ，つねに連帯してきた。当時の**民主々義文化連盟関西地方協議会**とも連けいしていた。

第2の時期に対応するものとして，水害調査や農村調査に関連して，**民災対**や**民水対**，あるいは**地団研**，気象職員組合，民科の各専門部会（経済，生態学等々）とていけいしてきた。このことは前に記述したところである。全国組織としての民科の機能を失った時期は，全国組織としてのNAU本部の機能を失った時期とほぼ一致していた。しかし，関西の**民科京都支部**が残って最近まで独自活動を続けたことと，**NAUO**や**NAUK**も残って独自活動を続けたことが一致するのは，偶然ではない何かの要素と教訓をもっている。

建研連に結集した各研究サークルの「**総結運動**」は，1955，6年頃行なわれたが，これは，科学運動の第3の時期の「層として結集する運動」にあたるもので，技術者運動の方が科学者運動より先行していたともいえよう。このなかで，建築インターへの代表派遣，東京における総評会館の設計，全港湾労組会館や関西の尼崎市文化会館の設計活動などを通じて，民主団体や労組と連帯してきた。「**大阪府市民の会館建設をすすめる会**」「**関西国民文化会議**」との連帯などもあった。これらも，前章でふれたとおりである。なお，ついでながら，東京の「ポドコ」に刺激されて，「**関西ポドコ**」（女流建築技術者の集い）が，1955年9月に結成され，2年ほどつづいて自然消滅した。女性建築家との交流については，1961年にNACと懇談会をもったことを付記しておきたい。

第4の時期（自国に根をおろした科学の創造普及活動）に対応するものとして，関西での都市化時代を迎えてのNACや**日中建築交流センター**の運動が対応する。これは「**京都科学シンポジウム**」に参加の形であらわされている。

第5の時期に対応するものとして，住民運動と技術者運動が具体的に結びついたものがある。建設公害（地盤沈下，振動等）に対する調査や，アパート騒音に対する調査補償活動などが，東京ではあるが，関西ではまだ少ないし，これからの問題として残されている。「**大阪から公害をなくす会**」が住民組織や科学者団体ら数十団体で結成されつつあるが，これにも協力していきたい段階である。

以上の科学者団体のなかで，とくに「地団研」と「国土研」の活動スタイルは，これからの技術運動にも参考になると思うので，簡単にふれてみよう。「**地学団体研究会**」（**地団研**）は1947年に設立され，一時，

民科の部会となったが，「国民的科学」の総括のなかから再び民科をはなれて，独自の学習活動と実践活動をつづけてきた，日本の科学運動のなかでももっともユニークな位置をしめる団体である。学習の基本的態度として，**「創造・普及・条件づくりの三者を統一した三位一体の方針」**をかかげて活動してきたのであった。

三位一体のひとつである創造活動において，団体研究をさかんにして総合化と近代化を結合して，たとえば「日本列島地学構造発達史」というすぐれた書をつくりあげる役割を果した。普及活動では，学生，生徒，教師，一般市民，労働者，農民とともに地学を正しく普及し，僻地に長く定住して活動するスタイルを生みだした。そうしたなかで創造・普及活動を行なうための諸条件の向上をはかっていったのである。40才以上は役員になれないという不文律があり，つねに40才以下の若々しい人々で運営されているところは特徴的である。

話は重複するが，建研連の「総結運動」はこの地団研の三位一体（創造・普及・条件づくり）スタイルに刺激された点も多いし，関西のNAUO，NAUK，それからNACもいろいろと刺激をうけてきた。地団研著の「科学運動」はすぐれた運動史である。

つぎに，**「国土問題研究所」（国土研）**のやり方にふれる。国土研は1959年につくられたが，日本の国土の各地におこっている自然環境や生活環境の破壊や災害に対して，科学者の社会的責任を果そうということから生まれたものである。この国土研の活動スタイルの特長の第一は，一定の職業をもった専門家が住民に奉仕する精神で運営していること。第二は，科学者も象牙の塔からでて問題の起っている現地へいって科学的に調査すること。第三は，専門のせまい枠を破って，自然科学者も社会科学者も含めて総合的に団体研究することである。この**「住民主義」「現地主義」「総合主義」**が，この国土研の三原則で，これにのっとって，幾多のダム災害，水害問題，大気汚染，公害問題などにとりくみ，委託調査も行なってきたものである。この三原則は，NACが「国土を荒廃から守り，住みよい国土や都市の創造のために力をあわせよう」という立場を貫く上で，学ばねばならぬ点であった。NAC会員の若干は国土研メンバーである。

Ⅵ—2　建築学生会議・建築労組との交流

(1)　建築学生会議の活動

「建築という同じ世界に生きる全国の学生が手をつないで，当面するさまざまな問題や希望をとりあげ，相互に研究討議して，解決の道を見出し，伝統の上に新しい生命を築き上げるため，われわれは日本建築学生会議を結成する」

これは，**日本建築学生会議（JCAS＝Japanese Conference of Architecture Students）**の規約前文である。1954年に設立して以来，全国の建築科の学生が，つぎつぎと後輩に申し送りながら，れんめんとつづけてきたその地道な活動は，いろいろな意味できわめてユニークなものといってよかろう。この間に卒業した建築科の学生なら，たとえ直接参加しなくても，大なり小なりこの学生会議の活動にふれたはずである。また，学生会議は，建築運動と深い関係があった。ここでは友宜団体としての学生会議のいきさつをふりかえっておこう。

学生会議ができる以前，学生はおもにNAUのなかで活動をしていた。しかし，NAUの学生班も，NAUが活動停止してからはシリ切れトンボになってしまっていたが，その後も学生たちのなかには，なにかやりたいという気分がくすぶっていた。1953年のはじめ，全学連をつうじて国際学連から**「学生サナトリウム」の設計コンペ**の企画が伝わった。関東では芸大，武蔵工大，都立大，東大などの学生が集まって討論する機会がもたれ，関西では京大を中心としてとりくまれ，数案の応募がなされたが，学生間の連帯運動が大きく発展するまでにはいたらなかつた。

54年1月になると，やはり国際学連から全学連をつうじて，ローマで開かれる**第2回国際建築学生会議**へ代表派遣の招請状がとどいた。日本の建築学生の代表をおくるからには，まず，建築学生が集まる機関，横のつながりがぜひ必要であった。こうしたことから，これがきっかけとなって学生の連帯は急速に進展しはじめ，2月には**日本建築学生会議関東ブロック準備会**がうごきだした。また，関西では，これとは別個に**関西建築学生会議**がもとNAUK学生会員の努力によって2月12日に正式に結成されていたが，3月には，この両者が**日本建築学生会議全国協議会**をつくるまでにこぎつけた。そして，代表派遣のために，東西の学生が協力して，レポート作成とカンパ活動にあたったのである。絹谷祐規（京大），北野幾造（日大），磯崎新（東大），石村勇二（大阪市大）が代表候補にあがったが，結局，北野幾造を代表としてローマへ送りだすことに成功した。当時のこのレポート「国民的伝統」の問題は建築界でも討論をよんだものである。

日本建築学生会議は，ローマ大会から2カ月経た6月，正式に設立するところとなった。そして設立後その余勢をかって取組まれた**富士山麓農村調査**，56年における**あやめが池住宅展**，**鳥取県農村調査**などの活動をとおして，次第にその基礎をかためていったのである。

富士山麓調査は，55年9月，「関東，関西の建築学生が共同行動をとること」，「大規模，多人数の参加する農村建築調査をすること」を目的として行なわれたが，東西の建築学生約80名が富士山麓に結集したのである。調査は形式的な調査はなにもいわないのと同じだという信念のもとに，建築相談，幻灯会，座談会，うたやおどりなども計画し，じかに村人にとけこみながらすすめた。ともかく，この調査は，東西の学生をむすびつけたと同時に教室では学べなかった多くのものを参加した学生たちに与えたのである。

一方，あやめが池住宅展は，「現実の生活と結びついている住宅問題や住生活についての問題をとりあげ，学生の立場から研究し，一般の人たちとともに考え，何らかの解決の道を見出す」という趣旨のもとに，朝日新聞の後援，建築協会の協力をえて，奈良あやめが池で約2カ月間にわたって開催された。これには，関西から10大学，関東から5大学が参加し，老朽住宅，公営住宅，分譲住宅，アパートなどの問題点，理想の住宅，コミュニティ計画，すまいの歴史など多彩な出品があった。

また，54年12月には，機関誌「**核**」第1号が創刊され，以後毎年発行されることとなった（写真）。そして55年10月には，名工大において**第1回全国大会**が開かれ，規約（資料Ⅵ—1参照）が決定され，正副委員長など役員も選出されて，学生会議は組織としても形をととのえ，次第に新しい段階へと入っていった。

これ以後，学生会議は，毎年開かれる国際建築学生会議への代表派遣あるいはレポート参加，全国コンペの実施，全国キャンプ，戦災都市復興調査，連続シンポジウム，交流大会などの活動を通じてさまざまな紆余曲折をへながら，建築学生のなかに確固たる位置をきづいていったのである。たとえば国際建築学生会議へは，55年第3回パリ大会レポート参加，57年第4回コペンハーゲン大会レポート参加，58年第5回レニングラード大会代表派遣（関西より京大の湯川利和参加），59年第6回ハノーバ大会オブザーバ派遣，61年第7回メキシコ大会代表派遣，63年第8回スペイン大会レポート参加などの運動があった。

日本建築学生会議は1968年現在で，中部ブロック，関西ブロック，九州ブロック，北海道ブロック，東北ブロック，関東ブロックの6ブロックからなり，約50大学の建築科の加入支部を有していた。（資料Ⅵ—2参照）関西ブロックでは，1963年1月に，関西ブロック機関誌**「動線」**創刊号（写真）が発行された。なお61年8月には，NACと学生会議関西ブロックとの懇談会をもっている。

ところが，大学におこった全共闘運動のなかで1968年8月6日，関東ブロック代議員会は，学生会議の存続の理由がないとのことで，日本建築学生会議関東ブロックの解体を行なった。これが各ブロックに波及し，日本建築学生会議は実質的に68年末からなくなっている。最後まで残った関西ブロックも69年に自然消滅した。

最後に，学生会議と建築運動との関係についてふれておきたい。

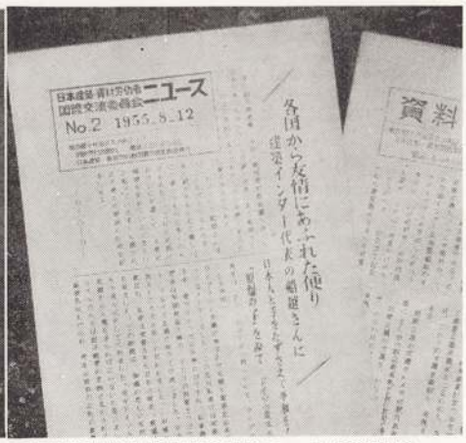
建築学生は，正確にいえば，まだ建築家あるいは建築技術者であると



日本建築学生会議機関誌「核」の表紙



日本建築学生会議関西ブロック機関誌「動線」（63年1月発行）



日本建築資材労働者国際交流委員会ニュース（1955年頃）

はいえない。いわば，それをめざして学ぶ過程にあるものである。しかしながら，その学びつつある建築にたいする認識，期待や疑問などを通じて，あるいは，生活不安や就職問題などを通して，建築界そして社会の状況を敏感に反映するものである。したがって，建築学生の当面する問題について，みんなで手をつないで解決していこうとする学生会議の基盤は，当然のこととして建築運動のめざすところと多くの共通点をもっているのである。

これまでいくたびかふれてきたように，建築運動にとって建築学生の力は大きな推進力のひとつであった。たとえば，NAUでは学生班を組織して活動を行ない，あるいは，農村建築研究会などによって農村調査に入ったりしていた。また，とくに京都支部では，展覧会や農村調査などに積極的に参加し，つねにその中核的な役割をになっていた。

また，日本建築学生会議ができたいきさつについても，こうした建築運動とやはり無縁のものではなかった。たとえば，ローマ大会への代表派遣のレポート作成やカンパ活動のさい，学生たちは建築運動の先輩に大いに援助を求めた。そして期せずして，こうした学生のうごきを援助することを直接のきっかけとして，NAU消滅後のいくつかの小サークルが連絡組織をもつようになったのである。これが，建研連であることは，すでに別項でのべたところである。

学生会議と建築運動のあいだで，これ以後もたがいにいろいろな援助を行なったが，より本質的な関係として，とくに次のことをあげる必要がある。それは，学生会議の活動のなかで，建築の問題をみんなで手をとりあって解決していこうという姿勢を学んだ学生が，実践社会へでたとき，建築運動をつうじて，さらにこうした考えを発展させていくという関係であろう。現に学生会議の推進者の多くが，ひきつづいて建築運動の推進者となっていったのである。学生会議は，「建築のよき学校」であったといってよかろう。

（おことわり：54年の年表中，学生会議の設立が54年3月となっていますが，これは同年6月のあやまりです）

(2) 建築労組との交流

建築技術者運動はけっして政治運動でもなければ，労働運動でもない。けれど，建築技術者の生活と職場の諸条件をよくすることは，技術者が技術を修得し，それを生かしていくため，ひいては技術の発展を保証する条件づくりにもつながるものであるので，労働組合とくに建築関係諸労働組合と，課題によっては行動をともにすることは，意義のあるところである。いわゆる建築産業におけるひとつの統一戦線の一環として必要なことでもある。もちろん，その場合でも，技術者の自主性・独自性は保つことが大切であることはいうまでもない。

それはさておき，関西で建築運動団体が建築労組関係と交流して統一行動をもった運動を展開した大きな波は，二つあった。ひとつは，NAUO時代で，建築インター代表派遣に関連してのカンパニア運動であった。他のひとつは，NAUOがNACに発展してから「関西建設労懇」をもって，建築労組間の統一と実態の交換をはかったことであった。

はじめの波は，1954年～56年頃で，当時，建築産業の労働組合の統一組織をはかる「**全日本建築産業労働組合協議会準備会**」（**建築労協**）が1954年頃につくられ，55年には「**第2回国際 建築木材資材労働者会議（建築インター）**」（1955年3月17日～23日於東ベルリン）に代表派遣を送ろうという運動が展開された。このとき，建研連より「ポドコ」の船越輝子を代表に送ることになり，この派遣カンパニヤがとりくまれた。関西でもこのカンパがとりくまれたが，代表団が帰国後，新日本建築家集団大阪支部（NAUO），同京都支部（NAUK），神戸建築クラブ有志，住宅研究会の連名で，1955年8月15日付で，「**日本建築資材労働者国際交流委員会連絡準備会**」を呼びかけ，統一的に報告講演会をもつ準備活動を行なった。この「日本建築資材労働者国際交流委員会関西準備会」には，全建設省労働組合近畿地方本部，大阪建設労働組合本部，日本建設産業職員組合大阪地区，国鉄労組大阪地方建築協議会，日本セメント労組大阪支部，新日本建築家集団大阪支部らが参加し，9月には報告会をもつことになった。

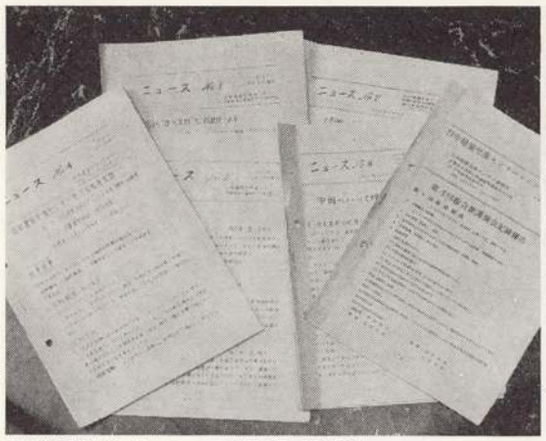
東京では「**建築労協**」というニュースを毎月発行されていたが，3カ年の連絡協議会という準備期間をへて，1956年12月20日「**全日本建築産業労働組合協議会**」（建築労協）が結成大会を開いて正式発足したが，その後の運動経過は資料がないので割愛する。

第2の大きな波は，関西で1961年より63年まで，いわゆる「**関西建設労懇**」が結成され活動した時期である。日住労，日建協，京都建労，兵庫建労，奈良建労，全建労，国鉄労建協，NACが参加し，毎月例会を開いて，当面それぞれの組合の実態や労働者の実態について意見交換しあって当面する課題を統一して解決していこうという運動であった。62年末頃まで十数回にわたって例会を開いた。その間の特筆すべきことは，62年6月2日と3日にわたって，兵庫県川西市の北摂山荘において「**建設労働研究集会**」をもったことである。当日の参加者は，日住労，全建労，日建協，全建総連の一翼である兵庫建労や京都建労，新建（NAC）らの代表30名が集まり，テーマを①労働時間（全日休制を含む），②合理化（請負制度を含む），③賃金の三つにしぼって討論した。助言者には，徳永勇雄（明大），向笠良一（大阪市大）にきてもらった。新建（NAC）よりは「中小建築設計事務所の実態と問題点」を報告した。また，1962年頃来日した中国建築工会代表の張委員長を大阪，鶴舞団地，奈良などに案内したりした。

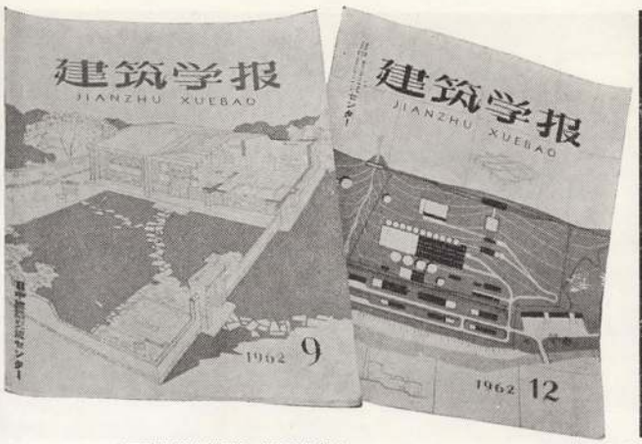
この「関西建設労懇」の活動のなかで，NACとして建築労組との連帯，交流を深めたが，1963年以後は，また独自活動にかえった。

東京でも「**建設労懇**」（**建築関係労働組合懇談会**）をもって建設産業労組の統一化の動きがあった。参加組合は，建設労懇ニュース（1962年4月20日）によれば，日本労働組合総評議会（総評），全建設省労組（全建労），全日本自由労組（全日自労），全港湾建設労組（全港建），国鉄労組建築協議会（国労建），全国建設労働組合総連合（全建総連），全日本建設産業職員労働協議会（日建協），日本住宅公団労組（日住労），全北海道開発局職員労組らであった。

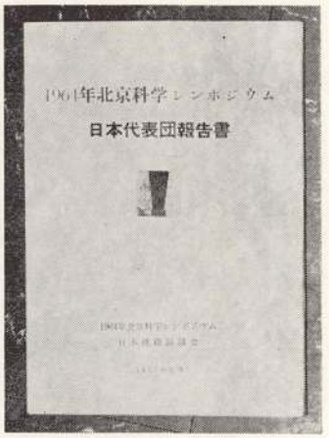
なお，NACはこの時期，1962年6月19日，20日，21日の三日間にわたって，全日本建築士会の招待で来日したソ連の建築家2名を関西に案



日中建築交流センターニュース（1963年～1965年）



中国建築学会機関誌「建築学報」



1964年北京科学シンポジウム日本代表団報告書（1965年）

内し，懇談会をもって，社会主義国との建築交流を深めたことは，印象に深いところである。すなわち，当時，モスクワ建築大学教授・ソ連建築アカデミイ会員である**ビリンキン**氏と，ソ連文化省設計研究所理事・ソ連建築家同盟モスクワ支部副会長の**ホムトフ**氏の二人を迎えて，中村登一，上林博雄，松井昭光，早川和男，上村一らが大阪，奈良，京都と案内し，また，ＮＡＣ会員と懇談会をもって社会主義ソ連の建築事情について質疑応答した（参加者45名）。最後にお互いに歌いだしたカチューシャの歌の合唱で送りだしたというなごやかさはいまも忘れることはできないものがある。

Ⅵ－3　日中建築交流センターと北京科学シンポジウム

(1)　日中建築交流センターの動き

中華人民共和国(以下，中国と略称)が1949年に生れて以来，わが国と中国との正式の国交回復が今日に至るも樹立されていない。けれども，隣国中国との友好交流をのぞむ多くの人々によって，日中友好協会などの民主団体がつくられ，経済交流，文化交流などがすすめられてきたことは周知のところである。しかしながら，建築分野では，個人的交流や労組の交流はあっても，組織的に建築家や研究者の交流がなかった。たまたま，西山夘三教授が1960年に中国建築学会の招待で訪中されたので，ＮＡＣ（新建築家集団）設立総会（第１回）の方針の具体化によって，「**西山夘三中国帰朝報告会**」が1960年12月に開催されて以来，ＮＡＣが中心となって「**日中建築交流センター**」の設立準備に非常な努力が払われた。とくに1961年６月以降，たびたび設立準備会をもち，最後に発起人（荒木正利，飯田精次郎，石原正雄，上林博雄，西山夘三）の名で「日中建築交流センター設立にあたって―建築技術者によびかける―」（1961年10月15日）を各方面へ発送して，1961年11月10日，設立総会がもたれて発足されたものである。会員は約60～70名ぐらいであった。

「日中建築交流センター」はその規約（資料Ⅵ－3）にあるごとく「中華人民共和国の建築事情を明らかにし，日中両国の建築技術の提携と交流をはかり，両国建築家の相互理解と友好を深め，世界平和に貢献すること」を目的としている。この目的にしたがって，主として，中国建築学会と，①文献・雑誌の交換，②中国建築事情の紹介，③両国建築家の交流などを行なってきた。

具体的に「**文献・雑誌の交換**」では，中国建築学会より，毎月その機関誌「**建築学報**」（写真）50冊と「**土木工程学報**」20冊の寄贈をうけ，日中建築交流センターより，日本で発行されている「建築雑誌」「新建築」誌など代表的建築雑誌を毎月贈ったり，あるいは，資料・論文を贈ったりする活動をつづけた。中国からの手紙によれば，センターを通じて送った，住宅計画についてのある博士論文などは，弁証法的にとらえられていて，中国各地の学会で好評だということだった。

第２番目に，「**中国建築事情の紹介**」では，講演会や例会を通じて，また「**日中建築交流センターニュース**」（写真）を通じて会員に知らせた。講演テーマやほんやく題名などを追ってみると「新中国における建築芸術論」（1961年），「建築理論について」「計画原論（設備）について」「住宅計画について」（以上，1963年第２回総会），「最近の中国のホール建築」（1963年），「建築学報による中国の建築の推移」（1963年），「内蒙古建築の概要」「北京市1963年度都市住宅設計コンクール作品の批評と紹介」（1963年），「中国の工場建築」（1965年）などある。

1964年より，後述のとおり「**北京科学シンポジウム**」代表派遣と論文作成にとりかかり，それにともなって訪中した代表（松井昭光）から，中国の建築事情をきき（1964年），あるいは北京科学シンポジウムに参加した他分野の代表（歴史学者，政治学者）からそれぞれの立場からの中国の事情を知ることができた（第４回総会1965年）。

さらに，1965年に訪中学術代表団に参加した石原正雄から，「中国の建築と大学」（1966年）をきき，またその後学術代表団として，文化大革命のまっただ中で訪中した向井正也から「最近の中国の建築界」（1966年・第５回総会）について話をきいた。

第３番目の「**両国建築家の交流**」については，日本からは，上記建築研究者たちが訪中し，交流を深めてきたが，中国側からは，1964年の大阪の中国経済貿易展のため来日された中国建築学会の顧啓泓技師を囲んで懇親会をもったり，大阪の建設現場やニュータウンを案内したりしたことと，中国物理儀器関係代者団が来阪したとき懇談会(1965年)をもったぐらいなものだった。1964年に中国建築学会と交流の話をつけてきて，これから拡大という1965年～66年の時点で，交流はとだえてしまった。直接的には，中国に文化大革命の嵐がおきたこともあって「建築学報」も「土木工程学報」も1965年１月号より発行中止となったという連絡が届いた。

1966年には年賀状が届いたきりになってしまった。その後，1966年７月に，具体的に両国建築家の交流の打診を行なったが，返事もなかった。1966年11月の第５回総会をへて，若干の活動もみられたが，それ以後，センターとしては理事会（最後1968年１月）は数回もったが，開店休業のまま，こんにち（1970年）に至っている。

しかしながら，本来なら，日本建築学会なり，日本建築協会なりが，中国建築学会と交流をすすめてしかるべきであろうが，国交回復のいまだない時点でそれもできぬという事情がある間は，運動として，ＮＡＣとともに「日中建築交流センター」が率先して，1961年はじめから1968年はじめまで，実質的に，両国建築交流の窓口として，日中建築友好のため果してきた役割は評価されてしかるべきであろう。まいてきた種は小さいが，いずれは実ることであろう。

(2)　北京科学シンポジウムの運動

1964年８月に「**北京科学シンポジウム**」が北京で開かれた。アジア，アフリカ，ラテンアメリカ，オセアニアの四大州の科学者が団結協力して「帝国主義と新旧植民地主義に反対し，民族独立をかちとり，これを守り，真に自国に根をおろした科学を創造」し「自国の人民に役立つ科学」をつくりだしていこうというのがその精神であった。四大州の44カ国の科学者367名が一堂に会しての歴史的な科学大討論会であった。

日本から各分野の民主的科学団体の代表61名（団長：坂田昌一）が参加したが，建築分野から２名が参加した（うち１名は東京から全日本建

築士会のすいせんで徳永勇雄)。

日中建築交流センターとしても，このシンポジウムの精神を支持してこれに参加論文を送り，代表派遣することは日中両国の建築交流をすすめ，世界平和に貢献するという目的にかなった運動であることから，建築各団体へこのことを訴えた。

そして，いくたの準備会が重ねられ，討論された結果，数人の参加希望者があったが，代表には松井昭光が選ばれ，提出論文は「日本における建築産業とその矛盾」となった。ほかに，論文参加として，「工場建築の換気計画」（石原正雄），「日本の小住宅の型計画」（西山夘三）があった。

センターとしては，ＮＡＣの全面的協力のもとに，派遣のためのカンパ活動などに精力的にとりくみ，また論文の討論会を開いたりした。京都実行委員会に加盟して，他の科学者団体と平等，相互尊重の原則のもとに，交流を深めながら，一緒に派遣活動や学習会や討論会を開いたりして，総合的な科学者運動としての一端をになっていった。

代表が帰国後，建築界では「**北京科学シンポジウムと中国の建築事情**」というテーマで，小集会もふくめて，14回も報告会をもった。シンポジウムの成果と意義のほかに，中国の自力更生の方針，中国建築政策の７つの方針，「比,学,趕,帮」（すすんだものを探究し,学び,追いぬき，おくれたものを助ける）という技術革新運動などについても報告された。

また，北京科学シンポジウムの精神にのっとって，各分野の民主的科学者団体による総合的シンポジウムである「**京都科学シンポジウム**」が計画され，「**科学の破壊・腐朽と闘い，われわれの科学をいかに創造するか**」の統一テーマのもとに，1965年度，1966年度，1967年度，1968年度の４回にわたって開催された。法律，哲学，政治，歴史，経済，教育，物理，生物，地学，薬学，考古学，国土研等々の分野の科学者と一緒になっての討論で，それぞれの交流をはかり，腐朽した科学に対して新しい総合的学問の創造を考えるという点で，みのり多いシンポジウムであった。日中建築交流センターでは「文化財保存と地域計画―奈良計画―」（1965年），「生活空間にみる国土破壊―とくにレクリエーション資源について―」（1966年），「都市化による災厄の予測―京都市の交通問題」（1967年），「地域計画と住民参加」（1968年）を報告した。大阪でも同様の「**大阪科学シンポジウム**」が開かれた。

この北京科学シンポジウムは，1968年にも北京で開かれる予定であったが，おそらく中国文化大革命の激化のせいもあって，結局開かれなかった。日本国内でも学者の間で分裂さわぎを起す事態もあったが，全体として，その精神は，日本の科学者運動にいかされていったのである。前述の京都をはじめ，大阪，札幌，仙台，東京その他の各地域における総合的科学シンポジウムがもたれたのも，そのあらわれであるし，また，かつての民主々義科学者協会（民科）にかわる全国組織としての「**日本科学者会議**」（1966年12月設立）として実る大きなきっかけを与えたことは，強調してもしすぎることはないであろう。

資料　Ⅵ―１

日本建築学生会議規約

前文　建築という同じ世界に生きる全国の学生が手をつないで，当面するさまざまな問題や希望をとりあげ，相互に研究討議して，解決の道を見出し，伝統の上に新しい生命を築き上げるため，我々は日本建築学生会議を結成する。

第一章　総　則

第１条　本会は日本建築学生会議と称す。

第２条　本会は，会員があらゆる活動に参加し，自由な立場で研究討議を重ねる事によって，社会の発展に寄与する事を目的とする。

第二章　組　織

第一節　会　員

第３条　本会は，次の会員より成る。

1. 正会員　学科の名称にかかわらず建築学を専攻する学部学生を主体とし，特に全国代議員会において承認された学生
2. 準会員　名称にかかわらず建築学を専攻する工業高校生
3. 賛助会員　本会の趣旨に賛成する個人又は団体

第４条　本会の運営は，正会員が行う。

第５条　正会員としての加入は全員加入を原則として学科単位とし，全国代議員にて承認決定される。但し，準会員，賛助会員の加入は細則で定める。

第６条　会員は定められた会費を納めなければならない。

第７条　会員は機関紙，ニュースの配布を受け，本会及び該当ブロックの企画する事業全てに参加し，全ての会議で発言できる。

第二節　ブロックと支部

第８条　本会の運営を円満にする為に，学科単位を支部とし，これらの地域統合によりブロックを構成する。

第９条　各ブロックは本規約に基づいた独自の細則を持ち，活動する。

第10条　各ブロックは，ブロック代議員会を持ち，ブロック委員長，ブロック委員長会議に出席せねばならない。

第三節　全国執行部

第11条　全国執行部は，正副委員長，事務局長，財務局長，情宣局長で構成される。

第12条　各役員は各一名として，全国代議員会において，正会員より選出される。その任期は原則として一年とする。

第13条　全国委員長は，本会の最高責任をとる。

第14条　全国役員は，全国代議員において，又は各支部の連名で，全国支部数の三分の二以上をもってリコールされる。

第15条　全国執行部は本会の運営を円滑に行なうために，各種実行委員会を置き，又支部間，支部と執行部との連絡の為に機関紙又はニュースを発行する。

第四節　全国代議員会

第16条　全国代議員会は，本会の最高決議機関である。

第17条　全国代議員は定例と臨時の会合を行なう。定例全国代議員会は，毎年一回催し，臨時全国代議員会は委員長が必要と認めた時，又全国支部の五分の一以上の要求があった時に開催される。

第18条　全国代議員会における正代議員は，各支部二名とし，各支部一票の議決権をもつ。

第19条　定例全国代議員に於ては，全国総括，経過報告，決算報告，会計監査報告，各ブロック活動報告，役員選出，年間基本方針，企画及び予算の決定が行なわれなければならない。

第20条　全国代議員会の正副議長は，開催の都度出席会員の中から互選する。

第21条　全国代議員会は，全国支部数の三分の二以上の出席をもって成立する。但し，委任状は，出席支部数の五分の一をこえてはならない。

第22条　全国代議員会における委任状は，議決権をもたず，議長団に白紙委任される。

第23条　全国代議員会の議決は，出席支部の過半数をもって決する。可否同数の場合は議長が決裁する。

第24条　全国代議員会は，本会の最高決議機関である。但し，閉会中は，第25条に従いブロック委員長会議がこれを代行する。

第五節　ブロック委員長会議

第25条　本会議が全国代議員会を代行する時は，次の項に従う。

1. 決議は，全会一致をもって成される。
2. ブロック委員長会議は，全ブロック委員長の過半数をもって仮決議がなされるが，仮決議事項は全支部数の過半数の承認を得れば，全国代議員会の決議と同等に扱われる。

第26条　本会議は，全国執行部と各ブロック委員長により構成され，全国委員長がこれを召集する。

第27条　本会議は原則として，年２回以上開かれ，第１回は，全国代議員会期間中とする。

第28条　第１回ブロック委員長会議は，新年度企画，予算案を決定し，全国代議員会の承認を得なければならない。

第29条　ブロック委員長会議の議決権は，ブロック一票とする。

第三章　会　計

第一節　会　計

第30条　本会の会計は，各ブロック毎に行なうと同時に，各ブロックは，全国的な事業のために全国分担金をおさめ，全国財務局長がこれを管理する。

第31条　全国財務局長は，前年度決算を定例全国代議員会に報告する。

第二節　会計監査

第32条　全国会計監査は，２名とし，全国代議員会において，正会員より選出される。

第33条　定例全国代議員会において，全国会計監査報告をしなければならない。

第34条　全国会計監査は年2回以上行なわれなければならない。

第四章　規約改正

第35条　本規約は，全国代議員会において，出席支部の三分の二以上の賛成を得て改正する事ができる。

（43.5.25「核」14号より）

資料　Ⅵ―２

日本建築学生会議加入支部

中部ブロック

中部工業大学建築科，名城大学第一理工学部建築学科，名古屋工業大学建築科，名古屋大学工学部建築学科

関西ブロック

福井大学工学部建築科，京都工芸繊維大学工芸学部建築工芸学科，京都大学工学部建築学科，奈良女子大学家政学部住居学科，大阪大学工学部建築工学科，大阪市立大学工学部建築学科，大阪市立大学家政学部住居学科，大阪工業大学建築学科，神戸大学工学部建築学科，広島大学工学部建築学科，近畿大学工学部建築学科（呉）

九州ブロック

九州大学工学部建築学科，熊本大学工学部建築学科，鹿児島大学工学部建築学科，九州産業大学工学部建築学科，福岡大学建築学科

北海道ブロック

北海道大学工学部建築学科

東北ブロック

東北大学工学部建築学科，日本大学第二理工学部建築学科

関東ブロック

千葉大学工学部建築学科，芝浦工業大学建築科，東京大学工学部建築学科，工学院大学建築学科，東京工業大学建築科，東京芸術大学美術学部建築科，東京都立大学工学部建築学科，東海大学建築工学科，日本大学理工学部建築科（Ⅰ部），日本大学理工学部建築科（Ⅱ部），日本大学理工学部建築科（津田沼），法政大学工学部建築工学科，武蔵工業大学建築工学科，明治大学工学部建築科，早稲田大学理工学部建築学科，日本女子大学家政学部住居学科，横浜国立大学工学部建築学科，関東学院大学工学部建築学科，千葉工業大学建築科，東京理科大学建築科，東洋大学工学部建築学科，前橋工業短期大学建築科，国士館大学工学部建築科

資料　Ⅵ―３

日中建築交流センター会則　（1961.11.10）

第１章　総　則

第１条　本会は，日中建築交流センターと称する。

第２条　本会は，事務所を大阪市内におく。理事会の議決を経て，必要ある地に支部をおくことができる。

第２章　目的および事業

第３条　本会は中華人民共和国の建築事情を明らかにし，日中両国の建築技術の提携と交流をはかり，両国建築家の相互理解と友好を深め，世界平和に貢献することを目的とする。

第４条　本会は，前条の目的を達成するために下記の事業を行なう。

1. 日中両国の建築に関する文献の交換
2. 中国建築事情の調査研究と，その紹介，宣伝
3. 日本の建築事情の中国への紹介，宣伝
4. 日中両国建築関係者の交流
5. その他必要な事業

第３章　会員および会費

第５条　本会の目的に賛同し，所定の会費を払込むものを会員とし，会員を正会員と賛助会員の２種に分ける。

第６条　本会の事業は下記の会費及び寄付金によりまかなう。

1. 正会員　　年　300 円
2. 賛助会員　　年　3000 円以上

第４章　役　員

第７条　本会に下記の役員をおく。

理事長　　１名
理　事　若干名
監　事　　２名

第８条　役員の任期は２年とする。但し重任をさまたげない。

第９条　理事長は本会を代表し，会務を統轄する。理事は理事長を補佐して事業の執行に当る。監事は本会の会計および業務を監査する。

第10条　本会の役員は総会において，会員中より選任する。

第５章　会　議

第11条　理事会は理事長が招集し，重要なる会務を議決する。理事会の議長は理事長がこれに当る。

第12条　総会は本会運営の最高議決機関である。通常総会は毎年１回，理事長が招集する。臨時総会は，理事長が必要と認めたとき，または会員総数の½以上の要求があったとき，これを招集する。

第13条　総会の議決は出席会員の過半数によりこれを決する。

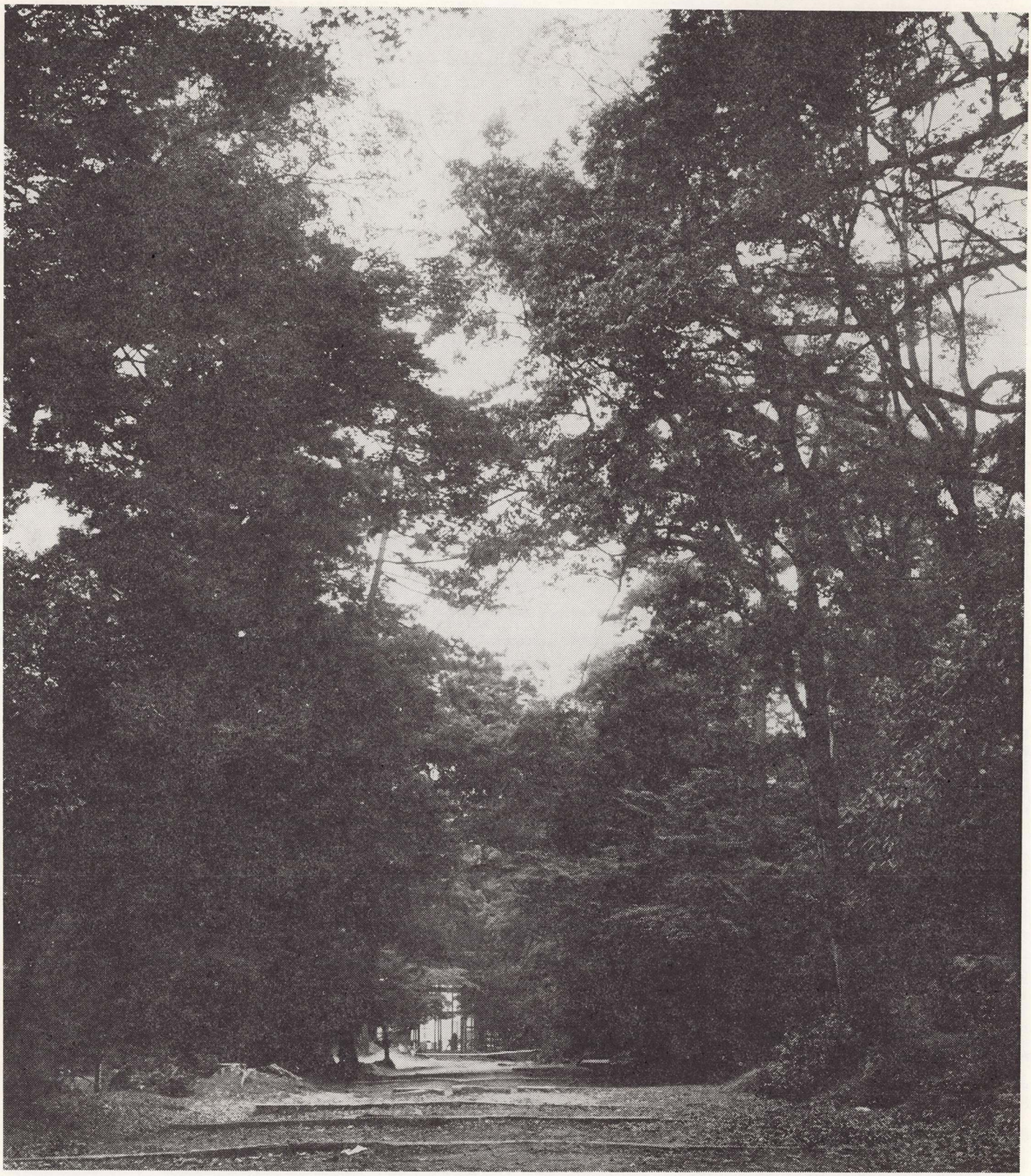
第６章　附　則

第14条　本会の事業年度および会計年度は毎年10月１日に始まり，翌年９月30日に終る。

第15条　本会の会則の変更は総会の決議による。

以上

（注）その後第３回総会で，会費を500円，5,000円と改正し，事業年度を毎年４月１日に始まり，翌年３月31日と改正した。



都市にみどりを

みなさまのお役に立つ
三和銀行

日本建築協会 月間の動き

□昭和46年2月分□

通常総会

25日　4時～4時半　於会館集会室
出席者　塚本副会長ほか14名
議事(1)名誉会長推挙の件
(2)監事1名選挙の件
(3)本部所属評議員69名選挙の件
(4)補選本部所属評議員2名選挙の件
(5)役員重任承認の件

評議員懇談会(技術部門)

5日　5時半～7時半　於会館集会室
出席者　山本茂評議員ほか6名
2月開催の総会における技術部門選出評議員候補者推せんについて協議

理事会

25日　3時～4時　於会館集会室
出席者　東畑，塚本正副会長ほか13理事 五十嵐監事，山根建築業務基準委員会委員
議事(1)建築業務基準委員会経過報告
(2)定時評議員会開催の件
(3)本会創立54周年記念日の祝賀会開催の件
(4)役員委員慰労懇親会開催の件
(5)大阪府知事表彰候補者推せんの件
(6)事業委員会組織改組の件
(7)建材委員会新事業企画の件
(8)名誉会長推挙の件
(9)入退会者承認の件
(10)事業報告

事業委員会

懇親会小委員会
2日　6時～7時半　於会館集会室
出席者　大橋副委員長，柏岡幹事ほか2名
議事(1)次年度事業委員会の事業方針について
(2)懇親会小委員会の運営について
(3)事業委員の任期と構成について
(4)そのほか

展示会小委員会
4日　6時～7時半　於会館集会室
出席者　内野，小泉委員
議事(1)第8回展示写真についての報告
(2)第9回以降の展示写真の企画について
(3)明年度の事業委員会の方針について
(4)そのほか

見学会小委員会
4日　6時～7時半　於会館3階会議室
出席者　山野副委員長ほか3名
議事(1)1月に実施した見学会の報告
(2)2月～4月の見学会の企画について
(3)明年度5月以降の見学会案について
(4)明年度事業委員会の方針について
(5)そのほか

若い会員の集い小委員会
5日　6時～8時半　於会館3階会議室
出席者　上田副委員長，佐藤幹事ほか2名
議事(1)次年度事業委員会の事業方針について
(2)次年度よりの小委員会の運営について
(3)そのほか

委員会
12日　6時～8時半　於会館集会室
出席者　北垣委員長，近藤・三品副委員長，三宅幹事ほか6名
議事(1)各小委員会の事業報告
(2)本年度2月以降の事業企画について
(3)明年度4月以降の事業企画について
(4)事業委員会の今後の方針について
(5)そのほか

出版委員会

建築基礎工法と実例幹事会
3日　5時半～7時半　於会館集会室
出席者　山肩委員長，多々見，山口幹事
議事　出版工程全般について検討

編集委員会

6月号「解体工学」編集幹事会
5日　3時～5時半　於会館集会室
出席者　和泉，長浜，江口各特別幹事，片口委員
議事　6月号「解体工学」特集企画（テーマと執筆者の選定）

委員会
8日　4時～6時　於会館集会室
出席者　鳥田委員長，福田，北垣理事ほか12名
議事(1)3月号＝建築基準法特集経過報告
(2)4月号＝都市生活とみどり特集経過報告
(3)5月号＝企画と設計のプロセス特集経過報告
(4)6月号＝解体工学特集企画（幹事会案報告）
(5)7月号以降の企画
(6)次年度編集委員交代の件

作品作風小委員会
16日　6時～9時　於会館1階編集室
出席者　近藤主査ほか6名
議事　4月号作品選定基準について

作品作風小委員会
25日　6時半～9時　於会館集会室
出席者　近藤主査ほか5名
議事　4月号作品選定(設計とみどり)と割付け

住宅委員会

住宅展小委員会
9日　5時半～8時　於会館集会室
出席者　湯浅，金井両委員
議事　第8回「よろず相談住宅展」の会場計画

委員会
16日　6時～7時半　於会館集会室
出席者　上田主査ほか9名
議事(1)第8回「よろず相談住宅展」の件
(2)そのほか

住宅資料小委員会
24日　5時半～7時半　於会館集会室
出席者　佐孝主査ほか3名
議事　住宅資料の作成について

法規委員会

3会合同委員会
18日　2時半～5時　於会館集会室
出席者　講師・信濃小路正ほか3名 福田委員長ほか17名
議事(1)大阪府建築基準法施行条例改正説明と質疑応答
(2)2級建築士試験制度改正について

建材委員会

委員会
26日　3時～5時　於会館集会室
出席者　山田幸一委員ほか13名
議事(1)新規の事業企画について
(2)輸入木材，集成材，合成木材について
(3)新年度委員と開催時刻について

見学会

ニチモ甲子園第6コーポラス新築工事の見学会
5日　3時～5時
設計・監理　ニチモプレハブ株式会社
施工　鉄建建設株式会社
参加者　25名



ナショナルの住宅設備機器工場とショウルームの見学会
19日　1時40分～4時半
参加者　38名

清酒白雪の新社屋と四季醸造工場の見学会
26日　1時20分～5時半
設計・施工　株式会社　竹中工務店
参加者　49名

3会事業委員長打合会

25日　正午～2時　於大阪府建築士会
出席者　矢野士会，山田学会事業委員長ほか6名
議事　3月以降の共催事業その他について打合せ

建築業務基準委員会

事務局連絡会議

17日　5時半～8時

於日本建築士会連合会

出席者　12名

（本会より福中事務局長出席）

議事　建築業務基準委員会規程（案）の検討ならびにその他について協議

委員会

23日　1時半～5時　於日本建築学会

本会より山根，福田委員，福中事務局長出席

2月の入会者（敬称略）

〔団体会員　1社〕

近鉄住宅建材㈱

〔個人会員　25名〕

井筒敏昭	佐藤和治	馬場弘治
乾　禎治	杉浦政昭	藤井哲明
岩佐潤信	田中正夫	松岡　登
上門林蔵	高木孝史	山下聰清
浦川昌一	谷村隆雄	山谷正衛
大森敏明	津村正美	山本哲郎
上村義晴	富澤徳市	吉原伸彦
楠本恵治	中村昭二	
黒田芳信	中山富久	

〔准会員　3名〕（氏名省略）

「サンワみどり基金」が発足

—国土緑化に協力—

三和銀行（上枝一雄頭取）が国土の緑化運動を進めるためにつくった「財団法人サンワみどり基金」の設立総会が十日午前11時から東京・大手町のパレスホテルで開かれ，池島信平文芸春秋社長，山田精一前公取委員長，梅島貞毎日新聞社社長ら役員が出席した。

「サンワみどり基金」は生活環境を守ることを目的として，まず第1に周囲の緑化を推進するのをはじめ，公害防止技術開発への助成，地方公共団体への公害測定器の貸与，寄贈，公害問題のコンサルティング活動などを行なう。

基金は当面，三和銀行が1億2千万円を寄付，ほかに同行行員の寄付536万円余を加えてスタートするが，有力都市銀行がこのような形で環境改善運動に乗出すのははじめてで，注目される。

この日の設立総会では46年度の事業計画を決めたが，同年度は1,800万円の予算で東京，大阪の学校，公園などに合計3万本の木を植えることになっている。内訳は学校に800万円，公園に1千万円で，5—6月，10—11月の2回にわけて植樹する予定である。

なお，同基金事務局長には西本千代雄氏（元三和銀行深川支店長）が就任する。

（毎日新聞46.3.11日より）



自然を生かした北摂ニュータウンへ

林や池をそのまま残す

兵庫県が初の保存方式

兵庫県は46年度から着工する北摂ニュータウンに，自然保存建設方式を採用，北摂の自然の中に12万8千人の"新都市"誕生を目ざすことにした。ブルドーザーで山を削り，自然を破壊した従来のニュータウン建設方式からの大転換で，自然林やありのままの地表土をそのまま残していく方式。もちろん日本では初めての実験で，完成すれば，町の中に自然林や池が残り，野鳥とコン虫の住む文字どおりの田園都市になるという。

自然の地表土や丘陵をそのまま残したニュータウンは，イギリスのロンドン郊外に見られるが，わが国では，造成費の関係から野山を一律に削り，ニュータウンを建設するという機能主義が幅をきかせてきた。千里ニュータウン，明舞団地にしてもそうで，ただ一部で，明舞の松が丘公園のような形で草木を残し，緑化策としていただけだった。

このため，公害問題とからんで自然保護が叫ばれている現在，県が建設するニュータウンでは，自然を最大限に残し"公害とコンクリートの都市"にしない努力が必要と考え，当初予定した機能主義から転換を決めたわけ。

新方式は，設計の段階で自然を残す部分を決め，ブルドーザーはもちろん，道路もみなこの自然部分をさける形になる。去年6月に作ったマスタープランをそう大きく変更しないが，この方式の採用で道路のカーブは多くなり，ニュータウン内の高低もかなりできるようになる。問題の工事費は，土砂の運搬などで一部が割り高になるが，建て物建設部分をブルドーザーにかけないところから，差はないとみられている。

自然部分として残す範囲は，いま東京の宅地開発研究所，大庭土木建築事務所の両コンサルタントに線引きを委嘱中で，今月末にできる予定だが，県北摂開発局の計算では住宅市街地の総面積1千101ヘクタールのうち3割近くは残したいと考えている。

また自然部分も小規模なものでは，排気ガスなどで痛められる恐れがあるので，スケールの大きいものにするという。入り口付近で20ヘクタールの自然林を作るほか，12ヘクタールが1，10ヘクタールが2と計4つの大きな自然林を作り，池も44個をそのままニュータウン内に残す考え。

この結果，ニュータウン内は三田盆地特有のアカマツ，ツクバネガシ，ヤマザクラ，ヤマハギが茂り，野鳥が飛び，コン虫が住む理想的な"森と湖のニュータウン"になるという。

なお同開発局はコンサルタントの調査結果に基づき4月から入札のための部分的な実施設計を始め，防災工事は新年度から着工するスケジュールを組んでいる。

（神戸新聞46.3.10日より）

信用ある技術と伝統の

アスファルト工事 専業大店

株式会社 久保商店

大阪市北区真砂町5番地　電話　大阪364代表　0206～9

室谷

内装資材専門店

室谷商事株式会社

本社　神戸市生田区北長狭通4－1　（英和ビル）
直通電話　神戸（33）0881～3
支店　大阪市北区絹笠町50（堂ビル5階　502号室）
直通電話　大阪（364）2031～4
倉庫　神戸市葺合区八幡通1－5　（電話㉒2923）

OKUYAMA KAKOGYO WATER-PROOF OAM

陸屋根防水には 奥山式 特許 絶縁工法 を

カッパー防水帯

コーパータイト

新工法！
プレノテクト吹付工法

8対2の防水（冷工法）　デラタイト

特許　奥山式熱工法・冷工法綜合防水層

奥山化工業株式會社

本　社	東京都中央区銀座8－4－11	電話(571)2703～4・2370・4064・0264
大阪出張所	大阪市都島区都島中通り2-3-1	電話(921)2497・(922)7280
名古屋出張所	名古屋市南区若草町33	電話(811)3660・3104
札幌出張所	札幌市北三条東四丁目	電話(231)7　5　1　1

特許　岩元式ベンチレーター
（電動式並固定型各種）

岩元式ベンチレーター　A型・B型・固定型
岩元式連塔換気装置（コンチニヤス・ベンチレーター）
新型　換気塔 NSライン　（強制換気扇付）
新型　換気塔 SFスーパー　（特殊装置による風量増幅 換気扇の能力を倍増する）
最新型　採光排気塔（風光）スーパーライン特殊増幅装置付
スカイライト工事・通風ルーパー
スチール及アルミサッシュドアー・各種シャッター製作施工
其の他　曲加工一式

（カタログ進呈）



岩元工業株式会社

大阪市東成区大今里2丁目5番22号
電話（981）0615～0618

空気調和・冷暖房設備
給排水・衛生設備　設計・施工

株式会社 朝日工業社

本　社　東京都港区芝浜松町2－7　電話(434)6171(大代)
大阪支社　大阪市東淀川区加島町375　電話(302)2271(代)
支　店　北海道・仙台・名古屋・広島・福岡
営業所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

冷暖房　各種サッシ
給排水、衛生水道　環境衛生施設
電気　荷役運搬機械
厨房　化学鉱山機械

三機工業 株式会社 大阪支店

取締役社長　大前玉男
取締役支店長　樋口勝栄
大阪市東区北浜2丁目22番地　電話 大阪 (202) 代表3071
本　店　東京・日比谷・三信ビル
支　店　名古屋、福岡、札幌、広島、仙台、富山
出張所　横浜、金沢、静岡、高松

電気・空調・給排水・衛生設備・設計施工

大阪電気暖房株式会社

取締役社長　菅谷知巳
本　店　大阪市西区江戸堀1－60　電話 (441) 8231大代
支　店　東京・名古屋・福岡
営業所　札幌・仙台・金沢・神戸・広島
出張所　京都・岡山・高松・熊本・横浜
新潟・富山・福井・豊田

空気調和設備
衛生設備　設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市都島区都島本通4－10－30　電話 (922)6251(代)
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2－22　電話 (667)3431(大代)
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

給排水・衛生
暖冷房・換気　設計施工

株式会社 大阪城口研究所

取締役社長　城口庸平
大阪市北区高垣町一・電話 大阪372局7151(代)
京都市東山区大和大路正面上ル 電話 京都561局4945(代)
神戸市生田区下山手通六ノ一・電話神戸34局 5892

空気調和・衛生設備
設計施工

株式会社 三晃空調

本　社　大阪市北区富田町16番地　電話(363)大代表1371
支　店　東京都千代田区神田小川町2丁目1番地　電話(292) 代表7751
広島市紙屋町1丁目2番22号　電話(47) 代表4535
福岡市大名1丁目8番12号　電話(76) 代表3795
出張所　名古屋・富山・神戸・福井・京都・松江

営業種目 ●空気調和設備 ●給排水衛生設備 ●塗装設備
●蒸気噴射式冷凍機／設計・製作・施工

空気調和のケンザイ 株式会社 建材社

本社・東京支店＝東京都中央区銀座6－6－7　㊫(572)7411代
大阪支店＝大阪市北区中之島2－22　㊫(203)3721代
名古屋支店＝名古屋市中区錦2－2－13　㊫(211)1535代
出張所＝札幌・仙台・豊田・金沢・神戸
広島・松山・福岡・バンコック

須賀工業株式会社

空気調和 衛生設備

大阪市西区土佐堀通1丁目14　電話 441－5171
支店－東京・大阪・名古屋・京都・神戸・福岡
営業所－広島　出張所－北九州

水道・衛生・暖冷房・其他管工事
設計並施工
(旧斎藤久孝事務所)

斎久工業株式会社大阪支店

大阪市北区常安町11番地
電話 大阪 (443) 5041～5番
東京本社　東京都千代田区大手町2の8番地(日本ビル)
電話 東京 (270) 7411番(代表)
札幌営業所　札幌市南大通西4丁目1札幌道銀ビル　電話 札幌 22)5756
金沢営業所　金沢市高岡町2番16号　電話 金沢 21)2074
福井出張所　福井市御幸2の1　電話 福井 24)2436
高松出張所　高松市2番丁9　電話 高松 21)5195
岡山出張所　岡山市大供380の1　電話 岡山 24)5486

空気調和　地盤凍結　冷凍冷蔵

精研冷機株式会社

本　社　大阪市南区瓦屋町3番丁68番地
(オートセンタービル2階)　郵便番号542
電話 大阪 (06) 761(代)1141～8番(直通)
東京営業所　東京都千代田区九段南2丁目2番5号
(九段ビル8階)　郵便番号102
電話 東京(03) 262－3241～4番

創業 大正二年　暖冷房・換気・温湿度空気調和 設計
病院諸設備・給排水衛生・水族館設備 施工

株式会社 斎藤省三商店

東京店　東京都千代田区丸の内2の2　丸ビル676号　電話 212(代)3751
大阪店　大阪市西区土佐堀通1の1　大同ビル616号　電話 443代 3361
札幌店　札幌市北十条西18丁目36番地　電話 61(代)4371
名古屋店　名古屋市中区栄3の5番29号　千代田ビル514号　電話 261(代)0641
京都店　京都市南区西九条春日町48番地　電話 681(代)1781

温湿度調整装置、暖房
冷房、水道、搬送機設備
設計並ニ施工

第一工業株式会社大阪支店

大阪市北区富田町30　電話 (364) 6661(代)
本　社　東京都千代田区丸ノ内3-3-1(新東京ビル)
電話 (211) 8511・8561(代)
仙台支店　仙台市新伝馬町60
電話 (21) 449 1
名古屋支店　名古屋市東区東門前町3－6
電話 (971) 3621

冷房・暖房・温湿度調整装置
換気・給排水・衛生設備
設計施工

第一企業株式会社大阪支店

大阪市北区北同心町1丁目57
電話 (351) (代表) 2808
本社 東京都文京区本郷1丁目12－5
電話 (814) (代表) 5151
支店出張所 名古屋・福岡・札幌・仙台・高松・広島

㊀ **平山工業株式会社**

衛生・空気調和設備 ・ 設計・施工

TEL (441)㈹ 1994.(443) ㈹0331 大阪市西区江戸堀通2の2

暖・冷房・空気温湿度調整装置
設計施工

高砂熱学

大阪支店 大阪市北区梅田8番地(新阪急ビル8階)
電話 大阪(312) 4521(代表)
本社 東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地

空気調和・恒温恒湿・冷凍・冷蔵
給排水衛生 設備 設計施工

㊀ 不二熱學工業株式會社

本店 大阪市南区順慶町2－50 電話 261－2436㈹
東京支店 東京都大田区西馬込1－2－1 電話 773－1231㈹
営業所 銀座・浜松・京都・神戸・福岡

Carrier
空気調和装置、各種冷凍機
設計・製作・施工

東洋キヤリア工業株式会社 大阪支店

大阪市北区堂島浜通1－25(新大ビル)
電話大阪(344)1512(大代)
本社 東京都中央区日本橋本石町4－2(三井第二別館)
支店東京・名古屋 出張所九州
工場埼玉県北足立郡・東京都足立区

冷暖房・温湿度調整・水道
衛生・環境衛生施設
設計施工

山田工業株式会社

本社 大阪市西区京町堀1丁目62 電話(443) 代表8161～9
支店 名古屋市中村区水主町1の12 電話(541)0966(551)1655
出張所 東京都港区赤坂2丁目3～12
赤坂ピークビル5階 電話 (583) 1467
神戸市生田区北長狭通7丁目1の1 電話 (34) 1778・4386

MODAIR
空気調和設備
換気・除塵設備 設計施工

東洋熱工業株式会社大阪支店

大阪市西区京町堀4丁目 TEL(443) 8071
本社 東京都中央区京橋2丁目9 TEL(562) 1351
支店 名古屋・福岡

空気調和装置・冷暖房・換気装置
ファン・ヒーター・クーラー
スチール・アルミ・サッシ・ドア・シャッター
設計・製作・施工

理研鋼機株式会社

大阪支店 大阪市東区高麗橋5－45(興銀ビル別館)
電大阪代(202) 7745番
本社・工場 東京都北区神谷3の10の8
電東京代(901) 3191番
空調事業部 東京都港区西麻布4-15-23(第5興和ビル)
電東京代(409) 0151番
支店 名古屋・仙台

温湿度調整・暖冷房・換気給排水・衛生設備
設計並施工

㊀ 日本管工業株式会社

代表取締役 市川繁雄

本社 京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681) 5101～5・夜間専用(691) 1045
大阪営業所 大阪市北区天満橋筋1－37(天満橋北詰)
電話 (352) 3501～3
四日市営業所 四日市市浜田西末広町 電話㊿7431～3
大津出張所 大津市打出浜13－15 電話 0775 ㉒9738
津営業所 津市栄町2－111 電話⑧3610

Carrier
冷暖房は CARRIER キャリア

東洋キヤリア工業(株)製品販売店・特約工事店
㊀ 日本冷熱工産株式会社
本社及大阪営業所 大阪市西区土佐堀通1－16(石川ビル)
電話大阪 (443) 3661～5

給・排水・衛生・消火・暖冷房設備

㊀ 株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市大淀区中津南通4丁目11 電話大阪(458)3531番
出張所＝京都・福岡

エレベータ・リフト・カーリフト
設計・製作

日本エレベータ工業株式会社

代表取締役 長尾正大

本社 大阪市大淀区天神橋筋六(天六阪急ビル) (351) 4927代
大阪営業所 (351) 4927代 サービス事業所 (328) 0364代
東京営業所 (822) 0995代 工場 (328) 0363代

各種電気工事設計施工
浅海電気株式会社
取締役社長　浅海正雄
本　社　大阪市北区老松町1丁目22
電話大阪(362)8701
東京支社　東京都新宿区戸塚1－95－7
電話(200)5911代表
支　店　名古屋・札幌・福岡
営業所　旭川・横浜・浜松・姫路・高松

電気設備 ε 設計施工
朝陽電気株式会社
代表取締役　山本博三
本　社　大阪市北区中之島3の3　朝日ビルディング
TEL　代表　(448)1361
営業所　大阪市西区土佐堀通り4の8
TEL　代表　(448)1361
営業所　京都市右京区西京極郡三反田町11の5
TEL　代表　(311)1185

電気工事設計施工
太陽工藤工事株式会社
取締役会長　西村庄市
取締役社長　小林四郎
本　社　大阪市福島区上福島北1－2
TEL(06)452－1151(代)
電力工事本部　大阪市此花区恩貴南之町73
TEL(06)462－1301(代)

電気設備工事設計施工
東光電気工事株式会社
大阪支社
支社長　姉川正男
大阪市東区高麗橋五丁目二八番地　電話大阪(202)0325～9番
本　社　東京都千代田区西神田1丁目4番地5号
支　社　札幌・仙台・丸ノ内・名古屋・福岡
出張所　旭川・白河・横浜・静岡・富山

電気工事・計装工事
設計施工
栗原工業株式会社
取締役社長　栗原信英
大阪市北区高垣町16番地(東阪急ビル)
電話　大阪(313)1101(大代)
支　店　東京・名古屋・舞鶴・大阪南・神戸・広島・九州

電気工事 中 設計・施工
中本電気株式会社
取締役社長　中本正明
本　社　大阪市城東区野江東之町三丁目一五
電話大阪(931)代表7341～5
0388・2193
資材倉庫　大阪市城東区野江東之町三丁目一一　電話大阪(931)7004
奈良営業所　奈良県御所市御国通り3・60　電話御所(2)2607・4259

電気工事設計施工
株式会社　**三興社**
代表取締役　林　敏夫
本　社　大阪市北区絹笠町50(堂ビル7階)
電話㊫3671(代)
支　店　東京都中央区日本橋箱崎町3丁目2番地
電話㊫1478(代)
出張所　川崎・相模原・堺・福山

各種電気工事設計施工・制御盤製作
野里電気工業株式会社
取締役社長　池内文夫
本　社　大阪市西淀川区柏里町1丁目110番地
電話大阪(472)代表1101～7
支　店　東京都品川区西五反田6丁目25番11号(福島ビル)
電話東京(491)1746(492)0182・0350
営業所　北九州市小倉区鋳物師町23番地
電話小倉(56)5665・5818
出張所　群馬・千葉・和歌山・名古屋

電気・暖冷房・空調工事設計施工
三宝電機株式会社
取締役社長　嘉納伝三
本　社　大阪市北区絹笠町五〇(堂ビル三階)
電話(364)1471(代)
支　社　東京都中央区明石町6－23(辻孝ビル)
電話(542)5641
営業所　名古屋市北区城見通二丁目二〇番地
電話(991)5131～3
出張所　神戸市・堺市・高槻市・姫路市

電気工事設計施工
富士電業株式会社
取締役社長　田中実
本　社　大阪市西区北堀江上通1丁目65
電話大阪(541)0564～7・7148～9
営業所　東京・名古屋・広島・福岡

電気工事・計装工事・設計施工
中央電気工業株式会社
取締役会長　今村騰
取締役社長　立石行男
本　社　大阪市北区梅ケ枝町56番地
電話　大阪　大代表(312)8881
支　店　東京・名古屋・四日市・神戸・和歌山
営業所　松山・京都・草津・静岡・水島・福岡

各種電気工事設計施工
株式会社　**ヤマト電気商会**
取締役社長　山本永造
本　社　大阪市北区西堀川町15番地
電話大阪(364)代3056
東京支店　東京都港区新橋5－34－6　相馬ビル5階
電話東京(434)3848・(431)8435
出張所　大阪南・札幌・名古屋・四日市・松山・徳山

奉仕感謝の店

タイル工事施工

特許申請中・完全滑止タイル

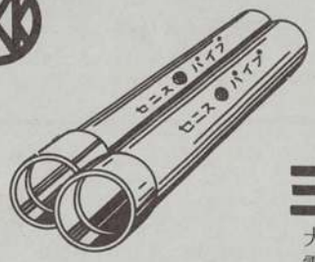
サンエス
SSS タイル新発売

（カタログ進呈）

株式会社 川岸窯業商店
大阪市西区靱本町２丁目９８　靱本町電停前
電話　大阪（532）０４６１～４番

窓掛、緞帳、日際、壁紙 室内装飾 絨毯、舗床材一般
東洋リノリュームの 東リカーペット 発売元

亀井株式會社
大阪市東区南久宝寺町四丁目（心斎橋筋）
電話　大阪（251）1353（代）～ 6・9996
営業所　名古屋・福岡

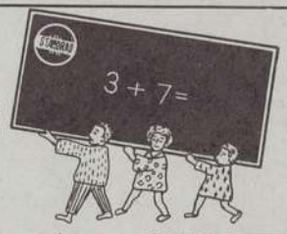


トラフ・ヒューム管
ベンチレーター・マンホール

株式会社
三幸商會
大阪市北区与力町一ノ一〇
電話　大阪(358)　４０３１

営業品目
● ウネボウゴーレックス防水
●化粧壁材ソリジットスタイン吹付
●樹脂砂壁エバーサンド吹付
●樹脂蛭石エバテックス吹付

合同特許建材工業株式会社
本社営業所・大阪市東住吉区駒川町３－54　電話(702)代7814～6
特約代理店・東京・名古屋・金沢・広島・今治・福岡



Standard Board&Slate
フタバ黒板
大阪市東住吉区桑津町三丁目１０１番地　電話大阪(717)4561～2

KANDAN
●空気調和設備　●給排水衛生設備
●各種送排風機　設計施工

関西煖房工業株式会社
本　社　大阪市住吉区万代東六丁目三番地　電話 大阪（672）大代表1281
出張所　名古屋・広島・福岡　　工　場　和泉・名古屋

特許　内外式　意匠登録
電動ベンチレーター
屋上強制換気装置製作のパイオニア

50年の豊富な経験と技術、研究により
1．最高の換気率　4．価格の低廉
2．スマートな外観　5．直傭工による施工の完璧
3．雨仕舞の完全　6．行届いたアフターサービス

近畿コカコーラボトリング美原工場
ＮＫ型口径 900m /m（モートル 3HP）40基

内外建材株式会社
本　社　大阪市西区江戸堀北通1－25（相生ビル）　ＴＥＬ(441)3983～4・4396
工　場　大阪市城東区天王田町１の１４１　ＴＥＬ(962)１１４９

内外式コンチニアスベンチレーター
筒型ベンチレーター
内外式ガラス屋根
内外式連続採光換気装置
設計施工

製造発売元・責任施工

特許ニッポン防水液
ニッポン防水液B号
ニッポン急結液壱号
ニッポン耐寒剤
ニッポン防水目地材
ビルコート

標準セメント防水剤

国立大阪工業試験所御剤参
特許 ニッポン セメント防水剤
強度増加○絶対防水○硬化促進

黒川化学のセメント防水

有限会社 黒川化学工業所
本店 工場 神戸市東灘区住吉東町2丁目5−15 TEL(852)723

内外

責任施工
アスファルト防水工事
セメント防水工事
アスファルトモルタル床舗装工事
耐酸アスファルト（樹脂）モルタル工事

N.G.C.式
米国パブコ・アスファルトコンパウンド
米国バイヤーライト・アスファルトコンパウンド
} 販売
各種シート防工事 責任施工
新防水材リベットルーフ 責任施工

内外工業株式会社
本社 大阪市阿倍野区旭町1丁目1番地30号 電話(641)3434〜6
(631)0810(夜間)
工場 大阪市東住吉区桑津町3丁目16番地

スチール
アルミ
ステンレス
サッシ・ドアー
カーテンウオール
シヤッター
三高式オペレーター・ドアーハンガー

TRADE MARK
M.T.K.S

株式会社 三高製作所
本社・工場 尼崎市神崎五反田280番地
電話 大阪(499) 8151 代表

近代建築の要求する
＊特許 小俣式 ステンレス・アルミニウム 防火シャッター

設計
製作
施工

小俣シャッター工業株式会社大阪支店
大阪支店 大阪市北区若松町30 電話大阪(364)9004・9016・4825
本社工場 東京都北区田端町1138 電話東京(893)5211〜5

コーキングパテ

ウヅラ印



柏原瀝青株式会社

本社工場　大阪市西淀川区御幣島東２ノ５　電話大阪(471)1493～4・8267
第二工場　大阪市西淀川区御幣島西３ノ99　電話大阪(471)　０４２６

パテタイル

全国で好評の……新興の内装壁材を！

新しい時代の新らしい壁
ヒル石基材の燃えぬ壁材

ダイシンコート

（特長）

・耐火　・耐水　・耐アルカリ　・防音　・保温　・吹付　・塗付

革新塗料現る

①ソフトな感覚、優雅な味
②ペイント塗料に優る
③塗りかえ自由
④安価で塗りよい
⑤吹付施工も自由
⑥洗いも下地も自由

繊維塗料の
シンコゾール

全国有名建材店又は当社へ

繊維壁材（通称）わたかべ

耐水、耐アルカリ性時代来る

漆喰差支なし
ドロマイドプラスター
セメントモルタル地下
落ちない
塗り良く
塗面が強く
水に強く
（特長）

・すゝき
・すゞか
・新いすゞ
・四香
・七宝
・錦紋
・王座

●カタログお送りします

発売元

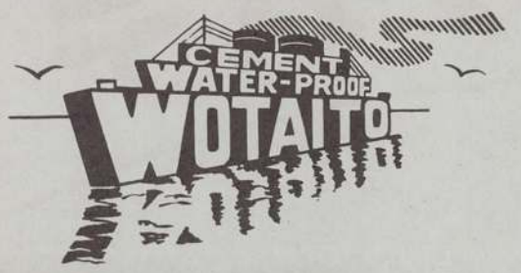
（株）新興建材工業所
大阪市西区南堀江通６丁目39番地　TEL 大阪(538)2951～5・(541)5757～9
営業所　東京・高槻・明石・姫路・四国・中国

新興壁材工業（株）
大阪市住吉区粉浜本町４丁目２６番地　TEL 大阪(672)１６６１～３

（株）九州新興建材工業所
福岡市上牟田八田町２６の１　TEL 福岡(41)５２２５～６

日本建築協会優良証明

セメント硬化促進増強防水剤



ウォータイトB号

合成樹脂系防水剤　スーパーウオータイト
合成ゴム系防水剤（クロロプレン系）　ウオータイトK
合成ゴム系防水剤（ポリウレタン系）　ウオータイトU

JIS合格品
御一報次第型録並仕様書進呈

ウォータイト式防水工事代行店
安藤工事　TEL福　岡（28）5207
川添商店　TEL鹿児島（51）0001
大三工業　TEL高　松（51）6811
伊東工業　TEL徳　島（52）6880
豊永建材　TEL広　島（61）6371
東邦防水　TEL札　幌（82）3133

株式会社 日本セメント防水剤製造所

大阪事務所　TEL大　阪（941）2626・2628
宝塚市高台　TEL宝　塚（86）2　1　5　3
名古屋出張所　TEL名古屋（331）1　5　3　1
仙台出張所　TEL仙　台（23）0　7　2　1
東京出張所　TEL東　京（431）8　6　4　8

特許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

燃えない
われない
腐らない

長尺物・色彩自由・責任施工

品種　オリエンタルメタル（O.P.M）
オリエンタルスーパーメタル（S.P.M）
オリエンタルカラードメタル（C.P.M）
カラースーパーオリエンタルメタル（C.S.P.M）

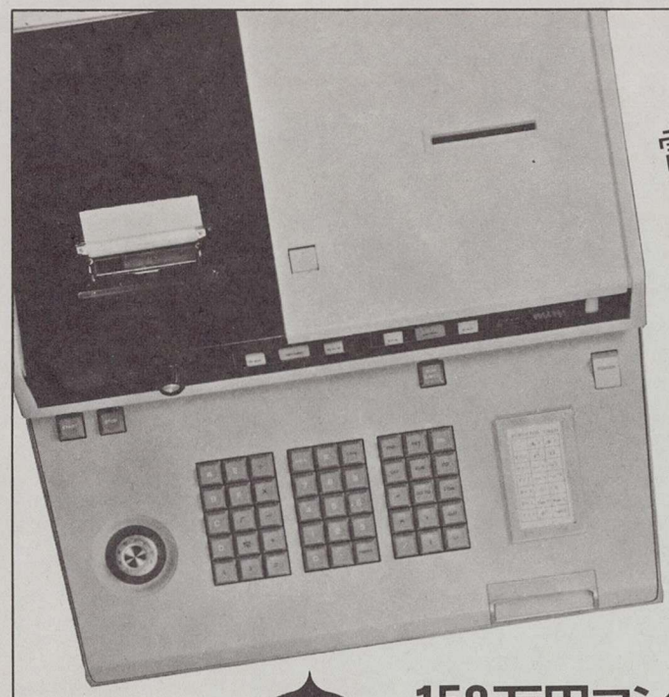
波板規格　S小波　S大波　V波　ボックス波　Wジャンボ波

用途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
通風器・排気ダクト・モニター

カタログ御請求下さい。

オリエンタルメタル製造株式会社

本社　兵庫県尼崎市昭和南通り3－26松本ビル　電話　大阪（412）5131代表
東京支社及工場　埼玉県蕨市塚越5丁目6番32号　電話　蕨（42）3115～8
大阪支社及工場　兵庫県尼崎市長洲稲川新田44　電話　大阪（488）1081代表
九州支店及工場　福岡県遠賀郡水巻町頃末　電話　八幡（69）2831～4
名古屋支店及工場　名古屋市中村区泥江町1の24第2中経ビル　電話　名古屋（581）2781～4



電卓はもちろん
大形コンピュータでも
苦手な複雑計算を
とにかく、やさしく
こなしてくれる
デスクトップ・コンピュータ

150万円コンピュータ
HITAC mini

技術の日立

日立製作所 大阪営業所
大阪市東区北浜４－６（日生日立ビル） ＴＥＬ(203)5781大代

ニードルパンチカーペットの決定版

ユーロン®パンチョス

ポリプロ 70％ ナイロン 30％

P.Pの特性とナイロンの特徴を最大限に生かし、独特の新方法を加え、
ニードルの欠点を全く解決した驚異的な……パンチョス

表に特殊加工（特許申請中）
裏に合成ゴム（特許）

ピリングを防止し、伸縮がなく、耐摩耗性にすぐれ、耐久力は抜群……
土足のところに絶対強く、フレヤーの起らない……ユーロンパンチョス

本州・四国・九州地区発売元 装栄株式会社
北海道地区発売元 株式会社 三晃

電植、ナイロン100％

ニチレ®ナイロン ユーロン®カーペット

デラックス……スベリ止め加工、重量感のある豪華さ。
スタンダード……裏は板ゴムで特に工事向の価格。

TSK 大誠化工株式会社
本社 大阪市東区安土町１丁目23(新船場ビル) 電話 (06)261－5716(代表)
工場 京都市南区吉祥院西ノ庄向田町８ 電話(075)313－8834(代表)

タイプ
TAIP工法
にはハンマー不要です
〈完全無音無振動既製杭工法〉

従来の既製杭を利用して杭打施工時の
振動・騒音を完全に追放しました!!


★御一報次第カタログ進呈

■主な特長

1.ネジ込力を杭押込力に変えるので完全無振動無騒音です。
2.根入長さが長く安定した支持杭が施工出来ます。
3.スライムの沈積はありません。
4.完全に支持層に岩着させるので大きな支持力が期待出来ます。
5.何米でもヤトイ杭で納められ地下室のある建築に最適です。

TAKECHI 株式会社 武智工務所

■本　　社　大阪市東区高麗橋2の20(高麗新ビル) TEL大阪(202)3233(代)
■名古屋支店　名古屋市中区錦1－3－2(殖産ビル)
■福岡支店　福岡市赤坂1－15－33(第二菊陽ビル)
■営業所　東京・静岡・富山・広島・熊本・鹿児島　■工場　大阪・名古屋・鹿児島

モルタル・コンクリート用

マノール 防水剤



ご一報次第
カタログ進呈します

＊マノール防水剤はセメントの加水分解生成物である水酸化石灰と化学的に結合し、硬化機構を妨げることなくセメント粒子に撥水性を与えて毛細管の表面張力を低下させ、吸水性を減少させます。

＊AE効果により適量の空気を連行し、気孔を閉塞することなくセメント・プラスター及び砂の粒子に対し分散性を与えワーカビリティーを向上させます。また特有な粘着性によって材料分離、レイタンスの発生を防止します。

＊セメントと結合した生成物は永久不変質の物質で、水や空気中の塩類、酸類も作用せず、セメントの中性化を防ぎ、鋼材、木材等の腐蝕・腐朽を防止して構造物の耐久性を高め、その防水・防湿効力は恒久的です。

その他マノール製品
急結剤・接着剤・剥離剤・早強剤・防凍剤
エスコート(セメント起泡剤)・**エアコール**(場所打ち杭工法添加剤)

セメント混和剤・助材綜合メーカー

株式会社 油脂化工社

東京都品川区大井1－15－1　☎ 東京 (774)4111代表

関東営業所	茨城県土浦市大町1213	☎ 土浦 (21)5189
東北営業所	福島県福島市下野寺字遠原	☎ 福島 (34)7111
盛岡営業所	岩手県盛岡市南大通3－12－50	☎ 盛岡 (24)0213
大阪営業所	大阪市東成区東中本2－17－26	☎ 大阪 (971)4765



全く新しい床タイルです

三星ピサロンは、従来のビニールタイルとは製法原料配合が全く違います。塩ビの他に最近開発された新しい共重合体の特殊樹脂を用いた画期的な新製品です。軟質プレスタイプの床タイルに比べ仕上り安定性がよく、カレンダー方式の流れ模様とは対照的な静止した現代模様。ピサロンの持つエラスチックで高級な質感、すぐれた歩行感は、床タイルの新しい世界を開きました。

協同組合員が責任をもって施工いたします

三星ピサロンは、材料だけの販売はいたしません。責任施工の出来る協組員が入念な仕上げをします。

これからはピサロンの時代です

三星ピサロンの新しい色調、パターンは、現代のインテリアデザインに要求される個性的な床造りには欠かせません。東京浜松町の超高層世界貿易センタービルの４F以上の各階通路、エレベーターホールにも、使用されております。〝三星ピサロン〟はその模様がフランスの画家ピサロのタッチに似ていることから、名付けられたものです。

東日本床工事事業協同組合
西日本床工事事業協同組合
〈専用品〉

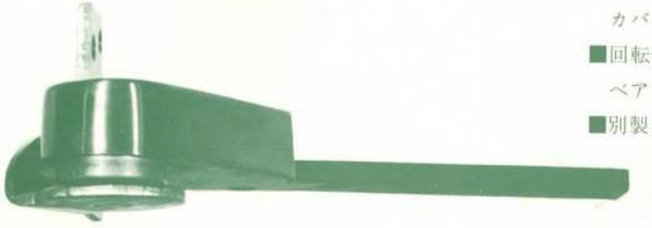
三星タイル
ピサロン

★規格＝333.3　×333.3　×２㎜　９枚／㎡
　　333.3　×333.3　×３㎜　９枚／㎡
★色数＝18色
★価格＝２㎜厚品　1,200円／㎡（300㎡以上）
　　３㎜厚品　1,800円／㎡（300㎡以上）
　　小部屋割増・階段40％高

製造元＝田島応用化工株式会社
東京／東京都千代田区岩本町３の１１
電話　(866) ６１０１
大阪／大阪市西区京町堀１の７４
電話　(441) ５９５１

建築と社会 “ARCHITECTURE AND SOCIETY” 第52輯第4号
■昭和46年4月25日発行(毎月1回25日発行)・昭和24年3月19日第3種郵便物認可

サンエイ
●回転軸部にナイロンベアリングを採用した耐久品
立枠付 ピボットヒンジ

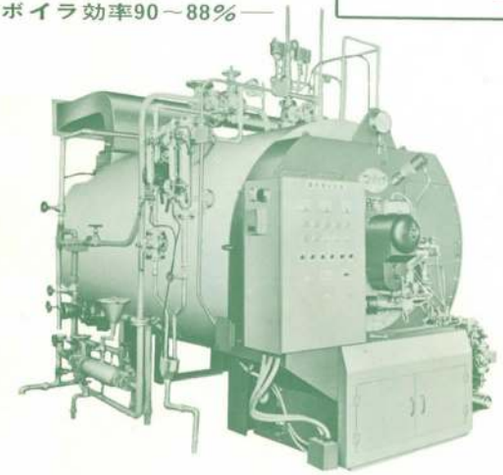
■本品は特に各部品の材料を吟味し、表面が錆びないようボンデライジング加工を施した上に**防錆塗装**をしております。
■焼付塗装仕上製品の他に、他の持出し吊の腕部(吊込後扉から露出する部分)にSUS27(18.8)**ステンレス製ヘアーライン仕上**の化粧カバーを付けてあります。
■回転部分にナイロンベアリング及びスラストベアリングを嵌入してあります。
■別製の設計製作をも歓迎致します。

■弊社製立枠付ピボットヒンジは……
実用新案登録第517316号の立枠には何んら低触致しておりません。

三榮建材工業株式会社 555
本社 大阪市生野区巽矢柄町151 ☎(06)751−3653〜5／東京出張所 東京都墨田区本所2−11−11 ☎(03)623−7677

世界に誇る MPボイラ
セントラル・ヒーティングの決め手
住宅向 温水ボイラ
ウエル・マクレーン

MPボイラ 800型
—ボイラ効率90〜88%—





米国ウェル・マクレーン社・鋳鉄製
14,000Kcal/h〜550,000Kcal/h
ガス・A重油・灯油・軽油

特長
○鋳鉄製により寿命は永久的
○タンクレスヒーターの使用により1台で給湯暖房が同時に可能
○コンパクトなタイプにより据付面積は小さい
○他に類をみない静かな運転音

〈その他の営業品目〉
○熱媒ヒータ
○染色排水処理装置
○排液処理装置

株式会社 平川鉄工所
本社 大阪市大淀区大淀町北1—11
TEL.(06) 458—8681 (代)
東京・名古屋・福岡・札幌

■ご入会のお申込は・社団法人 日本建築協会 〒541 大阪市東区北浜3−37 電話大阪(06)231-9648・9649・9640 振替口座大阪39975番

定価 300円(送料共)